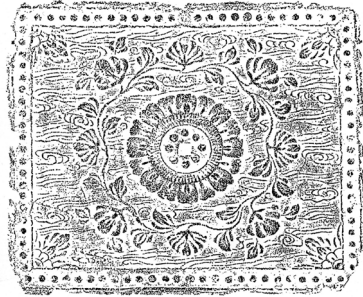


九州歴史資料館年報

平成 25 年度



九州歴史資料館

はじめに

九州歴史資料館は、古くから中国大陸、朝鮮半島など対外交流の窓口としての役割を果たしてきた九州の歴史を明らかにするべく、大宰府及び関連遺跡の発掘調査・研究を行ってきました。また、古文書、美術工芸品や考古資料等の収集・保管及び調査を行い、併せてその成果を展示、公開してまいりました。

平成 23 年度からは組織規則の改正に伴い、福岡県教育庁総務部文化財保護課で実施してきた埋蔵文化財の発掘調査業務を当館に移管しました。新設された文化財調査室において、発掘から報告書作成までの一連の作業を集中して行うことで、より効率的な業務の遂行を図っています。

この年報は、当館が平成 25 年度に実施した調査・研究・普及等の諸活動と事業の概要を報告するものです。

発掘調査については、大宰府史跡の第 9 次 5 ヶ年計画の 2 年次にあたり、政庁周辺官衙跡のうち蔵司地区についての調査を行いました。また、東九州自動車道関係や県営ダム等の建設に関わる発掘調査も行いました。

展示については、常設展示のほか特別展示「戦国武将の誇りと祈り—九州の覇権のゆくえ—」及び企画展示やパネル展示、特集展示を多数開催いたしました。

普及事業については、広く一般に受講者を募った「九歴講座」・「名誉館長講座」・「九歴ゼミ」を開催し、その他、学習支援、出前講座及び九歴ボランティアを中心とした体験活動を展開しました。これらの事業により歴史資料館としての活性化を図るとともに、文化財愛護思想の普及に努めているところです。

当館は、九州の文化財の調査・研究の拠点として活動するとともに、今後ともより一層県民に親しまれる身近な資料館づくりに努力してまいりますので、今まで以上に御支援をお願いいたしますとともに、御利用願いたいと考えております。

この年報が多くの方々に御活用いただければ幸いに存じます。

平成 26 年 7 月

九州歴史資料館長

杉 光 誠

目 次

1 事業概要	1
(1) 調査・研究	1
(2) 展 示	22
(3) 資料利用	31
(4) ボランティア	36
(5) 普及活用事業	39
(6) 刊 行 物	52
(7) 実習・研修	53
(8) 交流事業	54
(9) 協議会等	55
2 九州歴史資料館概要	56
(1) 沿 革	56
(2) 施設概要	57
(3) 予 算	57
(4) 組織・職員	58
(5) 関係法規	59
3 諸 統 計.....	65
(1) 入館者状況	65
(2) 収蔵資料・図書	65
4 日 誌 抄	66

1 事業概要

(1) 調査・研究

【学芸調査室学芸研究班】

◎美術工芸資料に関する調査研究

造形遺品を対象として調査研究を進めている。対象としているのは、仏像や仏画などのいわゆる仏教美術が主であり、時代としても古代から中世にかけてが主となっているが、その他の絵画や工芸品にまで目配りをするよう、そして時代としても近世以降も対象とするように心掛けている。このような調査研究を通して、九州や現在の福岡県域が、わが国の歴史の中で、また東アジアの歴史の中で、どのような特色をもち、どのような役割を果たしてきたのか、その一面を明らかにするべく努めている。

○主要寺社の調査研究

造形遺品が集中する場として、寺社が挙げられる。そこで、地域の歴史において中核的な役割を果たしてきた寺社をとり上げ、そこに伝えられている造形遺品を中心とした文化財を悉皆的に調査して、当該寺社を総体として捉え、さらにはそれを通して地域の特色を把握できればと考えて、主要寺社の調査を行ってきた。今後は加えて、ある特定の寺社のみならず、特定の地域の造形遺品について集中的に調査を行い、その地域の特色を浮かび上がらせる試みなども、行っていくことにしている。

25年度は、九州を代表する霊山のひとつである、英彦山の国史跡指定へ向けた文化財総合調査の一環としての、山内の美術工芸資料調査に力を入れた。24年度に、英彦山神宮所蔵品をはじめとする山内の代表的な文化財の多くを収蔵展示している英彦山修験道館から調査を開始し、彫刻、絵画、工芸等の美術工芸資料についての、調書作成と写真撮影と進めていたが、引き続いて英彦山修験道館にて調査を進めて、一部を除いて完了した。その後は、主として坊に伝わる文化財を収蔵展示している山伏文化財室に調査の場を移し、ここに所在する彫刻、絵画、工芸等の美術工芸資料についての調書作成と写真撮影を進め、これを完了した。

26年度については、英彦山修験道館、山伏文化財室における補足調査を適宜行いつつ、基本的な調査の場を坊に移し、ここに伝わる美術工芸資料について調査を進めていく予定としている。坊に関しては、時間的制約から悉皆調査は不可能であるが、代表的、典型的なものについては、可能な限り調査を行うことにしている。またこれまでは、神像や仏像をはじめとする信仰に関わる造形遺品を主対象としてきたが、英彦山は文人墨客たちの聖地でもあったことにも鑑み、仏画以外の絵画資料なども、調査対象としていくように努めたい。

なお、英彦山修験道館所在の美術工芸資料の全容を把握し、一部を除き調査を完了し、山伏文化財室所在の美術工芸資料の調査を完了した今となっても、神像や仏像に関しては、平安時代に遡る作例は皆無である。これは鎌倉時代から南北朝時代にかけての作例が、



旧霊仙寺 大講堂 丈六像断片

少なからず見出されている中であっては注意される状況であって、美術工芸分野から見ると、やはり英彦山においては平安時代から鎌倉時代間の山内で、何か大きな変化があったのではないかと見える。考古学等他分野の成果を参照しながら、この平安時代と鎌倉時代以降との対照的なあり方の意味を考えることは、英彦山の歴史をみる上で重要なことであろう。引き続き他分野との情報や意見の交換にも努めたい。

○寺社及び個人所蔵作品の調査研究等

25年度は、当館も主催者として加わった、九州国立博物館と太宰府天満宮宝物殿を会場とする、九州国立博物館のトピック展示「山の神々―九州の霊峰と神祇信仰―」（会期：平成25年10月22日～12月1日）に関連して、近年調査に携わってきた宝満山と英彦山の他に、展覧会準備のために、福岡県国玉神社の平安時代後期の木造神像群、同県蔵持山神社の宝治元年（1247）の十一面観音懸仏、熊本県千光寺の平安時代後期の十一面観音立像、同県釈迦院の仁治3年（1242）の男女神坐像、長崎県多良岳伝来の不動三尊像などの調査を行った。その成果については同展と同展図録に反映させている。

また同展は、九州国立博物館で平成25年10月26日（土）・27日（日）の両日にわたって開催された、第34回日本山岳修験学会と連動するものであったが、当学会においても、近年当館が調査研究を進めている、九州西側にだけ遍在し霊山における所在例も少なくない、中国製石塔である薩摩塔について当館の学芸員が研究発表を行い、シンポジウムでの討論に参加した。この薩摩塔に関しては、平戸市北部公民館にて平成26年3月15日（土）に開催された石造物研究会でも同様に研究発表を行い、シンポジウムに参加している。薩摩塔に関しては、美術工芸の分野よりも、むしろ考古学や歴史学等他分野での関心の方が高くなっているが、引き続き彫刻史的な研究の深化にも努めたい。

その他、概要や主要調査先等は後掲する。

平成26年2月23日（日）～3月12日（水）にかけて、日韓学術文化交流事業で、当館の学芸員が大韓民国にて調査研究と研究発表とを行った。調査研究の対象は仏像と石塔で、国立中央文化財研究所で行った研究発表においては、韓半島西側にも存在している可能性がある薩摩塔についての情報を得るため、「薩摩塔―九州に偏在する中国製石塔―」と題して発表した。ただし現在の所、韓半島で薩摩塔の所在は確認されていない。

○文化財の保護活動

当館では、現地での保管が困難ないしは危険であり、かつ当面所在地を離れても地域の信仰文化に深刻な影響を与えることはないと判断される、文化財としての意義をもった仏像や神像、仏画等々について受け入れを行っている。この際は、緊急避難を受け入れた上で、地元的环境を整えることに協力し、整えば再び地元で保管するということを、理想として心掛けている。



個人蔵 薩摩塔（宝満山伝来）



慈恩寺 聖観音坐像

また近年では、文化財の収蔵庫が経年劣化して改築や修理を行う場合がまあり、その際の緊急避難を受け入れている。25年度については、大川市の慈恩寺の聖観音坐像について、収蔵庫の修理の間、受け入れて保管した。同像は福岡県指定文化財であり、福岡県内きっての鎌倉時代の仏像の一つである。保管と併せて、X線CTスキャナを使った自然科学的調査をはじめとして、撮影や各種調査も行っているが、その成果についてはまた別途報告を行いたい。

◎考古基準資料調査

○県内山岳霊場遺跡の調査

25年度は、福岡市西区今宿上ノ原所在の鉢伏山金剛寺跡の調査を行った。調査は境内平面図の作成ならびに境内所在の石塔類5点の実測調査である。この成果については、26年3月に刊行した『九州歴史資料館研究論集』39に「鉢伏山金剛寺跡一脊振山系の山岳霊場遺跡の一様相一」として公表し、共に考察を行っている。

○重要文化財福岡県栗田遺跡祭祀遺構出土土器保存修理事業

当館では、文化庁が所蔵する重要文化財栗田遺跡祭祀遺構出土土器を長期保管しているが、発掘調査報告書の整理・報告時に簡易的な復元作業がなされただけであったために、長期の経年変化により、修復が必要な状況にあった。そのため、文化庁では、23年度より約5か年の計画により、当該資料の保存修理作業を行うこととなった。

文化庁としては、事業を行うにあたって、協力者会議（委員：西谷正・武末純一・重藤輝行）を発足して、23年度に会議を行い、その後保存修理業者の公募・選定を行った。その結果、（財）元興寺文化財研究所に修理を委託することとなった。

事業の3か年目に当たる25年度は2号甕棺（上）、20号甕棺（上・下）、36号甕棺の計5点が修理の対象となり、当該資料は元興寺文化財研究所にて保存修理が行われた。保存修理の工程は、①保存修理前の調査・記録、②解体、③クリーニング・材質強化（アクリル樹脂含浸）、④接合・組立、⑤復元充填（エポキシ樹脂による）、⑥仕上げ・補彩、⑦保存修理後の調査・記録、の順に進められ、終了後、保管箱を作成の上、当館に搬入、収蔵された。26年度以降も継続して実施の予定である。

○福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査

福岡県には、中世から近世初頭、特に戦国時代には大名や在地領主によって、各地に1,000か所を超える多くの城館が築かれた。これらの城館については各種開発事業の対象となる事例も増加しており、事業の必要性からやむを得ず記録保存の対象となったりする事例が増加している。

こうした現状に対し、県教育庁総務部文化財保護課が、文化庁の国庫補助事業において24年度より県内に所在するすべての中近世城館遺跡を対象に、総合的な緊急分布調査を約5か年かけて行うこととなった。当該事業の調査担当として、学芸研究班学芸員2名が調査にあっている。24～25年度にかけては筑前地域を対象として、既存資料の把握・整理を行い、25年度末に『福岡県の中近世城館跡Ⅰ－筑前地域編1－』（福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査報告書1）を刊行した。26年度以降も継続して調査を進める予定である。

◎文書・典籍資料の調査研究

当館では、古代から近現代におよぶ各時代の古文書・典籍資料のほか、出土文字資料や写真・映像資

料など、広く記録資料を対象として、福岡県域そして九州の歴史的な役割・特質を明らかにすべく、調査研究活動を行っている。

○出土文字資料の調査研究

出土文字資料の調査研究としては、『大宰府政庁周辺官衙跡V－不丁地区 遺物編2－』の刊行に向けて、大宰府史跡出土木簡・墨書土器等を対象とした赤外線スキャナを用いた調査により、釈文の再検討を継続的に行い、多くの新しい知見を得た。また、奈良文化財研究所の協力を得て、大宰府史跡及び延永ヤヨミ園遺跡出土木簡の可視光・赤外線両方の写真撮影を行った。

○福岡県史編纂史料等の調査研究

福岡県史編纂史料は、22年度の当館の移転開館に伴い、新たに収蔵した約15万点の史料群である。移管後は、閲覧・レファレンスのほか、未整理史料の整理を引き続き実施し、一方で展示への活用や調査研究も積極的に行っている。このほか、旧筑豊工業高校資料、太田静六資料等の館蔵資料についても、引き続き調査研究・整理作業に努めている。これらの成果の一部は、企画展「太田静六が見た福岡の建造物～太田静六資料展～」において公開したほか、『九州歴史資料館研究論集39』でも報告している。

あわせて25年度は、企画展「五卿西竄150年 五卿と志士－維新前夜の太宰府－」の開催に向けて当館が長期借用している太宰府市陶山家資料についても写真撮影を含む調査を実施し、その成果は本展図録に収載している。

○県内所在資料の調査研究

24年度より、添田町による英彦山の国史跡指定に向けた文化財総合調査の一環として、英彦山ゆかりの古文書調査を開始している。古来、修験道の霊場・信仰の聖地として多くの崇敬を集め、宗教・地域権力として多彩な活動を繰り広げた英彦山は、時の政権や朝廷、九州の諸勢力とも密接な関係を持ち、その信仰圏は九州の全域に広がっていた。この九州を代表する霊山・英彦山について、その活動の中核である神社や旧座主家に残る古文書資料をもとに調査研究し、且つその保存・活用の基盤を整えるものである。25年度には、英彦山の旧座主家文書（高千穂（上）文書）と英彦山神社文書の調査を中心に実施し、文書目録を作成した。引き続き報告書の作成に向けて調査研究を進めるとともに、山内に残る松養坊や了乗坊などの坊家等の資料についてもその概要と保存状態の把握に努めていく。また、これらの調査研究成果については、当館常設展示における特集展示「近世英彦山の古文書」「彦山・宝満山の本末争論」において旧座主家文書（高千穂（上）文書）を中心に紹介したほか、当館・九州国立博物館・太宰府天満宮の三者主催で開催した九州国立博物館トピック展示「山の神々－九州の霊峰と神祇信仰－（竈門神社肇祀1350年記念）」においてもおおいに活かされた。

同じく24年度より、福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査として、関係文献資料調査を実施している。こちらは既刊史料の集成が主な作業内容になるが、県下全域における中世～近世初頭の史料を対象として、網羅的に実施するものであり、大きな意義を持つ調査である。25年度は主として筑前地域を対象に行い、その成果は同調査報告書に一覧として収載している。

このほか、県外所在の資料であるが、九州国立博物館への調査協力として武雄鍋島家資料（佐賀県武雄市）の調査を実施した。武雄鍋島家資料は、江戸時代の武雄領主鍋島家に伝わる歴史資料群で、特に佐賀本藩に先駆けて積極導入された蘭学・洋式軍事関係資料が充実する。この度、当該調査の成果により、「武雄鍋島家洋学関係資料」（全2,224点、武雄市所蔵）として国の重要文化財に指定された。

○音声記録資料の受け入れ

大阪府内にて活動を行っていた「東アジア古代文化を考える大阪の会」の昭和 50 ～ 60 年代頃の定例講演会の収録テープを保有されていた大阪府在住の個人の方から、講演会の音声資料（カセットテープ）241 点について、当館への寄贈の申し出があったため、平成 26 年 3 月 26 日に受け入れを行なった。江上波夫氏や上田正昭氏など、東アジアの古代史に関わる研究者の講演音声を中心となっており、非常に重要な資料群である。今後、整理・データ化を進め、将来的には公開・活用を図りたい。

【学芸調査室調査研究班】

25 年度に実施した発掘調査は、大宰府史跡の発掘調査 8 件、大宰府史跡関連の共同調査 1 件の合計 9 件である。正式報告書は 2 冊を刊行した。

◎大宰府史跡の発掘調査・報告書作成

25 年度は大宰府史跡発掘調査第 9 次 5 ヶ年計画の 2 年次にあたり、「大宰府政庁周辺官衙跡蔵司地区の調査研究方針」に基づいて蔵司地区官衙跡の発掘調査を実施した。また、大宰府政庁前を東西方向に通る県道太宰府筑紫野線の防護柵設置に先立ち、史跡指定範囲外の部分において確認調査を実施した。観世音寺子院跡では住宅建設に伴う届出が 2 件あり、確認調査を実施した。

大野城跡については、24 年度に続き、クロガネ岩城門跡の調査を実施した。また、文化財保護課主体の大野城跡環境整備事業に伴い、増長天地区礎石群の発掘調査を実施した。

水城跡については、100 年前に国鉄鹿児島本線拡幅工事に伴って調査されたか所と同じ場所の発掘調査を行った。これは福岡県文化財保護課主体の水城跡公開活用事業に関連するもので、平成 26 年度に現地説明会を開催する予定である。

また、報告書は大宰府政庁周辺官衙跡の正式報告書である『大宰府政庁周辺官衙跡 V－不丁地区遺物編 2－』及び年次報告書である『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅷ 平成 24・25 年度』を刊行した。

調査回数	調査地区	調査地区略称	面積 (㎡)	調査期間
大宰府史跡第 218 次調査	観世音寺子院跡		3.6	130627
大宰府史跡第 219 次調査	観世音寺子院跡		6.8	130702
大宰府史跡第 220 次調査	蔵司地区官衙跡	6AYT-AI・J・V	77	130724～140331
大宰府史跡第 221 次調査	来木・蔵司地区官衙跡	6AYL-AD・G	16	131211～131212
大宰府史跡第 222 次調査	丸山遺跡（水城跡関連）		16.25	130725
大野城跡第 54-2 次調査	大野城跡（クロガネ岩城門跡）	6AON	71.6	131001～140331
大野城跡第 5-3 次調査	大野城跡（増長天地区）	6AON	16	140128～140331
水城跡第 58 次調査	水城跡（JR 水城駅付近）	6AMK-L	98	131219～140331

○大宰府史跡第 218 次調査（観世音寺子院跡）

住宅建設に先立つ確認調査である。調査地は観世音寺子院跡であり、重機により掘削したところ、地表下 1.6 m までは表土や区画整理時の盛土（真砂）で、その下に旧耕作土があり、地表下 1.9 m で子院跡に関連する可能性がある遺構面を確認した。

○大宰府史跡第 219 次調査（観世音寺子院跡）

住宅建設に先立つ確認調査である。調査地は観世



大宰府史跡第 218 次調査 土層堆積状況

音寺子院跡であり、調査区を2か所に設定し、重機により掘削した。地表下1.7～2.1mにおいて谷部の自然堆積層を確認し、さらに地表下2.8mまで掘削したが、地山や遺構面の確認には至らず、崩落の危険もあるため埋め戻した。

○大宰府史跡第220次調査（蔵司地区官衙跡）

政庁周辺官衙跡・蔵司地区における計画調査である。蔵司地区は調査対象面積が3万㎡にも及ぶため、A～Gの7地区に分けて、21年度から遺跡の残存状況や現在の地形の形成過程を把握する確認調査を行っている。25年度は確認調査の最終年度としてC・D地区を調査対象とした。

調査の結果、大型礎石建物SB5000の周囲に残る基壇状の地形は、近現代の造成によって形成されたもので、後世にかなりの地形改変を受けていることが判明した。それでも、建物の西側や北側では古代の整地層を確認し、古代大宰府の時代に丘陵上にも造成が及んでいることを確かめることができた。また、SB5000東側の一段下がった平坦面においても、後世の削平を受けていたものの、古代の整地層を確認した。D地区においては後世の造成土中から被熱鉄製品が多量に出土しており、丘陵全体の確認調査の結果からみても、それはSB5000のあるD地区に集中する傾向にある。

なお、現地説明会は2回行った。1回目は一般を対象として10月26日（土）に実施し、約60名の参加があった。2回目は地元の坂本・観世両地区を対象として平成26年3月13日（木）に実施した。

○大宰府史跡第221次調査（来木・蔵司地区官衙跡）

県道太宰府筑紫野線改修に先立つ確認調査である。調査地は、政庁周辺官衙跡の区分では来木・蔵司地区の最南端に位置し、それぞれ1か所ずつの調査区を設定した。来木地区側の調査区では地表下0.7mで遺構面となり、柱穴とみられる遺構を確認した。ただし、調査区北側は道路に沿って設けられている水路の護岸工事の際に削られていた。一方、蔵司地区側の調査区では地表下1.0mで中世期までの遺物を包含する自然堆積層を確認した。ちょうど来木・



大宰府史跡第219次調査 土層堆積状況



大宰府史跡第220次調査 現地説明会風景



大宰府史跡第221次調査 遺構検出状況



大宰府史跡第222次調査 土層堆積状況

蔵司両丘陵の間にある谷筋の延長上に位置することから、谷部の堆積層と考えられる。崩落の危険から下層の状況については確認できなかった。

○大宰府史跡第 222 次調査（丸山遺跡（水城跡関連））

住宅建設に先立つ確認調査である。調査地は水城跡の北側に接する丸山遺跡の南端にあたる。3か所の調査区を設けて重機により掘削したところ、地山より上には粗砂層と腐植土層が交互に堆積しており、谷部における自然堆積層と考えられ、水城の土塁裾から北に 60 m 強のあたりで水城側に向かって傾斜する地形の変化を確認したものの、水城外濠の北岸の確認には至らなかった。

○大野城跡第 54- 2 次調査（クロガネ岩城門跡）

クロガネ岩城門跡の確認調査であり、城門跡周辺における土塁等の残存状況や城門前面部の遺存状況の把握を目的として実施した。調査の結果、城門の前面側は大部分が崩落しており、推定される懸門構造に関連する遺構などは確認できなかった。ただし、崩落面の精査により城門下部の盛土が一部残っていることが判明した。また、土塁の頂部では石敷状の遺構を確認し、岩盤を削り版築盛土を行っていることが明らかとなった。城門背後では犬走り状の段地形や城内側へ向かう通路に関連するとみられる遺構も見つかった。なお、城門部から百済系単弁軒丸瓦片が出土し、本城門が 7 世紀後半まで遡る可能性が高くなった。

以上の成果をもとに平成 26 年 3 月 23 日（日）に現地説明会を開催し、約 50 名の参加があった。

○大野城跡第 5- 3 次調査（増長天地区礎石群）

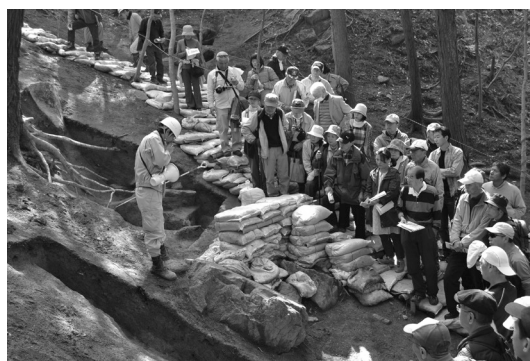
調査地は増長天地区礎石群であり、昭和 48 年度に整備に伴って発掘調査がなされた。25 年度は SB0403 のトレンチ 2 か所を再調査し、礎石の据付穴や雨落ち溝を確認した。なお、調査は 26 年度まで継続する予定である。

○水城跡第 58 次調査

調査地は JR 水城駅付近の土塁の切り通し部分である。100 年前の調査と同じ箇所を調査し、土塁の最下層から最上層までの断面を検出した。また、積土最



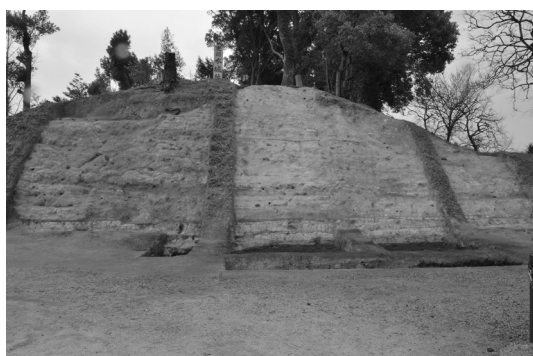
大野城跡第 54- 2 次調査出土百済系軒丸瓦



大野城跡第 54- 2 次調査現地説明会風景



大野城跡第 5- 3 次調査遺構検出状況



水城城跡第 58 次調査土塁断面

下層基盤付近では敷粗朶を確認した。

◎大宰府史跡調査研究指導委員会

大宰府史跡については、調査研究を推進するにあたって遺跡の性格上あらゆる分野から総合的に取り組む必要があるため、考古学・歴史学・建築史学・造園学・都市工学・土木工学などの専門家で構成する「大宰府史跡調査研究指導委員会」を設置し、同委員会の指導のもとに5ヶ年計画を策定し、その計画に従い調査を進めている。

25年度の指導委員会は、10月17日（木）・18日（金）の両日に開催した。25年度は第9次5ヶ年計画の2年次にあたることから、24年度の実績報告と、今後の5ヶ年計画についての協議を行い、調査計画について概ね了承を得た。なお、澤村仁委員が退任され、後任として箱崎和久委員が就任された。名簿は以下のとおりである。

大宰府史跡調査研究指導委員会委員名簿 (平成26年2月1日現在)

	氏 名	所 属	専 門
委員 長	小田富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
副委員長	佐藤 信	東京大学大学院教授	歴史学
委 員	八木 充	山口大学名誉教授	歴史学
	狩野 久	元岡山大学教授	歴史学
	坂上康俊	九州大学大学院教授	歴史学
	森 公章	東洋大学文学部教授	歴史学
	高橋 章	求菩提資料館長	考古学
	松村恵司	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	考古学
	山中 章	三重大学教授	考古学
	鈴木嘉吉	元奈良国立文化財研究所長	建築史学
	箱崎和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	尼崎博正	京都造形芸術大学教授	造園学
	杉本正美	九州芸術工科大学名誉教授	造園学
	渡辺定夫	東京大学名誉教授	都市工学
	林 重徳	佐賀大学名誉教授	土木工学

◎福原長者原遺跡の調査支援

福原長者原遺跡は行橋市に所在し、東九州自動車道建設に伴う発掘調査によって大規模な古代官衙跡であることが判明した。これをうけて、行橋市教育委員会では官衙全体の範囲や構造を把握するため確認調査を実施することとし、当館では大宰府関連遺跡調査の一環として発掘調査の支援を行った。

【文化財調査室文化財調査班】

文化財調査班の主たる業務は、国の機関及び県事業に関わる発掘調査及び報告書作成である。25年度の発掘調査は東九州自動車道・伊良原ダム・五ヶ山ダムのほか、国道201号行橋インター関連事業、その他県事業について実施した。

東九州自動車道は、九州縦貫自動車道小倉JCTから九州東海岸部を縦断して福岡・大分・宮崎・鹿児島各県を結ぶ延長436kmの高速道路である。福岡県内では18年度に苅田北九州空港I.C.までが、25年度には行橋I.C.までが供用開始された。今後は、27年度に椎田道路を取り込んで大分県境までの区間が供用開始の予定である。新設区間は苅田北九州空港I.C.～豊津I.C.間16.0km、椎田南I.C.～

県境 14.8 km で、ほかに既存の築城 I. C. と椎田 I. C. の改築、豊前 I. C. と上毛スマート I. C. の新設が計画されている。椎田 I. C. 以北の工事は西日本高速道路株式会社九州支社福岡工事事務所が、椎田南 I. C. 以南は同中津工事事務所が担当している。発掘調査は 19 年度から開始し、以降、用地買収の進捗に併せて実施しており、24 年度で福岡工事事務所担当区間を完了した。中津工事事務所担当区間に関しては 25 年度に 5 か所について発掘調査を実施し、未試掘の収用案件部分を一部残すほかは現地調査を終了している。26 年度以降は引き続き整理・報告作業を実施し、27 年度までにすべての報告書を作成する予定で取り組んでいる。

県事業としては、29 年度に竣工予定の五ヶ山ダム建設にかかる現地調査を 25 年度に完了した。26 年度は引き続き伊良原ダムの発掘調査を行うこととしている。なお、25 年度は、これまでに伊良原ダム建設予定地内で収集・出土した石塔類の実測作業を現地の仮設事務所で行った。

その他、東九州自動車道豊前 I. C. に接続する県道犀川豊前線関連及び県立伝習館高等学校改築に係る発掘調査を行った。

以下、25 年度に実施した発掘調査の概要を掲載するが、数値などは概数であるため詳細は各遺跡の本報告書に抛らきたい。

◎東九州自動車道関係の発掘調査

○塔田琵琶田遺跡第 6 次（豊前市）

遺跡は、岩岳川左岸沿いに南北方向に延びる尾根状微高地上に立地する。標高は約 36 m で、東西の谷部との比高差は 1～2 m ほどを測る。

I 区は南側の市道敷に設定した東西に細長い調査区で、約 140 m²を調査し、古墳時代前期・後期の竪穴住居跡 12 軒を検出した。調査区が狭小なため住居の完全な形状を検出したものはなかったが、住居内などから土器が多く出土した。



塔田琵琶田遺跡第 6 次 竪穴住居跡

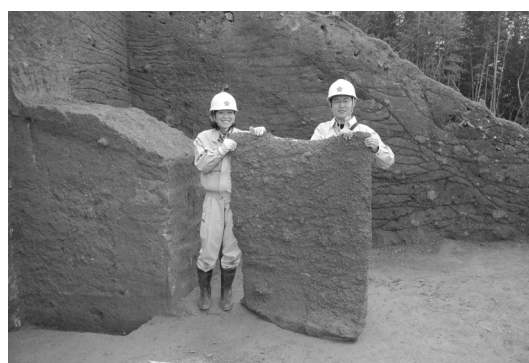
II 区は北側の水田面に設定した調査区で、約 300 m²を調査し、やはり古墳時代前期・後期の竪穴住居跡 12 軒のほか多くのピットなどを検出した。

報告書は 26・27 年度に刊行予定である。

○皿山古墳群 I 区（築上郡上毛町）

皿山古墳群は、福岡県と大分県の境となる山国川の西側に形成された河岸段丘上に立地している。

I 区は比較的急な南向きの傾斜地で、標高は約 40～55 m を測る。23 年度に事前の地形測量及び古墳 2 基（4・5 号墳）について調査を実施した。24 年度は古墳 5 基（1～5 号墳）の調査に着手し、一部では下層の弥生時代の遺構も調査した。25 年度は残りの調査地西側で発掘調査を継続し、主に 1・3 号墳と下層の弥生時代の遺構を調査した。



皿山古墳群 I 区 1 号墳墳丘の土層剥ぎ取り

1 号墳は周溝を含めた直径が約 26 m の大型円墳で、調査地内最大の規模を持つ。石室は複室構造の

横穴式石室で、平面形は玄室が約3×4mの規模を持つ長方形、前室が約0.8×1mの規模を持つ長方形である。24年度からの継続調査で、25年度は石室床面の完掘と墳丘南西部の調査、石室・墳丘土層図の作成を行った。石室床面は玄室を中心に攪乱が著しかったが、前室は床面の残りが比較的良く、馬具等の鉄製品が出土した。墳丘南西部の調査では、24年度調査の断面観察で確認されていた「土のう盛土」を面的に検出した。盛土に伴う土のう自体を立体的に検出した調査事例は少なく、古墳構築過程を詳細に記録できた稀有な例となる。このため、土層剥ぎ取りを行ってその一部を保存した。



皿山古墳群 I 区 掘立柱建物跡

3号墳は1号墳の南に位置する小型の円墳で、周溝を含めた直径は約10mを測る。1号墳より後に造られた終末期古墳である。25年度の調査では石室床面の完掘と石室実測図の作成を行った。

なお、各古墳石室及び羨道の埋土についても土をふるうなどして精査を行い、ガラス玉・鉄鎌・雲珠破片など多くの遺物を確認した。

また、古墳墳丘下及びその周囲から、弥生時代の住居跡が計7軒検出されており、古墳築造以前の本丘陵での集落の存在が明らかとなった。集落中央では東西に延びる道路状の遺構を確認するとともに、東西5間×南北4間の側柱の掘立柱建物跡を検出した。この掘立柱建物は、その構造や位置関係から集落の集会所等の施設であった可能性もある。また、3号墳周辺の下層遺構ではドングリ等の種子類が大量に検出されている。なお、1号墳直下から旧石器時代の三稜尖頭器が出土した。

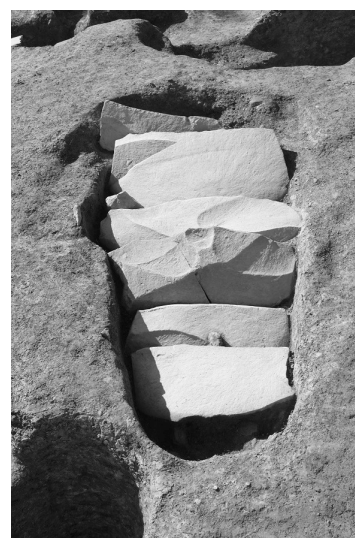
25年度調査分の出土遺物は、弥生土器・須恵器・土師器・石製品・鉄製品・ガラス製品などがあり、パンケース30箱分が出土した。

報告書は26年度に刊行予定である。

○鏡迫古墳群（築上郡上毛町）

鏡迫古墳群は福岡県と大分県の境となる山国川の西側に形成された河岸段丘上に立地している。古墳群の北側尾根には皿山古墳群、南側の尾根裾には百留横穴墓群が展開する。また、山国川対岸（大分県中津市）の段丘斜面には上ノ原横穴墓群が造営される。鏡迫古墳群から西側尾根線を上ると直径約30mの円墳を主墳とする群集墳が確認できる。調査地は「上唐原墓地」として、現在にいたるまで近隣集落の墓地に利用されてきたため、現在の墓地と重層的に弥生時代～古墳時代の墓域が存在していた。調査地は平野側に突き出した尾根先端の平坦面上にあり、標高約は44mである。

調査の結果、弥生時代後期～古墳時代初頭の石蓋土壙墓49基が検出された。遺構面は表土直下であり、近現代の墓地による攪乱が著しく、ほぼすべての石蓋土壙墓で何らかの改変がなされてい



鏡迫古墳群 石蓋土壙墓

た。石蓋土壙墓は地山の黄灰褐色粘質土（礫層）を掘り込んで築造されていた。墓壙の大きさは遺体の身長に合わせて掘削されていると思われる、1 m未満のものから1.8 m程度のものまで個体差が認められた。人骨は全く遺存していなかったが、床面に「枕」を削り出しているため、埋葬時の頭位方向を識別することが可能である。墓壙内には赤色顔料が撒かれており、最大10 cm程度の堆積例も確認された。主体部の天井となる石蓋は裏面に赤色顔料を塗布した後に被せられ、石蓋間の隙間には青灰色粘土による目張りがなされていた。また、石蓋架構後に地山掘削土を用いた薄い盛土を行っている。この盛土の遺存状態はあまり良くないが、完成時の段階では低墳丘状の形態をなしていたと考えられる。



鏡迫古墳群 調査区全景

その他の遺構として、石蓋土壙墓群の東西端で検出した区画溝がある。底面近くから弥生土器甕底部が出土しており、石蓋土壙墓群と同時期の遺構と考えられる。調査地東端では古墳時代後期（6世紀後半）の須恵器坏6点が並べられた状態で検出された。古墳等の遺構は調査地内で確認できなかったため、近現代墓地の造成や斜面の崩落による遺構消失の可能性が高い。出土遺物は、弥生土器・須恵器・石製品・鉄製品であり、パンケース4箱分が出土した。

報告書は27年度に刊行予定である。

○上唐原榎町遺跡第4次（築上郡上毛町）

遺跡は山国川左岸の自然堤防上に立地する。調査対象地が現道で分けられることから、24年度までに工事の工程に併せて5・3・4区（3次調査）の順に調査を実施し、4区の一部を宅地移転後の25年度に調査した。

4区の東半分は礫原が露出しており、遺構は存在しなかった。西半分は宅地による攪乱が著しく、検出された溝状遺構も近世の溝と暗渠であった。調査区南西隅に五輪塔の部材が集積されており、これらが調査区中央にある径約3 mの貼り石のある基壇状盛土の上に置かれていたのではないかと考えられたが、貼り石の裏込め出土遺物によって近世のものとわかり、本来の五輪塔を伴う遺構は別にあって、それを近世に集めて祀ったものと推定した。

報告書は27年度に刊行予定である。

◎国道201号関係の発掘調査

○延永ヤヨミ園遺跡ⅢB区（行橋市）

延永ヤヨミ園遺跡は、東・南を長峽川、北を小波瀬川によって挟まれた中位～低位段丘上に立地する。遺跡は京都平野に突き出すように馬蹄形状に延びた段丘の先端部に位置し、丘陵頂部～斜面及び谷部に遺構・遺物が分布する。

延永ヤヨミ園遺跡の調査は、一般国道201号行橋インター線・東九州自動車道・県道関連の各事業に伴って19年度から継続的に行ってきた。その結果、これまでに900軒近い多数の古墳時代の竪穴住居跡をはじめ、九州初出土の弥生～古墳時代の木製導水施設や「天平六年（734）」銘の木筒、多数の土器や木製品の出土など数多くの重要な成果を挙げている。

25年度は、23年度から継続しているⅢ-B区の発掘調査を実施した。Ⅲ-B区は延永ヤヨミ園遺跡北端の丘陵上に位置する。

本調査区は宅地造成時に盛り土を行っていたため、比較的遺構の残存状況が良好であった。発掘調査では弥生時代後期後半～古墳時代前期、古墳時代後期、13世紀を中心とする中世の遺構を多数検出した。検出した主な遺構は竪穴住居跡8軒以上、掘立柱建物跡2棟以上、土坑9基、溝5条、多数のピット群などである。

竪穴住居跡は古墳時代後期の1軒を除き、前期の所産と考えられる。昨年までの調査で存在を確認していた古墳時代前期の方形区画溝(規模:20×30m)については、南辺溝が東南隅部で収束せずさらに東側に延び、また、東辺溝は南辺溝と交差して南側にはみ出す形状になることが確認された。掘立柱建物跡のうち1棟は3×1間以上で、一辺1mを超える大型の掘方を持ち、径25cmほどの柱痕がある。もう1棟は2×8間以上の長大な建物跡となる。いずれも奈良時代の所産であろうか。このほか、粘土塊を充填した奈良時代の土坑や、平安時代から室町時代にかけての土壇墓、ピットを確認した。

Ⅲ-B区では、土器・鉄器などの遺物がパンケース42箱分出土している。

今回の調査により東九州自動車道の行橋I.C.建設にかかる国土交通省関連の発掘調査はすべて終了した。

報告書は26年度に刊行予定である。

◎その他県事業にかかる発掘調査

○塔田琵琶田遺跡第5-2次(豊前市)

遺跡は、岩岳川左岸沿いに南北方向に延びる尾根状微高地上に立地する。標高約36mを測り、東西の谷部との比高差は1～2mほどである。

今次調査は、24年度に調査した第5次調査の続きで、24年度中に調査を終了できなかった南側の一部について追加調査を行ったものである。調査で検出した遺構は古墳時代の竪穴住居跡4軒、土坑1基、その他ピット多数である。

報告書は27年度に刊行予定である。

○塔田五反田遺跡(豊前市)

遺跡は、岩岳川左岸沿いの微高地上、標高29m前後に立地し、路線を斜めに横切る形(南北方向)の安定地盤の上に展開する。調査区の北側には攪乱が



延永ヤヨミ園遺跡ⅢB区 調査区全景



塔田琵琶田遺跡第5-2次 竪穴住居跡



塔田五反田遺跡 調査区遠景

入り、また、南側は礫層となり遺構の広がり認められない。

調査で検出した遺構は古墳時代の掘立柱建物跡1棟、溝2条、ピット多数である。今回の調査では、土師器のほか、旧石器時代のナイフ形石器が出土している。

また、発掘区の南半部は旧宇島鉄道の線路敷きと重複している。調査にかかる部分の大半はすでに失われていたが、調査区際に遺存していた線路敷き盛土の断面観察を行っている。

報告書は27年度に刊行予定である。

○塔田キカス遺跡（豊前市）

遺跡は、岩岳川左岸沿いの微高地上、標高32m前後に立地する。安定地盤の縁辺部に展開し、南東から北西に延びる浅い谷に接する。

調査で検出した遺構は古墳時代の竪穴住居跡1軒、中世の溜まり状遺構、その他ピット多数である。

報告書は27年度に刊行予定である。

○下伊良原庄屋敷跡（京都郡みやこ町）

遺跡は祇川右岸の丘陵裾部の段丘上に立地する。

調査対象地に居住されていた白川家は、かつて宇都宮家臣であったといい、黒田氏によって宇都宮氏が滅ぼされて一度は筑前へ逃亡したが、細川氏の時代になって帰村、惣庄屋（大庄屋）に任命された。後には下伊良原の庄屋を長く務めてきた。その屋敷地は南北100m、東西30数mの広い敷地を有し、周囲の水田との比高差は5mを測ることから、大規模な造成が行われていることを思わせた。発掘調査は造成が何時の頃から、どのように行われたかなどを解明することを主目的として実施した。

なお、この屋敷跡に構築された石垣はダム建設予定地内で最も大規模な構造物であることから、将来の再検討に供するために写真測量を行った。

調査は造成の規模や時期を知る材料を得るために、主として幅1mのトレンチを設定して堆積状況の観察を行った。

調査の結果、母屋跡で複数の柱穴を検出したが、建物跡となるかどうかは検討の必要がある。中には14世紀の白磁片や15世紀前後の陶器片を出土した柱穴もあって、この土地を利用し始めた時期を推測できる資料を得ることができた。

北端付近では石組の地下穴倉が検出された。床面は約2×2.7mの整った長方形となり、深さは1m余りである。床には川原石を隙間をもって並べ置き、四壁では石組の間に部分的に粘土を貼っていた。南



塔田キカス遺跡 調査区全景



下伊良原庄屋敷跡 調査区遠景



地下穴倉

辺の西端に石組がない部分があり、出入口を想定できる。なお、この地下穴倉はすべて造成した客土の中に作られていた。詳細な時期を検討していないが、江戸時代のものであろう。

○竹の内遺跡Ⅰ区（京都郡みやこ町）

竹の内遺跡Ⅰ区は24年度後半に実施した竹の内遺跡Ⅱ区の北側の丘陵裾部に立地し、遺跡中央を東西に横切る里道により南区・北区に分かれる。

調査の結果、南区では縄文時代の不整形土坑・集石遺構、中世の土壙墓のほか、柱穴を検出した。これらの遺構は黒色砂質土上面から切り込まれている。また、西半部には黄褐色砂質土が堆積し、縄文時代前期の包含層を形成する。この部分についてはグリッドを設定して掘り下げを行った。

南区からは縄文時代の土器・石器と中世の土器・陶磁器などが出土している。北区は試掘時に縄文土器が出土したため本調査を実施したが、すでに宅地造成によって旧地形が削平され、時期不明のピットをわずかに確認したに過ぎない。

また、Ⅰ区の西側を限る谷筋の西に存在する炭窯についても、伊良原地区の歴史を知る上で貴重なものとして規模・構造把握のための調査を行っている。平面形は隅丸三角形で、壁面は石積みによって形成され、床面中央には湿気抜きのための竹材が埋設されていた。構造などから考えると昭和期後半の所産であろうか。

○下伊良原高木神社跡（京都郡みやこ町）

下伊良原高木神社は修験道の山として全国的に知られる英彦山の神領に置かれた48の大行事社の一つであり、明治の修験道禁止令によって社名を変えた。この下伊良原高木神社は貞応元年（1222）に対岸の「宮園」から遷されたといわれ、明治以降の社殿造営や社地改変などは記録が残るが、江戸時代以前の様子は不明な点が多い。発掘調査はこの神社の江戸時代以前の姿をわずかでも明らかにすることを主目的として実施した。

調査対象地は最高所から本殿・幣殿・拝殿跡地、その東側の「前庭」（楽打などを行う広場）に大きく分かれていて、前庭の前面（東側）に急峻な石段があって参道へ降りる。発掘調査の結果、神社に関する遺構は間知石や自然石を用いた石垣・鳥居の根石かと思われる大型長方形土坑や小土坑を検出した。

石垣は拝殿東の現間知積み石垣（江戸期の遺構）の下位で、間知積み石垣（明治29年に作られた石垣）、自然石を用いた石垣と階段の一部を検出した。鳥居の基礎と思われる2基の長方形の大型土坑は、芯々で3mの距離をもって位置し、両土坑ともに2.5×1.3mほどの隅丸長方形を呈し、内部に人頭大の礫が投げ込まれていた。両者ともに土坑東端に上面を水平な面とする巨岩が、上面のレベルを揃えて検出された。そのほか、柱穴や若干の土坑を検出したものの建物を構成するものではなく、土坑も性格不明



竹の内遺跡Ⅰ区 調査区全景



下伊良原高木神社跡 調査区全景

で終わった。

出土品では、中世の土師器鍋が一定程度出土しており、貞応元年（1222）移転の伝承が裏付けられそうである。寛永通宝や江戸時代以前と思われる中国製銅銭も出土している。最も古い遺物は縄文時代の土器・石器で、アカホヤ火山灰の上層から前期轟式土器、下層から早期押型文土器が若干出土している。また、火山灰の下位で拳大の石材を集めた炉跡を数基検出した。

○下伊良原下地ヶ原遺跡（京都郡みやこ町）

26年度に調査を行うために表土剥ぎを実施した。

○下伊良原西の塚遺跡2区（京都郡みやこ町）

遺跡は祓川左岸の丘陵裾との間に形成された小規模な段丘上に立地する。現地は現在に至るまで水田として利用されてきた。調査の結果、2層の遺構面と、さらに下層で遺物包含層を確認した。

上層の平安時代末～鎌倉時代頃に属すると考えられる遺構面で検出した主な遺構として、土壇墓1基、掘立柱建物跡1棟以上、平行する柵2条、土坑、小穴多数などがある。このうち土壇墓からは、銅鏡、銅製品、鉄刀、鉄製品、輸入陶磁器類などが出土している。

縄文時代後期頃と考えられる遺構面に伴うものとしては、堅果類（ドングリ）が出土する貯蔵穴30基弱、溝状遺構1条、住居状の円形竪穴遺構1基、土坑多数などがある。

さらに、縄文時代の遺構面の下層に合計10か所のグリッドを設定して掘削したところ、包含層状の埋土から縄文土器片が若干量出土している。

○下伊良原西の塚遺跡3区（京都郡みやこ町）

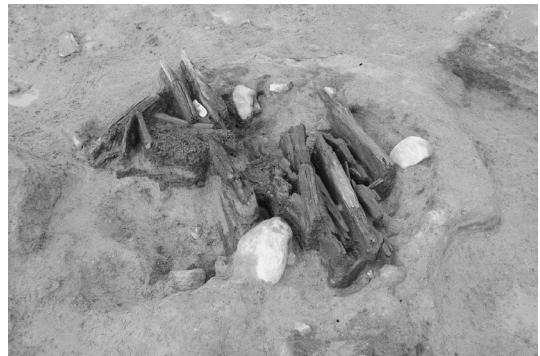
遺跡は祓川左岸の丘陵緩斜面に位置し、24年度に調査した下伊良原西の塚遺跡1区の西に隣接している。緩斜面は耕作地造成の際に4段に造成されていたため、遺構は部分的にしか残っていなかった。最上段に中世の溝1条と3段目に土坑2基が見られたほか、3段目の一部に縄文時代のピットがわずかに残っていたのみで、包含層も見られなかった。最下段は一部で中世のピット群を検出した。このほか風倒木痕は3・4段に多く見られたが、遺物は出土せず時期は不明である。削平が随所に入っていたため遺跡の全容を知ることはできなかった。

○下伊良原西の塚遺跡4区（京都郡みやこ町）

遺跡は祓川左岸に位置する丘陵裾部先端に阿蘇火砕流が堆積した部分にあたり、火砕流堆積物と本来の丘陵との間に谷が形成されたため独立丘陵状を呈



下伊良原西の塚遺跡2区 調査区全景



下伊良原西の塚遺跡2区 貯蔵穴



下伊良原西の塚遺跡3区 調査区遠景

している。丘陵の東・南面は耕作地と宅地造成の際に大きく削平されており、また、北面は急斜面で、西面のみが旧状を残すのみであった。

調査は旧地形が残っていると見られる平坦面にトレンチを設定して行った。試掘時には土師器皿が出土しているが、今回のトレンチでは遺構・遺物ともに見られなかった。

遺跡の立地する丘陵には「城山」という地名がついているが、山城としては小さく、城の伝承からみても城というよりは見張り場や隠れ場所のような使われ方をしたものと思われる。

○下伊良原中ノ坪遺跡 2区（京都郡みやこ町）

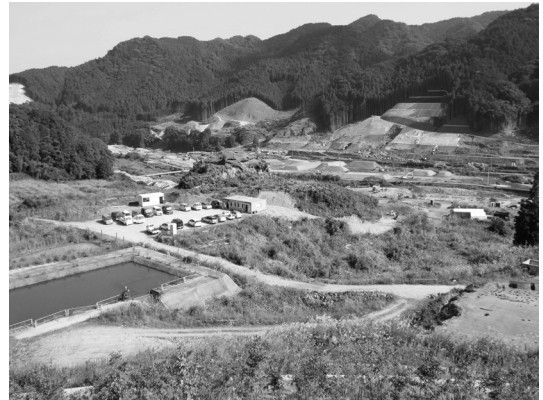
遺跡は祓川左岸の丘陵緩斜面に立地し、18年度に調査した下伊良原中ノ坪遺跡 1区の西上方に位置している。緩斜面は耕作地造成の際に3段に造成されており、最上段にはほぼ全面に遺構が残っていたが、2段目は南端部にしか遺構がなく、3段目はまったく残っていなかった。このことから本来は丘陵尾根が調査区北部を貫いており、2段目は尾根の斜面下位の緩斜面だけを利用していたものと考えられる。

最上段では戦国時代から江戸時代前期の四面廂の建物跡を検出しており、それに付随する石畳の通路跡が斜面から検出された。また、建物の周囲には敷地を区画する溝があり、遺物量の少なさと時期幅から見ても短期間の利用と考えられる。建物の構造や石畳の存在から観音堂のような小型の宗教施設であろう。2段目には時期不明の掘立柱建物跡1棟と、明治後期の地下蔵とカマド跡を発見した。これらはセットで存在していたものと見られ、おそらく味噌の醸造施設と考えられる。

○下伊良原平原遺跡（京都郡みやこ町）

遺跡は祓川左岸の丘陵緩斜面に位置し、18年度に調査した下伊良原寺ノ谷遺跡の南に隣接している。緩斜面は耕作地造成の際に4段に造成されており、旧地形は最下段にしか残っていなかった。上3段は基盤層の下位層が露出しており、斜面の角度が大きかったと思われる。南北東側は斜面が削られていた。

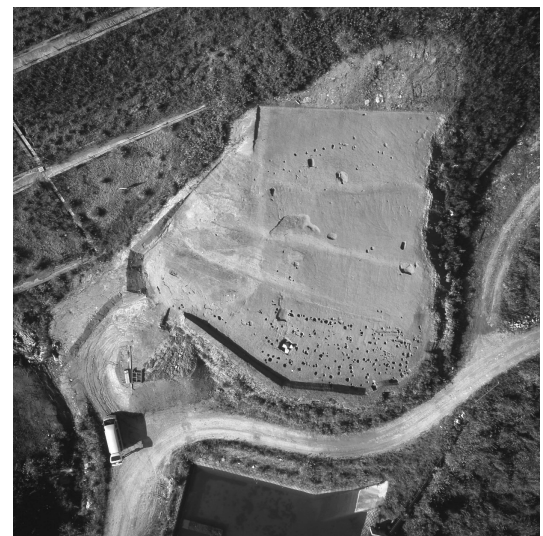
上2段の削平面からは縄文時代のものと思われる落とし穴3基とそれに伴う柵跡が見られた。最下段の北3分の2からは掘立柱建物跡12棟と建物の一部が柵になる柱列3基が確認できた。主屋となる大型建物とそれに付随する副屋か倉庫になる小型の建物1ないし2棟の組み合わせが、3度ほど建替えられて



下伊良原西の塚遺跡 4区 調査区遠景



下伊良原中ノ坪遺跡 2区 調査区全景



下伊良原平原遺跡 調査区全景

いる。出土遺物は少ないが、柱穴内の出土品から14世紀代のものと思われる。最下段南部では中世と考えられる火葬土坑1基を発見したのみである。

○五ヶ山尼寺跡遺跡（筑紫郡那珂川町）

五ヶ山尼寺跡遺跡は、脊振山系の五ヶ山倉谷地区（標高約400m）の東側に位置する。25年度は6区の8段目以下の調査と4区の調査を行った。

6区では8段目～11段目から斜面の崩落などを防ぐために施された石垣を検出した。周囲の斜面や川に転がる自然石（花崗岩）を使用した野面積みによる石垣であった。状態が最も良い9段目の石垣は、長さ60m以上を測り、石材を概ね3段に重ねて並べた状態を確認した。石垣の裏込から出土した遺物から、江戸時代頃に設置された可能性がある。

南側斜面の4区では、杉の植林後に荒地となった畑地跡などを5段確認した。遺構検出の結果、1～3段目で江戸時代頃の炭窯15基と2～4段目で6区と同様の石垣を確認した。炭窯は素掘りで床の平面が長円形状を呈し、長さは2m以下である。上面は削平されていたため高さは不明である。なお、焚き口と煙道口のみ石組みであった。石垣は残存状況が悪かったが、ここも野面積みで2～4段に重ねて作られていた。6区と同じ時期に築かれた可能性がある。このほか長さ17m、幅1.4m以下、深さ0.2mを測る石組暗渠を検出した。石垣の調査終了後、縄文時代の調査のために3～5段目にグリッドを設定した。

また、4・6区とも縄文時代の明確な遺構は検出されなかったが、調査区内に堆積していた黄褐色土層からは、縄文時代早期の押型文土器及び黒曜石・サヌカイト製の石器が多数出土した。

○本町遺跡（柳川市）

本町遺跡は柳川城下町の北東部に位置する。柳川城下町は城の周囲に武士の居住区が配置されており、調査区はその北東端の本町通り沿いとその裏手の武家屋敷にあたる。

調査の結果、絵図の武家屋敷の区画に合致する位置で区画溝を検出した。西側の区画は屋山家の屋敷地だが、東側の2つの区画は屋敷替えのため何度も居住者が替わっているため居住者を特定できない。区画溝は17世紀代から18世紀前半までの間に3度大きく掘り直されている、こうした区画の変化は絵図にも見ることが出来る。

調査区内は伝習館高校の校舎基礎が遺構面に深く



五ヶ山尼寺跡遺跡 石垣



五ヶ山尼寺跡遺跡 炭窯とグリッド



本町遺跡 調査区全景

掘り込まれていたため、遺構への影響を鑑み基礎の間を調査することとした。

遺構面は2面あり、上層は18世紀前半の整地層に掘り込まれたもので、下層は17世紀中葉まで遡る。整地の行われた18世紀前半に大火が起きた文献記録があることから、この火事の片付け後に整地された可能性が高い。下層の17世紀の区画溝は他の時期の溝より大きく、これとつながる大溝は幅約5mで、幹線水路に相当することから水運利用が考えられるが、それとともに防御的な性格も想定できる。なお、下層が戦国時代まで遡らないことは、戦国時代の城下町がここまで広がっていなかったことを示している。

出土遺物で特筆すべきは蒲池焼と見られる風炉に描かれた絵画で、人物や山水画の他、人名が線刻されていた。

渡り廊下部分については26年度に調査を行う予定である。

平成25年度文化財調査班実施の発掘調査及び作成報告書一覧

発掘調査

遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	調査期間	調査内容	調査原因
塔田琵琶田遺跡6次	豊前市塔田	440	130412-130620	集落	東九州自動車道
皿山古墳群Ⅰ区	築上郡上毛町上唐原	5,500	130412-130823	古墳・集落	東九州自動車道
鏡迫古墳群	築上郡上毛町上唐原	2,000	130828-140324	墓地	東九州自動車道
上唐原榎町遺跡4次	築上郡上毛町上唐原	980	130524-130722	集落	東九州自動車道
上唐原榎町遺跡3次2B区	築上郡上毛町上唐原	980	130120-130520	集落	東九州自動車道
延永ヤヨミ園遺跡Ⅲ-B区	行橋市吉国	800	130508-130708	集落	東九州自動車道
塔田琵琶田遺跡5-2次	豊前市塔田	280	130516-130620	集落	県道
塔田五反田遺跡	豊前市塔田	1,000	131010-140131	集落	県道
塔田キカス遺跡	豊前市塔田	570	131125-140131	集落	県道
下伊良原庄屋敷跡	京都府みやこ町犀川下伊良原	3,000	130508-130802	集落	ダム
竹の内遺跡Ⅰ区	京都府みやこ町犀川下伊良原	5,000	130108-140205	集落・墓地	ダム
下伊良原高木神社跡	京都府みやこ町犀川下伊良原	3,000	130729-140319	神社	ダム
下伊良原下地ヶ原遺跡	京都府みやこ町犀川下伊良原	3,000	130106-140307	集落・墓地	ダム
下伊良原西の塚遺跡2区	京都府みやこ町犀川下伊良原	4,000	130422-140324	集落・墓地	ダム
下伊良原西の塚遺跡3区	京都府みやこ町犀川下伊良原	1,770	130716-130906	集落	ダム
下伊良原西の塚遺跡4区	京都府みやこ町犀川下伊良原	60	130918-131118	城跡?	ダム
下伊良原中ノ坪遺跡2区	京都府みやこ町犀川下伊良原	1,500	131010-131224	集落	ダム
下伊良原平原遺跡	京都府みやこ町犀川下伊良原	1,200	130827-131113	集落・墓地	ダム
五ヶ山尼寺跡遺跡4・6区	筑紫郡那珂川町五ヶ山	5,000	130409-140325	集落	ダム
本町遺跡	柳川市本町	1,420	131208-140328	城下町	学校

作成報告書

タイトル	シリーズ	調査原因
延永ヤヨミ園遺跡Ⅰ区1	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告9	東九州自動車道
菅見川ノ上遺跡・カワラケ田遺跡2次調査2・ハツ重遺跡2次	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告10	東九州自動車道
延永ヤヨミ園遺跡Ⅱ区2	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告11	東九州自動車道
宝山小出遺跡・宝山桑ノ木遺跡・流末溝田遺跡	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告12	東九州自動車道
福原長者原遺跡・福原寄原遺跡	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告13	東九州自動車道
京ヶ辻遺跡1・3区、国作三角遺跡	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告14	東九州自動車道

石堂大石ヶ丸の氷室・福岡菜切古墳群第2次・中村西峰尾遺跡・中村山柿遺跡第2次・松江黒部遺跡・川内下野添遺跡第1・2次、大村上野地遺跡・荒堀山田原遺跡	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 15	東九州自動車道
土佐井遺跡2区・土佐井小迫遺跡・唐原山城跡・穴ヶ葉山南古墳群2次・新池南古墳	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 16	東九州自動車道
西蒲池池淵遺跡Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 243 集	県道
延永ヤヨミ園遺跡Ⅴ-4～7区	福岡県文化財調査報告書 244 集	県道
宮原金山遺跡2- 鉄関連遺物・分析篇 -	福岡県文化財調査報告書 245 集	県道
長畑遺跡群Ⅱ地区	福岡県文化財調査報告書 246 集	県道
永満寺桜馬場遺跡	福岡県文化財調査報告書 247 集	河川
五ヶ山Ⅱ	福岡県文化財調査報告書 248 集	ダム

[文化財調査室保存管理班]

◎文化財の保存処置

○木製遺物の保存処理

木製遺物の保存処理は、含水率の測定や樹種同定などの事前調査、トレハロースなどの薬剤含浸による強化処理、強化処置後の余分な薬剤を除去する表面処理といった工程で行っている。25年度は、4遺跡 174 点の処理を行った。

○金属製遺物の保存処理

金属製遺物の保存処理は、X線 CT スキャナや蛍光X線分析装置などを用いた事前調査、土砂や錆を除去するクリーニング、脱塩処理、合成樹脂含浸による強化処理といった工程で行っている。25年度は 27 遺跡 405 点の処理を行った。

○遺跡における遺物の応急処置

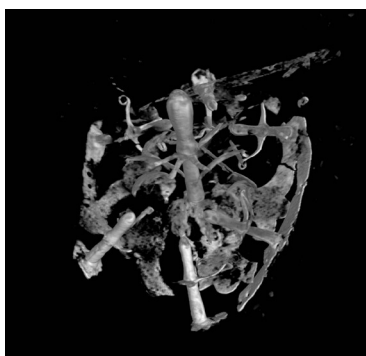
古賀市船原古墳に隣接する調査区で古墳時代後期の遺物埋納坑が発見され、大量の馬具、武器、武具が出土した。古墳の主体部から離れた土坑に埋納されるという極めて稀有な出土状況、そして遺物の量や質、資料としての重要性に鑑み、現場における遺物の保全、取り上げ作業から科学的調査、保存処理に至るまで、古賀市教育委員会の依頼により、支援を行うこととなった。

遺物の出土状況は、数百点を超える量が原位置を保ち、遺構全体にわたり密に分布し、かつ上下、重層的に埋納されていた。漆、繊維など有機質も残されており、従来の記録方法、取り上げ方法では対応が困難な状況であった。

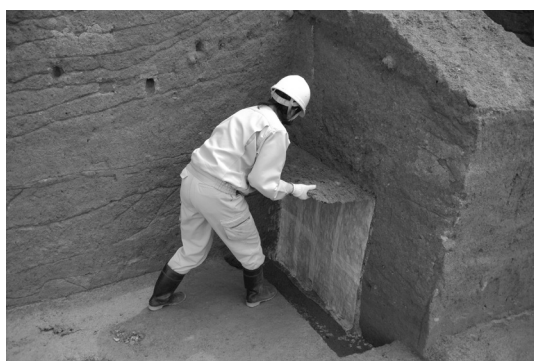
このため、豊富に残る有機質遺物や、原位置を保つ遺物相互の位置情報の正確な記録作成を目指し、X線 CT スキャナの利用を核とする、新しい保存科学的手法により、取り上げ作業を行った。取り上げ



船原古墳遺物埋納坑での作業風景



船原古墳遺物埋納坑出土遺物CT画像



皿山1号墳での作業風景



土層剥ぎ取りの展示作業

総数は200点を超える規模となり、現場での作業期間は、7か月間と長期に及んだ。

取り上げ後のCT調査では、これまでに類例の無い金銅製歩揺付雲珠の発見をはじめ、土砂の内部に残る繊維の発見など大きな成果を得ることができ、古賀市教育委員会と共同で報道発表を行ったほか、報道機関からの取材対応、福岡大学、九州考古学会において、研究発表を行った。

今後、各種科学的調査、保存処理を進めていく予定であるが、相応の期間を要すると思われる。

このほか、上毛町皿山1号墳の墳丘断面の土層剥ぎ取りを行い、発掘速報展において展示を行った。

○美術工芸・古文書・典籍・歴史資料に対する保存処置

美術工芸・古文書等の保存処置について、現状では文化財の有害生物を対象に、資料への被害状況、劣化状況等の保存状態調査を経て、資料に対して適切な処置を行っている。

25年度は、有害生物の被害がみられたとして、太宰府市、朝倉市、久山町、みやこ町、添田町、野田宇太郎文学記念館、甘木歴史資料館、柳川古文書館及び当館受け入れ資料について、処置を行った。

○館内の保存環境整備に関する取り組み

年間を通じて、第1展示室、特別収蔵庫各室の温湿度測定や空調設備の制御状況の確認、特別収蔵庫周辺の有害生物監視を継続的に行った。今後も、文化財に対する有害生物をできる限り軽減させ、適切な環境のもと、保存できるよう測定や監視等の取り組みを継続する。

○各種文化財の保存対策

資料の保存環境を整備するため、22年度から関係部署と共に、温湿度等の保存環境調査を行っている。25年度の調査対象は、重要文化財を保管している南淋寺収蔵庫（朝倉市）や個人宅収蔵庫（八女市）、求菩提資料館展示室、福岡県立大学書庫であり、それぞれ収蔵庫内外に測定地点を定めデータロガを設置、数か月おきにデータ収集と定期点検を行った。これまでの調査により、各々の年間の温湿度挙動を

把握することができつつあり、適切な保存環境整備に向けた取り組みの計画・立案を行っている。

○各種文化財の科学的調査

25年度の外部機関に基づく科学的調査は以下のとおりである。

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
1	筑紫野市教育委員会	堀池遺跡出土木炭	生物顕微鏡	4.30
2	佐賀県みやき町教育委員会	青銅製ヤリガンナ	X線CTスキャナ 蛍光X線分析装置	4.30
3	古賀市教育委員会	船原古墳遺物埋納坑出土馬具等	X線CTスキャナ 蛍光X線分析装置	4.30
4	小郡市教育委員会	小板井屋敷遺跡7区出土青銅鏡等	X線CTスキャナ 蛍光X線分析装置	10.4
5	大分市教育委員会	猪野遺跡出土銅矛	X線CTスキャナ	10.16
6	福岡市埋蔵文化財センター	比恵遺跡出土鉄製品、鴻臚館跡出土銅印	X線CTスキャナ	10.16
7	福岡市埋蔵文化財センター	元岡G6号墳出土庚寅銘大刀	X線CTスキャナ	10.24
8	筑紫野市教育委員会	大宰府条坊跡245次調査出土金属製品、鑄造関連遺物	X線CTスキャナ 蛍光X線分析装置	11.11
9	(公財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室	金銅製環頭	X線CTスキャナ 蛍光X線分析装置	11.29
10	佐賀県教育委員会	古蘭遺跡出土鉄銭	X線CTスキャナ 蛍光X線分析装置	12.17
11	宇美町教育委員会	黒田二十四騎絵馬	赤外線カメラ	2.5
12	(公財)大阪市博物館協会 大阪文化財研究所	トレハロース含浸処理法にて保存処理を行った木材サンプル	X線CTスキャナ	2.12
13	九州大学	山の神古墳出土馬具	X線CTスキャナ 蛍光X線分析装置	2.14
14	(一財)米子市文化財団埋蔵文化財調査室	観音寺狼谷山遺跡東宗像21号墳出土馬具等	X線CTスキャナ	2.26
15	島根県立古代出雲歴史博物館	中国青銅器	X線CTスキャナ	3.5

上記のほか、館内資料については、随時、科学的調査を実施している。

○外部機関への協力・研修など

博物館等の保存施設新築、改築に関して、田川市石炭・歴史博物館、八女市教育委員会、熊本県立図書館からの相談に対応した。

また、当館の学芸員が、九州国立博物館において開催された「ミュージアム IPM 地域協力者会議」に地域協力者として、福岡市元岡G6号墳出土庚寅銘大刀調査委員会、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム学術文化検討会に委員として出席した。

この他、(独)奈良文化財研究所実施「保存科学研究集会 文化財の収蔵・展示環境」「第7回木簡ワークショップ 木簡の情報抽出と表現方法」に出席した。こうした研修などにより情報収集に努め、適切な資料保存体制を構築している。

(2) 展 示

◎常設展示

第1展示室では、「歴史(とき)の宝石箱」をテーマに、旧石器時代から近現代にいたる福岡県の歴史を、遺跡の出土品のほか、仏像・古文書・古地図などの実物資料の展示により、通史的に紹介している。福岡県さらには九州という広い視野から地域の歴史を学ぶことができる。

第3展示室では、福岡県内出土の弥生土器や須恵器・古瓦などを時期順に並べ、形や文様・調整技術の移り変わりがわかる展示を行っている。引き出し式のケースには、貿易陶磁などの破片資料を資料群として展示しており、資料本来の多彩な色や文様、胎土等の様子を間近に観察することができる。

第4展示室では、旧石器時代の炉跡や弥生時代の甕棺墓など、現地で保存することができない遺構を切り取って保存処理を施し、地中の遺跡を覗き込むような形で床下に展示している

第1展示室では、常設展示の活性化とリピーターの獲得を目指して、常設展示のテーマをより深化もしくは特化した内容の特集展示を24年度からの継続分を含めて4期8回開催した。

常設展示の内容をより深く理解して頂くために制作している「九州歴史資料館展示解説シート」については、企画展や特集展示のテーマを取り上げて随時作成し、充実を図っている。

<常設展示「歴史の宝石箱」展示構成>

- 第1章 旧石器・縄文時代 狩猟と採集
- 第2章 弥生時代 稲作とクニ
- 第3章 古墳時代 北部九州の古墳文化
- 第4章 古代Ⅰ 大宰府史跡
- 古代Ⅱ 西海道大宰府
- 古代Ⅲ 仏教美術
- 第5章 中世Ⅰ その後の大宰府
- 中世Ⅱ 武士と戦乱の世
- 第6章 近世 「太平の世」の福岡
- 第7章 近代Ⅰ 「福岡県」の誕生とあゆみ
- 近代Ⅱ 絵図の世界

<特集展示>

- ・「考古基準資料から①出土貿易陶磁器の世界—大宰府史跡と才田遺跡—」

平成25年3月16日(土)～6月23日(日)

- ・「近世英彦山の古文書」

平成25年3月16日(土)～7月15日(月・祝)

- ・「宗原遺跡出土旧石器県指定記念 筑紫野地峡帯の旧石器」

平成25年4月23日(火)～7月7日(日)

- ・「福岡のお金の歴史2,000年」平成25年6月25日(火)～9月16日(月・祝)

- ・「彦山・宝満山の本末争論」平成25年11月23日(土)～12月27日(金)



常設展示風景



特集展示「馬」

- ・「福岡鉄道遺産ものがたり～鹿児島本線編～」平成25年7月17日(水)～9月16日(月・祝)
- ・「節分企画・考古基準資料から② 鬼一屋根を護る鬼瓦一」平成26年1月21日(火)～3月23日(日)
- ・「新春午歳企画・福岡県の装飾古墳② 馬一館蔵品から」平成26年1月5日(日)～3月2日(日)

◎九州歴史資料館開館40周年記念・九州歴史資料館移転開館3周年記念特別展

「戦国武将の誇りと祈り—九州の覇権のゆくえ—」

会期：平成25年9月28日(土)～11月10日(日)

会場：第1展示室

主催：九州歴史資料館・文化庁

内容：本展は、当館が太宰府市で開館してから40周年、小郡市に移転開館して3周年を記念して開催した特別展であり、当館としては初めての戦国時代をテーマとした展覧会である。また、現在、福岡県教育委員会では福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査を実施しており、その調査研究成果を紹介する展示でもある。

展示構成は、「大宰府への憧憬と博多支配」「豊後府内の繁栄」「九州三国時代の到来」「北部九州の群雄と城郭」「九州平定への道」の5章からなり、各章に大内義隆・毛利元就・大友宗麟・龍造寺隆信・島津義弘・豊臣秀吉などの戦国武将を主人公に据えて九州の覇権のゆくえをたどることで、親しみやすく九州の戦国時代を概観できる構成とした。

展覧会のねらいは、戦闘や権力闘争に明け暮れる戦国武将の姿だけではなく、その心の内面に迫ることにある。具体的には、戦国武将の肖像画を通じて、戦国武将の面構えや佇まいだけではなく、制作の背景や信仰、制作をめぐる人々のつながりもあわせて紹介した。遺訓や分国法の展示では、乱世における戦国武将の心の支えや行動の規範がいかなるものであったのかを伝え、寺社へ寄進された宝物からは多様な信仰のあり方を提示した。彼らが精神的な支え【誇り】や信仰の対象【祈り】としたものの展示を通して、伝統的な権威を重んじ、父祖以来の教えや信仰を大切にする戦国武将の姿を浮き彫りにした。

さらに今回の展示では、博多・豊後府内・山口の出土品により各中世都市の特徴を浮き彫りにするとともに、軍事拠点である中世城郭の資料も多く展示することができ、福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査の弾みにもなった。なお、会期中の来館者数は、6,653名であった。

また、会期中には関連イベントとして、11月4日(月)に文化財めぐり「戦国の城と古戦場を歩く—岩屋城と高橋紹運—」(参加者数41名)、10月20日(日)に特別展開催記念講演会第1回「豊臣秀吉と九州の城郭」(講師：千田嘉博氏(奈良大学教授)、参加者数188名)、11月3日(日・祝)に第2回「戦国武将と連歌」(講師：有川宜博氏(北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員、参加者数119名)を開催した。



特別展「戦国武将の誇りと祈り」ポスター

主な展示資料：国宝豊臣秀吉直書（東京大学史料編纂所）、国宝大内義興奉行人連署書状（国玉神社）、重文大内義隆大府宣（太宰府天満宮）、重文日本国王之印・重文毛利元就三子教訓状（毛利博物館）、重文毛利元就像（豊栄神社）、重文白檀塗浅葱糸威腹巻（柞原八幡宮）、重文剣銘長光・重文大友宗麟書状（立花家史料館）、重文豊臣秀吉朱印状（文化庁）、重文島津氏分国太閤検地尺（尚古集成館）、重美大友宗麟像（瑞峯院）、福岡県指定大内義隆和歌懐紙（筥崎宮）、佐賀県指定筑紫広門起請文（佐賀県立図書館）、佐賀県指定刀龍造寺隆信所用（鍋島報効会）、熊本県指定「天下泰平」銘鬼瓦（芦北町教育委員会）、武雄市指定龍造寺隆信遺言状（武雄市）、古戦古城之図（国立公文書館）など。

総点数：80 件 123 点（国宝4点、重要文化財28点、県指定文化財11点、市指定文化財4点を含む）

図録：A4版、140頁、印刷部数2,000部（販売部数1,000部）、頒価1,000円

◎企画展示

25年度は、第1展示室の一部および第2・4展示室を会場として、6回の企画展を実施した。企画展は、学校教育支援を目的としたもの、発掘速報展、特別展開催中に縮小される常設展を補うためのもの、館蔵品を紹介するコレクション展、第1展示室の約3分の1を使って行う大型の企画展というラインナップで定着しつつある。

春は小学6年生の歴史学習を支援する第14回企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」を開催し、小郡市内の小学校を受け入れた。夏は東九州自動車道の建設にともなう発掘調査の成果を速報的に紹介した第15回企画展「発掘速報展2013」を行い、豊前地域における最新の発掘調査成果を中心に展示した。今年から大宰府史跡の調査成果も紹介することにした。秋は、特別展のため常設展示が大幅に縮小されることから、小学生や絵手紙サークルの方々が描いた絵と対象の文化財を一緒に展示する第16回企画展「いろいろな目で見てみたら…ーみんなが描いた九歴の収蔵品ー」を企画した。冬には、水城・大野城・基肆城築造1350年事業の一環として研究史を振り返る国指定特別史跡水城跡発掘調査100年記念・第17回企画展「水城・大野城調査研究事始め」や、太宰府地域に伝わる五卿と志士ゆかりの文化財を通じて、明治維新前夜の太宰府における五卿の足跡や地元の人々との交流について紹介した第18回企画展「五卿西竄150年ー五卿と志士ー維新前夜の太宰府ー」を行った。

また、コレクション展としては、九州大学の建築史学者であった太田静六氏の寄贈資料を九州大学所蔵資料とともに紹介した第19回企画展「太田静六が見た福岡の建造物～太田静六資料展～」を開催した。

○第14回企画展「きゅうおにとタイムとラベルー大昔のくらしと国づくりー」

会期：平成25年4月9日（火）～7月15日（月・祝）

会場：第2・4展示室

内容：福岡の大昔の人たちは、どのような服を着たり、食べ物を食べたりしてくらしていたのか。また、日本の国はどのように形作られてきたのか。そのような大昔の歴史の疑問を、九州歴史資料館のイメージキャラクター・きゅうおにが、縄文時代・弥生時代・奈良時代をタイムトラベルをしながら探る展覧会である。

教育普及の観点を重視し、小学校高学年の歴史学



第14回企画展「きゅうおにとタイムトラベル」

習がより楽しく、わかりやすくなる展示とし、実物資料のほか、レプリカやイラストパネルを多用し、子どもたちにもわかりやすい展示を行った。25年度で2回目の当企画展であるが、今回からは第4展示室のパネル展示「きゅうおにと学ぶ九州の偉人」も追加した。

会期中には、小郡市内の小学校6年生の社会科見学の一環として、当館の利用が多数見られた。

○第15回企画展「発掘速報展 2013」

会期：平成25年7月17日（水）～9月29日（日）

会場：第2・4展示室

内容：当館では、毎年県内各地に所在する遺跡の発掘調査を実施し、郷土の歴史を知る上で数々の重要な成果を挙げている。23年度から、前年度に行った発掘調査の成果を公開する企画展「発掘速報展」を開催している。25年度は関連事業に伴う発掘調査のほか、大宰府史跡の調査成果も含め展示を行った。

展示では遺跡からの出土品とともに、各発掘担当者が作成した解説・写真パネル、また映像を用いて、来館者の方に発掘当時の雰囲気を感じることができる展示を実施した。また、皿山1号古墳で行った墳丘剥ぎ取り土層も展示した。

資料展示とパネル展示 福原長者原遺跡〈行橋市〉、皿山古墳群〈上

パネル展示のみ

第15回企画展「発掘速報展 2013」
毛町〉、塔田琵琶田遺跡〈豊前市〉、上片島遺跡群〈苅田町〉、下伊良原竹の内遺跡〈みやこ町〉、大宰府跡〈太宰府市〉、大野城跡〈宇美町〉出土品 計7遺跡
延永ヤヨミ園遺跡〈行橋市〉、西ノ原遺跡・大西遺跡〈豊前市〉、ガサメキ古墳群・上唐原榎町遺跡〈上毛町〉、下伊良原中ノ切遺跡〈みやこ町〉、永満寺桜馬場遺跡〈直方市〉、五ヶ山尼寺跡遺跡〈那珂川町〉 計8遺跡

また、期間中の9月7日（土）に関連事業とし「調査報告会 2013」を開催し、展示した遺跡のうち注目される4遺跡について、調査担当者がその成果を分かりやすく紹介する講演会を実施し、132名の参加があった。

○第16回企画展「いろいろな目で見てみたら・・・みんなで描いた九歴の收藏品-」

会期：平成25年10月1日（火）～11月17日（日）

会場：第2・4展示室

内容：当館の展示資料には考古資料を始め、美術工芸資料、文献史料など、さまざまな種類の歴史的な資料がある。その種類の多様さもさることながら、それぞれの資料に対する見方・受け取り方も、見る人によって様々である。それらの多様な感受性を絵とコメントという形で表そうとした企画展である。

本展覧会では、開催に先立ち、当館が所蔵する資料を、近隣の幼稚園児から学生、成人にいたるまで、幅広い年齢層の方々に展示室にて描いていただき、その資料を見て感じたコメントを書いた作品を募つ



第15回企画展「発掘速報展 2013」



第16回企画展「いろいろな目で見てみたら」

た。特に7月21日（日）・28日（日）には、小学生を対象に「きゅうれき絵画教室—九歴の名品を描こう—」というイベントとして65名の小学生の参加者に描いてもらった。

実際の展覧会では、その募集した絵画資料とともに実物資料を展示した。

○第17回企画展「水城・大野城調査研究事始め」

会期：平成25年11月19日（火）～平成26年1月13日（月・祝）

会場：第2展示室

内容：大正2年（1913）、現在のJR鹿児島本線の拡張にともない、水城土塁の大規模な開削が行われた。この際、東京帝国大学黒板勝美と九州帝国大学中山平次郎による調査が行われ、貴重な記録が残された。本展覧会はその調査から100年目を記念した企画展である。

江戸時代以来の絵図面や、近代の「筑前大宰府水城の一部切堀図」を写真パネル展示する他、近代以降の調査研究資料や、水城跡・大野城跡出土資料を展示し、水城跡・大野城跡の調査研究の歩みを振り返った。また、26年の水城築堤1350年および27年の大野城・基肄城築城1350年を記念したイベントとの位置づけも行った。

なお、会期中の12月7日（土）には、記念講演として、「大宰府都城研究の現在」という演題で小田富士雄氏（福岡大学名誉教授・大宰府史跡調査研究指導委員会委員長）による講演会を開催し、124名の参加があった。

○第18回企画展

「五卿西竄150年 五卿と志士—維新前夜の太宰府—」

会期：平成26年1月5日（日）～2月16日（日）

会場：第1展示室（一部）

主催：九州歴史資料館・公益財団法人太宰府顕彰会

内容：「五卿」とは、文久3年（1863）、「八月十八日の政変」により京の朝廷を追われ、長州藩へと逃れた攘夷派の7人の公家「七卿」のうち、元治2年（慶応元・1865）に太宰府の延寿王院（現太宰府天満宮宮司邸）へ転座した、三条実美をはじめとする5人の公家のことである。五卿は、王政復古を受けて帰京するまでのおよそ3年間を、太宰府で過ごし、その間、彼らのもとには、坂本竜馬や西郷隆盛など幕末の志士たちが訪れて情報を交換し、のちに太宰府は「明治維新の策源地」とも称された。また五卿は、二日市温泉や宝満山、さらには太宰府周辺の村々に



第17回企画展「水城・大野城調査研究事始め」



第18回企画展「五卿と志士」ポスター

も足を運び、地域の知識人と交友し、各地に詩歌や書画の作品を数多く残した。

本展では、太宰府天満宮や地域に残された「五卿」、そして幕末の「尊皇志士」ゆかりの文化財から、明治維新前夜の太宰府について紹介した。また、今回、東京国立博物館の協力により、「維新三傑」西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允の書の優品が特別出品された。

なお、会期中の2月1日(土)には、三宅紹宣氏(広島大学教授)・谷川佳枝子氏(福岡地方史研究会会員)・一瀬智(当館学芸員)による記念講演会を開催し、203名の参加があった。

展示資料：西郷隆盛書額「敬天愛人」、大久保利通書七言絶句、木戸孝允・杉聴雨詩画合装幅(東京国立博物館)、七卿都落之図、天満宮境内絵図、唐花御紋陣笠、短刀銘村正三条実美所用(太宰府天満宮)、綱領、三條公手栽松由来(福岡県立図書館)、英華帖、七卿等遺墨巻、秋郊親児鹿図、三条公手植松図、東久世通禧扇面書、西高辻信巖和歌(個人)、七卿在西日誌(九州歴史資料館)など。

○第19回「太田静六が見た福岡の建造物～太田静六建築資料展～」

会期：平成26年1月15日(水)～4月6日(日)

会場：第2・4展示室

内容：太田静六氏(1911～2009)は、昭和期に九州大学工学部などで活躍した建築史学の研究者である。福岡県内においても様々な建造物の調査を行い、旧福岡県庁舎や二代目博多駅舎をはじめ、寺院、教会、橋、民家など多くの建造物の図面や写真を残し、その一部は後に九州歴史資料館に寄贈された。また、大宰府史跡の発掘調査にも調査研究指導委員会委員として携わり、自身も建築史学の立場から太宰府市横岳崇福寺跡の発掘調査などを行っている。



第19回企画展「太田静六が見た福岡の建造物」

本展では、氏が参加された発掘調査時の出土遺物や、当館や九州大学が所蔵している旧福岡県庁、二代目博多駅などの建造物の図面や写真、遺物を展示し、太田氏の目を通して、かつての福岡の建造物について紹介した。

また本展示に合わせ、平成26年3月8日(土)に土田充義氏(鹿児島大学名誉教授・NPO法人文化財保存工学研究室理事長)による、第12回九歴講座「八幡造論争史—三氏の主張太田静六・林一馬・土田充義—」を開催し、118名の参加があった。

◎パネル展示

パネル展は、県内各地に残る多様な文化財を紹介し、またこれまで福岡県が行ってきた調査研究の成果を公開することを目的に、主に文化情報広場において実施している。

25年度は、例年行っている朝鮮半島の古代山城をテーマとしたパネル展のほか、鹿児島本線に残る鉄道遺産や科学機器を活用した最新の研究成果のパネ



パネル展「世界遺産登録推進活動」

ル展など、計4回を実施した。なお、以下に取り上げるパネル展を実施していない時期には、開館時より継続的に実施しているパネル展「福岡県の世界遺産登録推進活動―宗像・沖ノ島と関連遺産群、九州・山口の近代化産業遺産群―」を実施している。

○朝鮮半島の文化遺産(4)―高麗の山城―

会期:平成25年4月23日(火)～7月15日(月・祝)

会場:文化情報広場

内容:朝鮮半島には、古代・中世の山城、官衙、寺院など数多くの文化遺産がある。これらは北部九州の歴史の解明に関わるものも多く、福岡県では韓国国立文化財研究所と研究交流事業を行い、これらの文化遺産について調査研究を行ってきた。

その研究成果の公開として、本展では西谷名誉館長撮影による高麗の山城写真を展示した。展示された写真は、高麗の首都、開城の礎石遺構やその周辺の首都防衛用山城を写したものなど、計26枚である。その中には朝鮮半島の歴史に関わるもののみならず、日本との貿易や蒙古との戦いなど、日本の中世史ともかかわりの深い城の写真も数多く含まれており、中世の日本と朝鮮半島との関係の一端を紹介する貴重な機会となった。

○福岡鉄道遺産ものがたり～鹿児島本線編～

後援:九州旅客鉄道株式会社

会期:平成25年7月17日(水)～10月20日(日)

会場:文化情報広場・第1展示室

内容:明治維新後、近代化の道を進んだ日本には、多くの新しい技術がもたらされるが、その象徴の一つが鉄道であった。鉄道の施設や車両には、当時最先端の土木・建築技術や機械工学が数多く用いられ、その中には現在まで伝えられているもの、そして今も使われ続けているものもあり、「鉄道遺産」と呼ぶことができる。

本展では九州、そして日本の大動脈の一つである、鹿児島本線の鉄道遺産を写真で展示し、福岡県と日本の近代化を支えた鉄道を、文化財という視点も交えて紹介した。

さらにパネル展の会期中には第1展示室において関連特集展示も実施し、鹿児島本線の歴史に関する文書・考古資料も紹介している。

また、本展示に合わせ、第5回九歴講座として担当学芸員による「鉄道遺産への招待～鹿児島本線編～」を8月10日(土)に、夜のギャラリートークを8月21日(水)に、「なるほど!!!こども歴史教室2013―九州の鉄道むかしばなし―」を8月23日(金)に、それぞれ実施した。



平成25年度パネル展示

朝鮮半島の文化遺産(4)

―高麗の山城―

2階文化情報広場(観覧無料)にて7月15日(月・祝)まで

パネル展「朝鮮半島の文化遺産(4)」ポスター



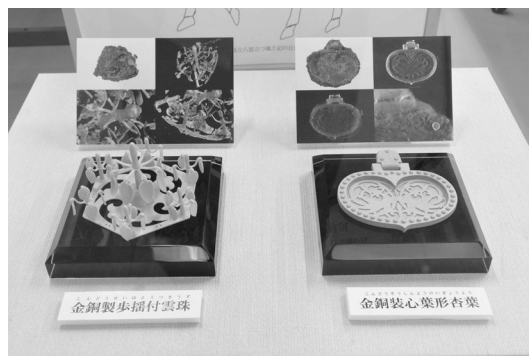
パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり」展示資料

○なかにうまっているものは… - 科学の目でみた古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 -

会期：平成 26 年 3 月 4 日（火）～ 6 月 15 日（日）

会場：文化情報広場 文化財整理・保存科学見学回廊
光学調査室

内容：平成 25 年 3 月、古賀市教育委員会による古賀市谷山地区の発掘調査で古墳時代の馬具等が大量に埋納されている大型土坑（遺物埋納坑）が発見された。この発見にあたり、当館では、発掘調査段階から、遺物の保存処置や科学的調査について支援に入っている。本展では、文化情報広場にて当館設置の X 線



パネル展「なかにうまっているものは…」

CT スキャナを活用した新しい調査方法とその最新成果を紹介し、CT データから 3D プリンタで出力した金銅装心葉形杏葉と金銅製歩揺付雲珠のデジタルモデルを、文化財整理・保存科学見学回廊の光学調査室に展示した。

また、文化情報広場におけるパネル展とは別に、正面玄関右側の回廊において、三沢遺跡を紹介するパネル展も行っている。

◎その他の展示

○パネル展「熊本の古代山城 鞠智城展 ～蘇る百済との歴史～」

会期：平成 25 年 11 月 19 日（火）～平成 26 年 1 月 13 日（月・祝）

会場：第 4 展示室

主催：熊本県教育委員会

共催：九州歴史資料館

内容：大野城や水城と共に、今から約 1350 年前に造られた熊本県の古代山城・鞠智城を紹介する展示を熊本県教育委員会の主催によって実施した。ここでは、鞠智城の歴史や発掘の成果について紹介するパネルと、出土した仏像の模型を展示し、会期中の 12 月 22 日（日）には、当館西谷正名誉館長による記念講演会「高句麗山城から鞠智城へ」を開催し、178 名の参加があった。

○トピック展示「山の神々―九州の霊峰と神祇信仰―」

主催：太宰府天満宮、竈門神社、九州歴史資料館、九州国立博物館

会期：平成 25 年 10 月 22 日（火）～ 12 月 1 日（日）

会場：九州国立博物館文化交流展示室関連第 9 室、太宰府天満宮宝物殿

内容：九州では近年、山岳霊場遺跡の調査研究が盛んになってきている。当館においても、国指定史跡となった首羅山や宝満山、国指定史跡を目指している英彦山の調査を担当し、九州山岳霊場遺跡研究会の事務局を務めるなどしながら、その一翼を担っている。本展は、九州国立博物館を会場として開催された日本山岳修験学会と連動し、竈門神社が開創 1350 年となることを記念し、九州における山岳霊場遺跡研究の成果を受けて開催されたものである。

構成は、第 1 章；九州の霊峰、第 2 章；金剛界宝満山、第 3 章；胎蔵界英彦山の 3 章に分かれ、第 1 章は九州国立博物館を会場とし、第 2 章と第 3 章は太宰府天満宮宝物殿を会場とした。第 1 章の展示資料は九州各地の霊峰の名宝であり、以下のとおりである。

英彦山神宮の銅造彦山三所権現御正体・金銅装箱笈、国玉神社の木造男女神坐像、個人蔵の銅造菩薩形鏡像、蔵持山神社の銅造十一面観音懸仏、竈門神社の木造狛犬・銅鏡、千如寺大悲王院の雷山古凶、高良大社の高良大社画縁起、個人蔵の薩摩塔、太祖神社の宋風獅子（以上、福岡県）、釈迦院の木造男女神坐像、千光寺の十一面観音立像（以上、熊本県）、多良岳伝来の木造不動三尊像（長崎県）、神門神社の銅鏡（宮崎県）

第2章と第3章は、九州を代表し縁も深い宝満山と英彦山に伝わる各種文化財を展示し、それぞれの山の聖地としてのあり方を考えるとともに、両山について対照的に展示することで、両者の共通点と相違点やそれぞれの個性を浮かび上がらせることを試みた。より具体的な内容については、同展図録を参照されたい。

○平成25年度筑紫地区文化財写真展一ちくし再発見～古代の筑紫へタイムトリップ～

主催：筑紫地区社会教育振興協議会文化財部会

協力：九州歴史資料館

会期：平成26年2月18日（火）～3月2日（日）

会場：文化情報広場

内容：筑紫地区文化財写真展は、筑紫地区（大野城市・春日市・太宰府市・筑紫野市・那珂川町）の文化財を紹介すべく、毎年実施される巡回パネル展である。今回のパネル展では、古代の筑紫をテーマとし、各自治体内の史跡等の写真パネルを展示した。

(3) 資料利用

本館では、他機関のから展示等のための借用希望に対して所蔵資料の貸出を行っている。考古資料のほか、文書資料、写真資料も貸出しており、平成25年度においては以下のとおり利用があった。また、他機関や学生による資料調査等の一時利用を受け入れており、平成25年度から、土日の閲覧希望にも、基本的に対応するようになった。平成25年度の実績は考古資料貸出48件、同一次利用46件（延べ79日間）、写真資料貸出・掲載許可119件、文書・典籍資料貸出2件、同一次利用38件である。

考古資料の貸出一覧（短期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	苅田町教育委員会	一括	百合ヶ丘古墳群関係児玉真一氏資料	報告書作成	25.4.1～12.31
2	吉野ヶ里公園管理センター	6点	無文土器片（採集資料）	「よみがえる邪馬台国」に展示	25.6.13～11.30
3	柳川古文書館	103点	西蒲池池淵遺跡土器・卜骨、東蒲池門前遺跡獣骨	「発掘された柳川」に展示	25.7.3～9.1
4	行橋市教育委員会	2点	延永ヤヨミ園遺跡出土墨書土器	「見えてきた豊前の国府」に展示	25.7.5～8.21
5	小都市教育委員会	21点	西新町遺跡出土勾玉、ガラス玉鏝型	「アクセサリーの輝き～古代の技と美～」に展示	25.7.8～9.27
6	大宰府展示館	12点	筑前国分寺跡出土軒丸瓦等	「史跡筑前国分寺跡と周辺遺跡」に展示	25.7.18～9.6
7	太宰府市文化ふれあい館	23点	水城跡、大野城跡出土土器・鏝・瓦等	「まるごと太宰府歴史展」に展示	25.8.20～11.20
8	島根県古代出雲歴史博物館	2点	門田遺跡出土爪形文土器	「山陰の黎明 縄文のムラと暮らし」に展示	25.9.8～12.27
9	小都市教育委員会	8点	竹重遺跡出土土器、下町外畑遺跡出土土器	「古墳の黎明～津古古墳群とその周辺～」に展示	25.9.9～11.22
10	筑紫野市歴史博物館	9件	大野城跡出土軸受金具、土器、炭化米等	「発掘！阿志岐山城」に展示	25.10.1～11.18
11	甘木歴史資料館	12件	東蒲池門前遺跡、西蒲池池淵遺跡、西新町遺跡、赤幡森ヶ坪遺跡、馬場長町遺跡出土遺物	「古から今も身近な生き物たち」に展示	25.10.1～12.5
12	築上町教育委員会	21点	安武深田遺跡、十双遺跡、赤幡森ヶ坪遺跡、上別府神代遺跡出土土器・石器・金属器	「弥生の金属」に展示	25.10.1～12.13
13	徳島市立考古資料館	81件	貝元遺跡、柏田遺跡他出土玉類	「装身具の世界～玉文化に魅せられて」に展示	25.10.3～12.6
14	福岡市博物館	12点	西新町遺跡出土土器・金属器・ガラス製品	常設展示に使用	25.10.4～26.3.31
15	土器使用痕研究会	29点	西蒲池池淵遺跡出土土器	研究会使用	25.10.26～10.28
16	九州国立博物館	2件	西新町遺跡土器、西蒲池池淵遺跡卜骨など	「海の道、アジアの路」に展示	26.2.24～27.5.30
17	宇美町教育委員会	1点	大宰府政庁出土鬼瓦レプリカ	「水城・大野城・基肆城1350年事業 日本最古の山城 大野城跡 写真パネル展」に展示	26.3.7～26.4.4

考古資料の貸出一覧（長期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	筑前町教育委員会	174箱	依井遺跡・堂の浦遺跡・君ヶ原遺跡・大刀洗病院遺跡・高上遺跡・仙道古墳群・仙道古墳出土資料	筑前町歴史民俗資料館等で活用	25.4.1～26.3.31
2	国立歴史民俗博物館	7点	横隈山遺跡出土炭化米、広田遺跡出土浅鉢・深鉢	総合展示	25.4.1～26.3.31
3	九州国立博物館	1082点	門田遺跡出土細石刃ほか	文化交流展示室展示等	25.4.1～26.3.31
4	岩手県立博物館	4点	永岡遺跡・牟田々遺跡出土土器、永岡遺跡甕棺	展示及び調査研究	25.4.1～26.3.31
5	福岡市博物館	2点	西新町遺跡出土土器	常設展示	25.10.2～26.3.31
6	筑紫野市歴史博物館	108点	剣塚遺跡・剣塚3号墳・道場山遺跡・萩原遺跡・八隈遺跡・峠山遺跡出土品	常設展示	25.4.1～26.3.31
7	直方市教育委員会	72点	内ヶ磯窯跡出土陶器	直方市美術館別館展示	25.4.1～26.3.31
8	古賀市教育委員会	19点	水上遺跡・太田町遺跡・川原庵山8号墳・久保長崎遺跡出土資料	古賀市歴史資料館展示	25.4.1～26.3.31
9	求菩提資料館	10点	求菩提出土銅製経筒・草花双鳥鏡・蓬萊鏡	常設展示	25.4.1～26.3.31
10	鞍手町教育委員会	10件	銀冠塚古墳・神崎遺跡・古門竊跡・新北向山遺跡・新北高木遺跡・音丸城跡・段ノ上遺跡・中屋敷遺跡・八尋旭古墳・新延貝塚出土資料	鞍手町歴史民俗資料館等で利活用	25.4.1～26.3.31
11	春日市教育委員会	6点	伯玄社遺跡・柏田遺跡・御供田遺跡出土品・伝昇町出土鏡片	常設展示	25.4.1～26.3.31
12	基山町教育委員会	3点	大宰府政庁跡出土軒丸瓦・軒平瓦	基山町歴史民俗資料館展示	25.4.1～26.3.31
13	粕屋町歴史資料館	76箱	翼与丁池遺跡・辻畑遺跡・西尾山古墳群・脇田山古墳・戸原堀ノ内遺跡・井山古墳群出土資料	展示等利活用	25.4.1～26.3.31
14	香春町教育委員会	84点	陣山屋敷遺跡・湯無田遺跡・古坊遺跡出土遺物	町民センター歴史資料室展示	25.4.1～26.3.31
15	古都大宰府保存協会	29点	大宰府史跡出土資料	大宰府展示館常設展示	25.4.1～26.3.31
16	みやこ町教育委員会	23点	徳永川ノ上遺跡・鋤先遺跡・居屋敷遺跡出土品	みやこ町歴史民俗博物館常設展示	25.4.1～26.3.31
17	八女市教育委員会	1点	真浄寺2号墳出土短甲	岩戸山歴史資料館常設展示	25.4.1～26.3.31
18	みやま市教育委員会	31点	上枇杷遺跡・権現塚南遺跡・大江北遺跡・三船山遺跡・金栗遺跡出土資料	みやま市歴史資料館展示	25.4.1～26.3.31
19	須恵町教育委員会	419点	乙植木古墳群出土資料	須恵町歴史民俗資料館展示	25.4.1～26.3.31
20	埼玉県立歴史と民俗の博物館	4点	横隈山遺跡出土壺・甕、永岡遺跡出土甕棺上下甕	常設展示	25.9.1～26.8.31
21	伊都国歴史博物館	173点	三雲南小路遺跡出土資料他	展示等利活用	25.4.1～26.3.31
22	栃木県立博物館	2点	門田遺跡甕棺上下甕	常設展示	25.10.1～26.9.30
23	みやま市教育委員会	17点	清水山遺跡群礫石器、坂田中園遺跡縄文土器、権現塚遺跡群弥生土器、九折大塚古墳出土埴輪	みやま市歴史資料館展示	25.4.1～26.3.31
24	甘木歴史資料館	27件	高原遺跡・立野遺跡・天園遺跡・治部ノ上遺跡・楠田遺跡・上の原遺跡・才田遺跡、菩提寺古墳群、仙道古墳・真奈板遺跡・観音塚古墳・湯の隈古墳出土品	常設展示	25.4.1～26.3.31

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
25	老司公民館	6点	大宰府史跡出土瓦	展示ケース展示	25.4.1～26.3.31
26	篠栗町教育委員会	117点	高田遺跡・トラノ尾遺跡・塚元遺跡出土遺物	篠栗町歴史民俗資料室展示	25.4.1～26.3.31
27	京都国立博物館	1点	筑後石入山石棺石膏製模型	展示等利活用	26.1.1～26.12.31
28	京都国立博物館	3点	甕棺	展示等利活用	25.7.1～26.6.30
29	粕屋総合庁舎	20点	箱崎遺跡出土品	展示ケース展示	25.4.1～26.3.31
30	国立羅州文化財研究所(大韓民国)	1点	道場山遺跡甕棺	常設展示	26.2.2～29.2.2

考古資料等の一時利用(資料見学等)

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	個人	一式	番塚古墳出土鏝	論文作成	25.4.16
2	個人	1点	観世音寺出土高麗青磁	比較研究	25.4.22
3	個人	10点	西新町遺跡出土陶質土器	比較研究	25.5.22
4	小郡市教育委員会	9点	西新町遺跡出土勾玉等	企画展示準備	25.5.27
5	吉野ヶ里公園管理センター	4点	無文土器(採集資料)	企画展示準備	25.5.28
6	個人	5点	向山4号墳出土馬具	比較研究	25.5.31～6.1
7	個人	11点	深原遺跡出土礫器	比較研究	25.5.31～6.1
8	個人	34点	三雲遺跡出土染浪土器など	比較研究	25.5.31～6.1
9	個人	4点	井手ヶ浦窯跡、宮原遺跡出土土馬	比較研究	25.6.13
10	徳島市立考古資料館	86点	貝元遺跡、柏田遺跡他出土玉類	企画展示準備	25.6.21
11	大川市教育委員会	一式	坂井長永遺跡、下林造出遺跡出土土器	地元文化財把握	25.6.27
12	韓国テレビ局	一式	西新町遺跡出土遺物撮影	テレビ番組制作	25.6.30
13	個人	50点	鷹取五反田遺跡、仁右衛門畑遺跡出土土器	論文作成	25.7.2～3
14	個人	8点	観世音寺、水城、四王寺山出土経筒	論文作成	25.7.9
15	個人	7点	原の東遺跡、長島遺跡出土編布状圧痕土器	比較研究	25.7.22
16	個人	27点	仁右衛門畑遺跡出土土器	論文作成	25.7.25
17	個人	37点	徳永川ノ上遺跡、汐井掛遺跡出土鉄刀	論文作成	25.8.14～16
18	個人	2点	真浄寺古墳出土短甲	論文作成	貸出先で調査
19	個人	56点	日永遺跡出土土器	論文作成	25.8.14
20	個人	55点	宗原遺跡出土土器	論文作成	25.8.26
21	個人	275点	石崎曲り田遺跡出土土器	比較研究	25.8.30
22	個人	30点	西新町遺跡出土石鏝	比較研究	25.8.31
23	徳島市立考古資料館	81点	貝元遺跡、柏田遺跡他出土玉類	企画展示の写真撮影	25.9.11
24	個人	1件	観世音寺出土青磁	報告書作成に伴う比較調査	25.9.27
25	個人	60箱	大宰府政庁、観世音寺出土瓦	論文作成	25.7.23～9.27 (うち17日間)
26	個人	7箱	矢留堂ノ前遺跡出土土器	報告書作成に伴う比較調査	25.9.28
27	個人	2件	門田遺跡・春園遺跡出土土器	比較研究	25.10.6
28	土器使用痕研究会	40点	西蒲池池淵遺跡出土土器	研究会準備	25.10.15
29	個人	500点	小倉谷横穴墓ほか出土玉類	比較研究	25.10.29
30	個人	11点	西蒲池池淵遺跡出土土器	論文作成	25.11.6
31	個人	一式	高崎2号墳、山の前1号墳、勝浦井ノ浦古墳、勝浦峯ノ畑古墳、銀冠塚古墳、番塚古墳出土馬具	論文作成	25.11.13
32	個人	5点	上伊良原榎遺跡出土土器	比較研究	25.11.22
33	個人	6点	観世音寺、大宰府出土唐三彩	比較研究	25.11.25
34	個人	86点	西新町遺跡、三雲遺跡、湯納遺跡、宮の前遺跡出土石鏝	比較研究	25.12.7～8
35	九州国立博物館	4点	西蒲池池淵遺跡出土ト骨	展示準備	25.12.18
36	兵庫県立考古博物館	11点	大宰府出土瓦・土器・石製品等	企画展示準備	25.12.10
37	九州国立博物館	9点	西新町遺跡出土土器	展示準備	25.12.22
38	個人	一式	内ヶ磯窯跡出土遺物	比較研究	26.1.17～19
39	個人	53点	勝浦峯ノ畑古墳出土冠帽	比較研究	26.2.11
40	個人	142点	山崎遺跡出土土器	比較研究	26.2.17
41	個人	3点	三雲遺跡出土鉄器、西新町遺跡出土土器	論文作成	26.2.27
42	個人	55点	西新町遺跡出土土器	論文作成	26.2.27～28
43	和歌山県立紀伊風土記の丘	5点	居屋敷窯跡出土土器	企画展示準備	26.3.18
44	個人	396点	広田遺跡、柏田遺跡出土土器	比較研究	26.3.17～18
45	個人	16点	大宰府出土木簡、墨書土器	比較研究	26.3.19
46	個人	10箱	大宰府史跡出土瓦	比較研究	26.3.17～31 (うち7日間)

文書・典籍資料の貸出一覧(長期)

番号	貸出先(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
1	福岡県立筑豊高等学校	220点	筑豊工業高校資料	資料室における展示	25.4.1～26.3.31
2	福岡県青少年科学館	90点	筑豊工業高校資料	常設展示	25.4.1～26.3.31

文書・典籍資料等の一時利用(資料見学等)

番号	所属	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
1	ユタ系図協会	991点	中尾文書・石橋家文書・石橋(ハ)文書・水城文書・松村(ム)文書・園田文書・高島文書・本田(誠)文書・秋月諸家文書・山北村庄屋文書	史料の保存	25.4.2～26.3.27
2	福岡大学	2点	平田(信)文書	町史編さん	25.4.27
3	個人	1点	福岡藩関係史料	調査研究	25.5.4
4	個人	33点	電気事業要覧・福岡日日新聞(紙焼)	調査研究・史料集刊行	25.5.9～7.26
5	個人	6点	平位文書・福岡県史編纂史料	調査研究	25.5.10
6	個人	3点	中村(武)文書・中村文書	調査研究	25.5.12
7	個人	1点	北九州地区地図目録	調査研究	25.5.22

番号	所属	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
8	(一財)西日本文化協会	2点	地図・絵図史料・絵葉書史料	『西日本文化』掲載の写真選定のため	25.6.18
9	福岡大学	3点	石炭関係営業報告書(紙焼)	調査研究	25.6.27
10	東北大学	66点	永江文書・野田大塊文書	調査研究	25.7.9～7.10
11	郵便史研究会	23点	篠田文書	調査研究	25.7.13～7.14
12	個人	24点	野田文書・永江文書	調査研究	25.7.14
13	柳川市史編さん係	531点	永江文書	市史編さん	25.7.19～26.3.14
14	個人	28点	河北文書・山北村庄屋文書・鎌水文書	調査研究	25.7.27～11.2
15	個人	35点	福岡日日新聞(紙焼)・絵葉書史料	調査研究	25.8.2
16	個人	155点	野田大塊文書・永江文書	調査研究	25.8.13
17	工学院大学	24点	伊熊(イ)文書・園田文書・林(美)文書・福岡藩関係史料	調査研究	25.8.20
18	福岡大学	96点	福岡日日新聞(紙焼)	調査研究	25.8.21
19	個人	10点	足立文書	調査研究	25.8.28
20	福岡市博物館	4点	小川家文書	展示事前調査	25.8.29
21	個人	3点	朱雀文書(紙焼)	調査研究	25.9.18
22	個人	12点	善導寺文書(紙焼)	調査研究	25.9.20
23	福岡大学	3点	地図・絵図史料	調査研究	25.9.29
24	佐賀近代史研究会	2点	地図・絵図史料・県庁引継文書	調査研究	25.9.29
25	JICA 横浜 海外移住資料館	3点	ハワイ移民史関係資料(紙焼)・福岡日日新聞(紙焼)	調査研究	25.10.10
26	個人	3点	西日本新聞(紙焼)	調査研究	25.10.20
27	福岡大学	2点	福岡県統計書(紙焼)・門司新報(紙焼)	調査研究	25.11.8
28	個人	21点	野田大塊文書	調査研究	25.12.14
29	個人	127点	花瀬村庄屋文書・中尾文書・園田文書・野仲文書・竹森文書・添田手永大庄屋中村家文書仮目録・田代(弘)文書・香月文書・中村(武)文書	調査研究	25.12.20～26.2.22
30	東北大学	12点	永江文書	調査研究	25.12.26～12.27
31	山川出版社	12点	写真プリントネガポジ・『福岡県史』近代編各口絵写真	著書用写真選定	26.2.6
32	個人	9点	福岡日日新聞(紙焼)		26.2.19
33	個人	4点	野田卯太郎日記(紙焼)	調査研究	26.2.23
34	福岡大学	94点	西川家文書・田代家文書	町史編さん	26.3.12
35	個人	13点	吉野文書・園田文書・矢野文書・山北村庄屋文書・鎌水文書	調査研究	26.3.12
36	福岡市史編さん室	60点	平岡浩太郎文書(紙焼)・磯野(泰)文書・野村(結)文書・野田文書・永江文書	市史編さん	26.3.13～3.20
37	河上建築事務所	14点	林(美)文書	調査研究	26.3.15
38	個人	1点	福岡日日新聞(紙焼)	調査研究	26.3.27

写真資料等の貸出・掲載許可一覧

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
1	株式会社浜島書店	1点	大宰府政庁復元模型写真	『新詳日本史』掲載	許可のみ
2	朝日新聞出版	1点	王塚古墳石室前室後壁写真	『新発見!日本の歴史』第9号掲載	デジタルデータ
3	株式会社ベストセラーズ	1点	門田遺跡出土鉄戈写真	『歴史人』6月号掲載	許可のみ
4	株式会社ベストセラーズ	1点	徳永川ノ上遺跡出土鉄剣写真	『歴史人』6月号掲載	許可のみ
5	株式会社青木書店	1点	曲り田遺跡出土石器・石製品・土製品写真	『講座日本の考古学 縄文時代(上巻)』掲載	デジタルデータ
6	大野城市	1点	大野城跡の航空写真	『(仮称)歴史をつなぐ路基礎調査報告書(概要版)』掲載	許可のみ
7	ローレンスキング京都	1点	栗田遺跡祭祀遺構出土土器写真	『Asian Art』掲載	デジタルデータ
8	株式会社旺文社	2点	大宰府政庁復元模型写真 水城跡～大野城跡航空写真	『2014年受験用 全国高校入試問題正解』掲載	許可のみ
9	公益財団法人アクロス福岡	1点	大野城跡百間石垣写真	『アクロス福岡情報誌7月号』掲載	許可のみ
10	九州大学記録資料館	12点	筑豊工業高校炭鉱写真	『エネルギー史研究』No.28 および九州大学学術情報リポジトリに掲載	許可のみ
11	広島県坂町	1点	曲り田遺跡出土土器写真	『坂町史通史(考古～近代)編』掲載	許可のみ
12	合志市教育委員会	2点	大宰府出土土簡写真	『広報こうし』5月号掲載	許可のみ
13	熊本日日新聞	4点	大宰府出土土簡写真	『熊本日日新聞』掲載	デジタルデータ
14	北九州市立松本清張記念館	7点	三雲南小路遺跡裏棺出土品等写真	特別企画展「松本清張と邪馬台国」パネル、図録に掲載	デジタルデータ
15	朝日新聞出版	1点	白山神社経塚出土遺物写真	『発掘された日本列島2013 新発見考古速報』掲載	許可のみ
16	株式会社ベストセラーズ	1点	西新町遺跡出土朝鮮半島系土器集合写真	『歴史人』6月号掲載	許可のみ
17	桂川町教育委員会	1点	王塚古墳前室後壁写真	『王塚古墳ポスターカード』掲載	許可のみ
18	読売新聞西部本社	3点	海津横馬場遺跡出土「巴形銅器」写真 藤の尾垣添遺跡9区75・76号竪穴住居跡写真 土北島野町下遺跡空中写真	『筑後かわらばん』掲載	デジタルデータ
19	株式会社 Windie	4点	大宰府政庁復元模型写真(2種類) 大宰府等鳥瞰図 水城復元図	BS日テレ『日本100巡礼』で放送	デジタルデータ
20	株式会社エスオーダブリュ	4点	正殿地区I期調査写真 昭和40年代大宰府政庁航空写真 蔵司区画溝写真 蔵司出土鉄製品写真	J:COM『発見!筑紫の歴史 時空の旅人』#26 「大宰府政庁～もう一つの朝廷～」で放送	デジタルデータ
21	霧島市教育委員会	1点	大宰府出土土簡写真	大隅国建国1300年記念小中学生向け小冊子掲載	デジタルデータ
22	株式会社平凡社	1点	門田遺跡出土爪形文土器写真	別冊太陽『縄文の世界』掲載	デジタルデータ
23	株式会社財界九州社	1点	水城跡航空写真	『財界九州』『筑紫地域レポート』掲載	デジタルデータ
24	株式会社山川出版社	1点	吉ヶ浦遺跡出土鉄鏡写真	『ビジュアル版日本史図録』掲載	許可のみ

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
25	築上町教育委員会	2点	広幡山城写真	夏季企画展「豊前宇都宮氏の世界」に展示および広報チラシ等に掲載	デジタルデータ
26	高松市	8点	大野城跡関連写真等	第4回古代山城サミット高松大会開催記念企画展「屋嶋城が築かれた時代」に展示および図録・チラシ等に掲載	デジタルデータ
27	有限会社スタジオ・ジップ	1点	西新町遺跡出土土器写真	『入門 邪馬台国と古代日本』掲載	デジタルデータ
28	熊本県教育庁	1点	西新町遺跡出土土器写真	「古代のアクセサリ展」に展示	CD-R
29	太宰府市文化ふれあい館	1点	銅管（国玉神社所蔵）写真	太宰府学講座「太宰府の仏教絵画―経典のための仏画―」に使用	デジタルデータ
30	青谷上寺地遺跡展示館	1点	三雲南小路遺跡出土土器雲文鏡写真	パネル展「弥生の鏡」に使用	デジタルデータ
31	大野城市	2点	水城復元図、「水城」銘墨書土器写真	広報「大野城市」（平成25年7月15日号）掲載	許可のみ
32	有限会社スタジオ・ジップ	2点	徳永川ノ上遺跡出土鉄剣写真 門田遺跡出土鉄戈写真	『入門 邪馬台国と古代日本』掲載	許可のみ
33	小郡市教育委員会	7点	西新町遺跡出土勾玉、ガラス玉鍍型実測図	『アクセサリの輝き～古代の技と美～』にてパネル及びリーフレットに掲載	許可のみ
34	宇美町教育委員会	1点	大野城跡百間石垣写真	古代山城サミット高松大会資料集に掲載	許可のみ
35	RKB毎日放送	1点	筑豊工業高校炭鉱写真	「世界記憶遺産 山本作兵衛からのメッセージ～炭坑絵師がつなく未来～」で放送	許可のみ
36	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	6点	祇園山古墳出土画文帯神獸鏡写真 外之隈遺跡Ⅰ区1号墳1号墓写真	『先史学・考古学論究VI』「画文帯神獸鏡の破鏡をめぐって」掲載	許可のみ
37	公益財団法人東洋哲学研究所	1点	大宰府府復元模型写真	「法華経―平和と共生のメッセージ」展示パネルに掲載	許可のみ
38	株式会社ユニフォトプレスインターナショナル	1点	三雲南小路遺跡出土ガラス製垂飾等写真	『最新日本史図説』掲載	許可のみ
39	第4回古代山城サミット高松大会実行委員会	6点	大野城跡関連写真	『日本古代の山城』掲載	許可のみ
40	株式会社日本入試センター	2点	大宰府府復元模型写真 水城跡・大野城跡航空写真	久山町文化財地図に掲載	許可のみ
41	小郡市教育委員会	10点	竹重遺跡空中写真 外之隈遺跡出土品等写真 立野遺跡A地区全景写真 下町外畑遺跡1号墳出土品等写真 城山遺跡群松尾1・2号墳全景写真	特別展『古墳の黎明～津古古墳群とその周辺～』パンフレット・ポスターに掲載	CD-R
42	立山博物館	1点	古野遺跡（乙金）出土銅製経筒ならびに経筒内経巻（CT画像）写真	特別企画展「立山と帝釈天」に展示、および関連出版物に掲載	デジタルデータ
43	久山町教育委員会	1点	白山神社経塚出土遺物写真	久山町製作映像「私たちの首羅山遺跡」に使用	許可のみ
44	大野城市教育委員会	1点	水城西門跡土壁断面土層写真	大野城市広報「広報大野城」「あけてみよう！歴史のとびら（56）水城をめぐる②土塁」掲載	デジタルデータ
45	韓国国立文化財研究所	1点	柿原古墳群実測図	『2012 韓国考古学 JOURNAL』（韓国語版、英語版）掲載	デジタルデータ
46	株式会社同成社	1点	西新町遺跡出土犬全身骨格写真	『イヌの考古学』掲載	許可のみ
47	霧島市教育委員会	1点	大宰府出土木簡写真	『大隅国建国と大隅正八幡宮の至宝～湾奥の古代・中世～』掲載	許可のみ
48	第4回古代山城サミット高松大会実行委員会	1点	大野城跡関連写真	「第4回古代山城サミット高松大会パンフレット」および「四国新聞」に掲載	許可のみ
49	小郡市教育委員会	2点	横隈山遺跡方形周溝墓全景等写真	特別展『古墳の黎明～津古古墳群とその周辺～』パネル展示	デジタルデータ
50	第4回古代山城サミット高松大会実行委員会	1点	大野城跡クロガネ岩城門写真	『日本古代の山城』掲載	許可のみ
51	太宰府市教育委員会	5点	水城跡、大野城跡関連写真 大宰府府復元模型写真	「太宰府の歴史と文化を学ぶ副読本」掲載	デジタルデータ
52	一般社団法人筑紫野むらさきまちづくり協会	17点	木簡写真	筑紫野むらさきまちづくり協会ホームページ掲載	許可のみ
53	宇美町教育委員会	17点	大野城跡、水城跡関連写真 筑前国四王寺山経塚出土品写真	『大野城跡ガイド本』掲載	デジタルデータ
54	株式会社ユニフォトプレスインターナショナル	1点	水城跡写真	『最新日本史図説』掲載	許可のみ
55	個人	2点	大宰府出土中国陶磁器写真	「古代中世の日・中・朝貿易__7-16世紀」掲載	許可のみ
56	個人	3点	石崎曲り田遺跡出土遺物写真および実測図	『考古学研究』「種実由来土器圧痕の解釈について」掲載	許可のみ
57	合志市教育委員会	2点	大宰府出土木簡写真	合志市合志歴史資料館第9回特別展「合志1300年の歴史と共に～合志の歴史と文化財」ポスター、チラシ、資料集および木簡模型展示に使用	許可のみ
58	図書出版海鳥社	2点	西新町遺跡竪穴住居跡写真 三雲南小路遺跡出土状況写真	『福岡博覧』掲載	デジタルデータ
59	学校法人高宮学園	1点	彼坪遺跡出土高坏写真	「高2センター模試（日本史B）」掲載	許可のみ
60	社団法人静岡県茶業会議所	1点	誓願寺孟蘭盆一品経録起写真	「栄西と『喫茶養生記』」掲載	許可のみ
61	西日本新聞社	1点	金銅四葉座飾金具（三雲王墓）写真	「博学博多200 増補改訂版」掲載	許可のみ
62	行橋市教育委員会	3点	延永ヤヨミ園遺跡写真	「歴史の里・延永マップ」掲載	デジタルデータ
63	鴻和法律事務所	4点	筑豊工業高校炭鉱写真	調査のため	デジタルデータ
64	株式会社昭和堂	4点	大宰府史跡関連写真	『大学的福岡・太宰府ガイド―こだわりの歩き方』掲載	デジタルデータ
65	太宰府市教育委員会	2点	水城跡木樋取水口写真 水城復元想像図写真	水城築造1350年プレ記念講演会資料に掲載	デジタルデータ
66	株式会社浜島書店	2点	汐井掛遺跡出土鏡、刀子写真	『新詳日本史』掲載	許可のみ
67	株式会社洋泉社	2点	船原古墳遺物埋納坑出土品CT写真	『歴史REAL 女たちの戦国時代』掲載	デジタルデータ
68	株式会社渋柿舎	3点	竹原、日ノ岡、珍敷塚古墳壁画写真	『装飾古墳の世界をさぐる（仮題）』掲載	デジタルデータ
69	株式会社アフロ	1点	大宰府出土土師器（坏）写真	『ニューワイド 学研学習百科シリーズ（仮）』掲載	デジタルデータ

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
70	株式会社雄山閣	2点	徳永川ノ上遺跡出土玉類写真	『季刊考古学』第127号掲載	デジタルデータ
71	株式会社平凡社	1点	誓願寺孟蘭盆縁起写真	別冊太陽「栄西と臨済禅」掲載	許可のみ
72	大野城市教育委員会	1点	水城跡木樋内部写真	『広報大野城』2月15日号掲載	許可のみ
73	個人	1点	大宰府出土木簡写真	『(仏教美術論文集第7巻)近世の宗教美術一領域の拡大と新たな価値観の模索一』「黄葉様彫刻史」掲載	デジタルデータ
74	AD・都市造園グループ	3点	太田静六資料写真	研修資料掲載	デジタルデータ
75	鳥取県埋蔵文化財センター	1点	三雲南小路遺跡2号甕棺墓出土星雲文鏡写真	『調査研究紀要5』掲載	デジタルデータ
76	個人	1点	大野城跡調査地区周辺地形図と建物配置図	『鞠智城と古代社会 第2号』「日本における古代山城の変遷—とくに鞠智城を中心として—」掲載	許可のみ
77	太宰府市教育委員会	3点	博多大宰府図屏風、水城木樋取水口写真	「太宰府の歴史と文化を学ぶ副読本」掲載	デジタルデータ
78	個人	1点	東小田峯遺跡出土甕棺写真	ISIL International 特別号論文に掲載	デジタルデータ
79	公益財団法人九州文化協会	3点	大宰府出土文様博拓影	『平成25年度九州芸術祭 文学賞作品集44号』掲載	許可のみ
80	有限会社海島社	2点	三雲南小路遺跡出土前漢鏡、甕棺墓写真	『日本国家の起源と天孫降臨』掲載	許可のみ
81	兵庫県立考古博物館	15点	大宰府・博多湾航空写真等	特別展「古代官道 山陽道と駅家—律令国家を支えた道と駅—」に展示、および図録等に掲載	デジタルデータ
82	株式会社大修館書店	2点	大宰府出土木簡外線写真および実測図	『歴博国際シンポジウム 古代日本と古代朝鮮の文字文化交流(仮)』に掲載	デジタルデータ
83	高松市	3点	大野城跡関連写真	企画展「屋嶋城が築かれた時代」に展示	許可のみ
84	福岡県立筑紫丘高等学校	1点	筑紫丘高校所蔵瓦経片写真	研究紀要掲載	許可のみ
85	嘉麻市教育委員会	1点	王塚古墳石室壁画写真	『6世紀の九州島 ミヤケと渡来人』掲載	許可のみ
86	宇美町教育委員会	1点	大野城跡航空写真	『広報うみ』平成26年3月号掲載	許可のみ
87	久留米市教育委員会	6点	向野古墳群出土品写真 塚崎東畑遺跡1号人骨関連写真	「みづまの歴史展」解説パネルに使用	デジタルデータ
88	株式会社清水書院	1点	大宰府等鳥瞰図	『日本と世界の歴史 改訂版』および教材等に掲載	デジタルデータ
89	大野城市教育委員会	1点	水城西門跡土塁壁面土層写真	『広報大野城』「あけてみよう!歴史のとびら(62)」掲載	許可のみ
90	太宰府市	2点	太田静六資料写真	『年報太宰府学』第8号掲載	デジタルデータ
91	太宰府市教育委員会	1点	観世音寺絵図写真	『太宰府の歴史と文化を学ぶ副読本』掲載	許可のみ
92	株式会社G.B.	1点	大宰府政庁復原模型写真	『日本の神社』第14号掲載	デジタルデータ
93	株式会社同成社	1点	三雲遺跡群出土甕の刻書文字写真	『出土文字に新しい古代史を求めて』掲載	許可のみ
94	スタジオAK	1点	大宰府政庁復原模型写真	『地形で読み解く日本の歴史』掲載	デジタルデータ
95	高知大学人文学部	2点	三雲南小路遺跡甕棺出土鏡写真	『卑弥呼と女性首長(仮題)』掲載	許可のみ
96	財団法人古都大宰府保存協会	6点	水城跡関連写真	『特別史跡水城跡 文化遺産巡りマップ』掲載	デジタルデータ
97	株式会社ユニフォトプレスインターナショナル	1点	水城跡航空写真	『社会科 中学校の歴史—日本の歩みと世界の動き—(仮称)』に掲載	許可のみ
98	株式会社NHKエンタープライズ	1点	大宰府復原イラスト画像	『タイムスクープハンター のろしを上げよ!』ネットワーク配信に提供	許可のみ
99	財団法人古都大宰府保存協会	2点	「水城」銘墨土器写真 1点 大宰府政庁復原模型写真 1点	「太宰府の史跡と文化遺産」掲載	許可のみ
100	日本放送協会	1点	三雲南小路王墓甕棺	掲載許可後、使用中止	許可のみ
101	行橋市教育委員会	2点	福原長者原遺跡空撮、南門(八脚門)写真	『行橋の歴史遺産』(ゆくはし歴史ガイドブック)掲載	許可のみ
102	福岡市博物館	59点	小川家文書写真	特別展「山笠の力 ハカタウツシ」に展示のため	許可のみ
103	株式会社ブランディット	1点	参勤交代行程図	『入試過去問徹底解説2013年下巻』掲載	許可のみ
104	福岡市史編さん委員会	1点	旧福岡城内における県庁写真	『新修 福岡市史 特別編 福岡城—築城から現代まで—』掲載	デジタルデータ
105	福岡県立公文書館	1点	若松港絵葉書写真	福岡共同公文書館第2回企画展示に使用	デジタルデータ
106	福岡市史編さん委員会	1点	林(美)文書写真 福岡舞鶴城址絵葉書写真	『新修 福岡市史 特別編 福岡城—築城から現代まで—』掲載	許可のみ
107	株式会社KADOKAWA 中経出版ブランドカンパニー	7点	西新町遺跡遺構、出土品写真 大宰府、水城関連写真 地図・絵図史料、絵葉書写真	『博多謎解き散歩』掲載	許可のみ
108	一般財団法人西日本文化協会	1点	大濠公園絵葉書写真	『西日本文化』第467号「大濠公園西湖モデル説を追跡する1」掲載	デジタルデータ
109	福岡市史編さん委員会	1点	林(美)文書写真	『新修 福岡市史 資料編 近世2 家臣とくらし』掲載	許可のみ
110	文化庁	1点	首羅山遺跡 画像	「発掘された日本列島展2013」展示のため	
111	筑紫野市歴史博物館	12点	水城跡・大野城跡関係写真	「発掘!阿志岐山城」に展示のため	デジタルデータ
112	行橋市教育委員会	2点	延永ヤヨミ園遺跡、福原長者原遺跡現場・遺物写真	「見えてきた豊前の国府」に展示のため	デジタルデータ
113	大宰府展示館	2点	筑前国分寺跡発掘風景写真	「史跡筑前国分寺跡と周辺遺跡」に展示のため	デジタルデータ
114	甘木歴史資料館	12点	東蒲池門前遺跡、柿原古墳群現場写真	「古から今も身近な生き物たち」に展示のため	デジタルデータ
115	徳島市立考古資料館	82点	貝元遺跡、柏田遺跡他出土玉類写真	「装身具の世界—玉文化に魅せられて」図録作成のため	デジタルデータ
116	島根県古代出雲歴史博物館	2点	門田遺跡出土瓜形土器写真	「山陰の黎明 縄文のムラと暮らし」に展示のため	デジタルデータ
117	福岡市博物館	3点	西新町遺跡空撮写真、大宰府政庁空撮写真、スタレ遺跡人骨写真	常設展示に使用のため	デジタルデータ
118	大村市	1点	『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告II』掲載図	市史掲載のため	掲載許可
119	韓国テレビ局	1点	西新町遺跡出土遺物撮影	テレビ番組制作のため	

(4) ボランティア

◎九歴ボランティア

開館当初から設置している当館のボランティア（通称「九歴ボランティア」）は、25年度から第2期の方々26名が新たに活動されている。土・日・祝日の古代体験プログラムの実施や館主催の講演会・イベントの運営支援、来館学習への対応補助などを行っており、25年度からはボランティア主催のイベントも行っている。

この中で、3名の方々が諸事情により3年の任期の途中で退任され、総数23名となったため、9月に追加募集を行ったところ、4名の応募があった。このうち年内に応募された2名については1月から養成研修を実施し、26年度当初から活動を開始することとした。また、3月に応募があった2名については26年度当初に養成研修を実施し、6月から活動を開始する予定である。

◎研修会

○定例研修会

九歴ボランティアとしての知見、識見を高めるとともに、ボランティア間の交流のため、毎月第2土曜日の午前中に定例研修会を開催している。

研修会の内容は、当館学芸員による講話、展示見学などを行った。その内容は以下のとおりである。

回数	開催日	内 容
第 1 回	4 月 13 日	企画展「きゅうおにとタイムトラベル」展示解説
		「飛び出すむかしの宝物」の仕組みとメニューの説明
第 2 回	5 月 11 日	古代体験メニューの実施方法復習
		特集展示「出土貿易陶磁器の世界」展示解説
		特集展示「近世英彦山の古文書」展示解説
第 3 回	6 月 8 日	古代衣装着付け練習
		特集展示「筑紫野地峡帯の旧石器」展示解説
第 4 回	7 月 13 日	当館所蔵の福岡県史編纂史料の概要
第 5 回	8 月 10 日	企画展「発掘速報展 2013」展示解説
		特集展示＋パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり」展示解説
第 6 回	9 月 14 日	特別展関連「飛び出すむかしの宝物」出品メニュー解説
		仏像のみかたについて
第 7 回	10 月 12 日	特別展「戦国武将の誇りと祈り」展示解説
		企画展「いろいろな目で見てみたら」展示解説
第 8 回	11 月 9 日	当館の教育普及と学校教育について
第 9 回	12 月 14 日	当館の保存科学活動について
第 10 回	1 月 11 日	「飛び出すむかしの宝物」新メニュー解説
第 11 回	2 月 8 日	企画展「五卿と志士」展示解説
		企画展「太田静六が見た福岡の建造物」展示解説
第 12 回	3 月 8 日	研究グループのテーマについて（協議）

○バス研修会

25年度は3月13日（木）に北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）を訪問した。参加した九歴ボランティアは19名である。

いのちのたび博物館のボランティアは「シーダー」と称し、来館者向けの体験活動を積極的に展開している。そこで、2館のボランティアが交流をもつ場を設定することで、お互いにより良い刺激を受けあうことをねらいとした。いのちのたび博物館では「小倉織」「折り紙」「紙芝居」の3グループが、九歴ボランティアを来館者に見立てて、実際の来館者向け体験活動を行った。体験活動をしながらい見交換、質疑応答が行われた。



バス研修「いのちの旅博物館 小倉織」

◎ボランティア活動

○古代体験・バックヤードツアー

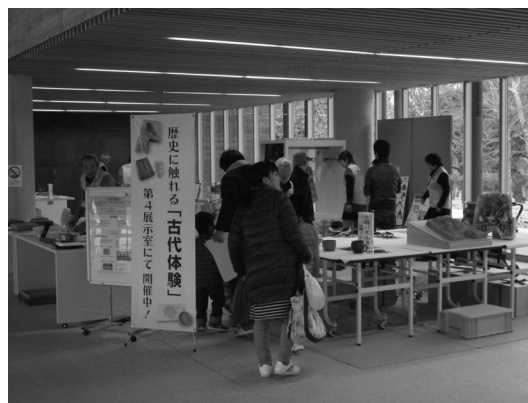
25年度より、収納・施錠ができるキャスター付きの作業台を設置したことで、準備、片付けがスムーズになり、道具の整理・管理もしやすくなった。また、体験メニューのうち、24年度までは6枚600円、6枚+枝つき1,200円の2つのメニューであった和同開、珎鑄造に、1枚100円のメニューを追加した。これにより、来館者がより気軽に鑄造を体験できるようになった。

24年度7月より開始した「飛び出すむかしの宝物」は、25年度4月より、来館者が出土品に直接さわれるようになり、ボランティアが積極的に来館者に勧めたことで体験者が増加した。

2月の節分の時期に行った企画展「いろいろな目で見てみたら」に合わせ、来館者から「きゅうおにぬりえ」の作品を募集し、エントランス西側の壁面に展示した。参加賞としてきゅうおにのしおりを進呈し、園児・児童が来館するとボランティアが声をかけ、展示作品は100点に及んだ。

不要になった過去の展示関係のチラシやポスターを再利用して紙バッグを作り、拓本や瓦マグネットなど作品を持ち帰るための入れ物とした。

25年度の古代体験メニュー及び体験の実績は以下のとおりである。



古代体験の実施



「きゅうおにぬりえ」の展示

古代体験メニュー及びバックヤード解説	参加者数（名）
「和同開珎をつくろう（鑄造体験）」（有料）	414
「DAZAIFU デザインコレクション①（拓本とり）」	508
「DAZAIFU デザインコレクション②（瓦マグネット作り）」（有料）	310
「古代の衣装を着てみよう（古代衣装の試着）」	198
「パズル土器（復元体験）」	1,537
「大宰府政庁建物の復元」	415
「触って感じてみよう銅矛・銅剣」	963
「きゅうおに」のぬりえにちょうせんしよう！！	453
「きゅうおに」紙芝居	29
飛び出すむかしの宝物	130
バックヤード（第4展示室含む）解説	847
体験者延べ人数	5,804

○研究グループ

内容：九歴ボランティアは、各自の興味のあるテーマに基づいてグループを作り、研究を行う。第2期のボランティアは、2年目から3年目にかけて、研究グループを作り、研究活動を行うスケジュールとしている。26年度からの研究グループ立ち上げ及び研究活動の実施に向けて、全員に研究テーマに関するアンケートを実施した。この内容を元に、26年度当初にテーマおよびグループを決め、研究活動を開始する予定である。

○ボランティアイベントの開催

期日：平成26年3月2日（日）

内容：25年度から開始した事業で、古代体験コーナーの一角を利用し、ボランティアが実施する小規模なイベントである。来館者サービスを向上させることはもちろん、ボランティア各人の持つ様々な技術や特技を用いて、発案・計画・準備・実施を主体的に展開していくことで、来館者サービスへの意識の向上と活動の活性化を促進することも目的とした。

第1回は「折り紙でおひなさまをつくろう」と題し、雛祭りにあわせて開催した。職員とともに構想を練り、実施内容や事前準備についてはボランティアが

積極的に行った。内容は折り紙で雛飾りやぼんぼりなどを折って台紙に貼り付けて装飾をするもので、無料で自由に参加できるものである。また、雛祭りの歴史などの解説パネルも設置し、日本の伝統文化としての歴史を知った上で参加していただくという、歴史系博物館ならではのイベントとした。

当日は午前・午後2回の開催とし、合計32名の参加者があった。成功裏に終わったことから、ボランティアの主体性が活性化し、次回以降の開催計画の策定や、チラシやポスターを活用した袋作り、新たな体験イベントに向けての提案など、積極的に発案・計画を行う契機となった。

これを受けて、26年度から開始するボランティア自主研究のグループテーマの一つにも設定し、今後はグループでイベントの研究・計画策定を進めながらボランティア全体で実施することとしている。



イベント「折り紙でおひなさまをつくろう」

(5) 普及活用事業

当館では、教育普及事業や文化財の活用及び広報活動の担当部署として、25年度から学芸調査室に「広報普及班」を新たに設置した。小中学校の教員各1名と班長のあわせて3名の職員を配置し、各種講座や講演会、一般・学校団体への対応、展示やイベントの広報などの体制を強化し、来館者の誘致を図るとともに、文化財愛護思想の普及や文化財の活用に資することとした。

◎講 座

○名誉館長講座

西谷正名誉館長を講師として、主に第4土曜日に実施する全12回の連続講座である。通年のテーマは24年度に引き続き「古代の朝鮮半島」である。定員160名に対し240名の受講申し込みがあった。また、24年度に引き続き、12回すべてを受講した受講生52名に皆勤賞表彰を行った。

開催日、演題、受講者数は以下のとおりである。

回数	開催日	演 題	受講者数(名)
第1回	4月27日	新羅京と渤海京の時代	240
第2回	5月25日	新羅王京と九州五小京	200
第3回	6月22日	統一新羅の寺院跡	184
第4回	7月27日	統一新羅の古墳と王陵	180
第5回	8月24日	統一新羅の土器・陶器と瓦	162
第6回	9月28日	正倉院の新羅文物	139
第7回	10月19日	渤海五京の遺跡(1)	148
第8回	11月23日	渤海五京の遺跡(2)	144
第9回	12月21日	渤海五京の遺跡(3)	155
第10回	1月25日	渤海五京の遺跡(4)	148
第11回	2月22日	ロシアの渤海遺跡	158
第12回	3月22日	渤海と日本の考古学	143
受講者数総計			2,001

○九歴講座

第2土曜日に当館や3分館の学芸員の他、市教育委員会等の外部講師を招いて実施し、延べ1,437名の方が受講した。開催日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。

回数	開催日	演 題	講師(所属)	受講者数(名)
第1回	4月13日	埴輪が語る古墳時代	小嶋 篤	144
第2回	5月11日	鴻臚館跡の最新発掘調査成果	吉武 学(福岡市)	146
第3回	6月8日	古代から中世の貿易陶磁器について	遠藤 啓介(九州国立博物館)	133
第4回	7月13日	薩摩塔とその世界	井形 進	112
第5回	8月10日	鉄道遺産への招待	渡部 邦昭	112
第6回	9月14日	山本作兵衛炭坑記録画からみた筑豊炭田	福本 寛(田川市石炭・歴史博物館)	107
第7回	10月12日	国史跡 首羅山遺跡	江上 智恵(久山町)	97
第8回	11月9日	瀬高下荘・鷹尾別符と大宮司紀氏鷹尾家	田淵 義樹(柳川古文書館)	96

第9回	12月14日	八幡神序説(1)	高橋 章(求菩提資料館)	135
第10回	1月11日	先史時代の有明海沿岸地域	小池 史哲(甘木歴史資料館)	121
第11回	2月8日	絵師がみた幕末の太宰府とその遺産	井上 理香(太宰府市文化ふれあい館)	116
第12回	3月8日	八幡造論争史	土田 充義(鹿児島大学名誉教授)	118
受講者数総計				1,437

○九歴ゼミ

第2・第4水曜日の夜18:30から20:00(18:00受付開始)まで開催する、当館の学芸員を講師とした連続講座である。3か月を1単位として年間4期、各期6回ずつ開講した。定員30名に対して每期それを上回る応募があり、可能な限り受け入れる方向で対応し、25年度は応募者全員を受講生とした。

開催期間、テーマ、講師、各期の延べ受講者数は以下のとおりである。

期	開催期間	テーマ	講師	延べ受講者数(名)
第1期	4月10日～6月26日	仏像拝観基礎講座	井形 進	360
第2期	7月10日～9月25日	九歴古文書講座	一瀬 智	317
第3期	10月9日～12月25日	科学の目を見た文化財	加藤 和歳	204
第4期	1月8日～3月26日	史料が語る大宰府の歴史	松川 博一	339
延べ受講者数総計				1,220

○特別展・企画展記念講演会

定期的な講演会や講座とは別に、特別展や企画展等の展示期間中に合わせ、展示内容に関連する講演会や報告会を開催した。

開催日、演題、講師、受講者数は次のとおりである。

開催日	演題	講師	受講者数(名)
9月7日	『調査報告会2013』 「福原長者原遺跡」 「皿山古墳群」 「大宰府史跡」 「上片島遺跡群」	岡田 諭 小嶋 篤・小林 啓 下原 幸裕 城門 義廣	132
10月20日	『戦国武将の誇りと祈り』 「豊臣秀吉と九州の城郭」	千田 嘉博(奈良大学教授)	188
11月3日	『戦国武将の誇りと祈り』 「戦国武将と連歌」	有川 宜博(北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員)	119
12月7日	『水城・大野城調査研究事始め』 「大宰府都城研究の現在」	小田 富士雄(福岡大学名誉教授・大宰府史跡調査研究指導委員会委員長)	124
2月1日	『五卿と志士』 「五卿と薩長同盟・幕長戦争」 「五卿と野村望東尼」	三宅紹宣(広島大学大学院教授) 谷川佳枝子(福岡地方史研究会会員・野村望東尼研究者)	203
受講者数総計			766

○夜のギャラリートーク

当館の学芸員が、担当した展示について専門性を活かした解説を行うギャラリートークを開催した。一旦閉館したのちに、18:30より再度開館し、19:00～20:00に解説を行った。

開催日、内容、講師、参加者数は以下のとおりである。

回数	開催日	内容	講師	参加者数(名)
第1回	8月21日	特集展示「福岡のお金の歴史2000年」 特集展示「福岡の鉄道遺産ものがたり」	松川 博一 渡部 邦昭	12
第2回	10月16日	特別展「戦国武将の誇りと祈り」	松川 博一	11
第3回	12月18日	企画展「水城・大野城調査研究事始め」	岡寺 良	16
第4回	1月15日	仏教美術	井形 進	18
第5回	2月5日	企画展「五卿と志士」	一瀬 智	17
参加者数総計				74

◎イベント・体験講座など

当館に親しんでいただき、あらゆる世代に歴史や文化財を身近に感じていただくことを目的として、各種イベントや体験教室などを開催している。

25年度は、恒例の七夕イベントや九州歴史資料館開館40周年・移転開館3周年に関連する記念イベントとともに、小学生などを対象とした体験教室などを開催した。また、他機関や団体と連携した展示やイベント、体験講座なども開催した。

○きょうれき七夕イベント

期日：平成25年7月7日(日)

内容：当館が所在する小郡市が「七夕の里」をアピールしていることに関連し、毎年七夕近くの週末に開催しているイベントである。25年度は「福岡大学 なぎなた同好会」による演武及びパフォーマンス、「ひだまりカルテット」によるコンサートを開催した。また、機織り体験や古代衣装着用などの古代体験、来館者に書いていただいた短冊を館内設置の七夕飾りに飾り付けるなど、こどもを対象とした催しも開催し、170名の参加があった。プログラムは以下のとおりである。

- 10:30 開会式・七夕の歴史
- 10:45～11:15 「福岡大学なぎなた同好会」なぎなた演武
- 13:30～14:30 「ひだまりカルテット」コンサート
- 15:00 閉会式
- 9:30～16:00 「古代体験」「機織り体験」

○きょうれき絵画教室—九歴の名品を描こう—

期日：平成25年7月21日(日)・28日(日)

9:30～12:00・13:30～16:00の各2回
内容：第16回企画展「いろいろな目で見てみたら…みんなで描いた九歴の収蔵品—」の関連企画として、小学生を対象に実施した。学芸員が展示室で展示資料の解説を行い、その中から参加者が好きな資料を選んで描いてもらった。資料をどのように描く



きょうれき七夕イベント「なぎなた」



きょうれき絵画教室

かは自由で、色調や形状も実物にあわせる必要もなく、感じるままに自由に描いてもらった。69名の小学生の参加があり、企画展内で実物資料とともに作品を展示した。

○なるほど!!子ども歴史教室

期日：平成25年8月22日(木)・23日(金)

内容：24年度に引き続き、夏休み中の小学生を対象に、歴史や考古学に関する体験を行う歴史教室を開催した。

25年度は、当時行われていた特集展示の関連イベントとして実施し、第1回は「福岡のお金の歴史2000年」、第2回は「福岡鉄道遺産ものがたり～鹿児島本線編～」に即した内容で構成している。当日は、特集展示を担当した学芸員が展示に関するこども向けの講座などを行い、さらに工作体験として和同開珎の鋳造体験と鉄道車両のペーパークラフト工作を行った。これらを通して歴史に触れ、また歴史に関する疑問を学芸員に直接尋ねるなど、ふだんなかなかできない体験となった。延べ45人の参加があった。



なるほど!こども歴史教室
(お金の歴史ゼミナール)

第1回 「福岡のお金の歴史2000年!!」

- 13:35～14:00 お金の歴史ゼミナール(こども向け講座)
- 14:00～14:30 昔のお金を見てみよう!!(特集展示見学)
- 14:30～15:00 昔のお金を作ってみよう!!(和同開珎鋳造体験・拓本体験)
- 15:00～15:30 夏休み!!何でも質問コーナー

第2回 「九州の鉄道むかしばなし」

- 13:35～14:00 九州の鉄道の歴史ゼミナール(こども向け講座)
- 14:00～14:30 鉄道の歴史を探ろう!!(特集展示見学)
- 14:30～15:00 鉄道の模型を作ってみよう!!(ペーパークラフト工作)
- 15:00～15:30 夏休み!!何でも質問コーナー

○ナイトミュージアム in きゅうれき

閉館後の博物館を探検する「ナイトミュージアム」を中核とした、宿泊を伴うイベントである。夏休み期間中である7月25日(木)・26日(金)の1泊2日で実施し、8家族、19名の参加があった。当館は宿泊機能をもたないため、寝具の持参と保護者の宿泊を参加条件として募集を行った。また、県立青少年科学館の協力を得て、天文に関するDVD鑑賞も行った。

プログラムは以下のとおりである。

1日目：7月25日(木)

14:20～15:40 館内見学
(バックヤード・収蔵庫を中心に)

15:40～17:00 火起こし
(小郡市埋蔵文化調査センター協力)



ナイトミュージアム in きゅうれき

17:00～18:40 夕食・片づけ・水浴び
 18:40～19:00 歴史上の星の話（古墳の天体図などをもとにした話）
 19:00～20:00 館内探検（肝試しの要素を加味し、展示室等をウォークラリー形式で回る）
 20:00～20:20 夏の星の話（福岡県青少年科学館職員による星座に関する話）
 20:20～21:00 天体観察（当日は曇天のため研修室でDVD鑑賞）
 21:00 就寝

2日目：7月26日（金）

6:00 起床
 6:30～8:00 自然観察（三沢遺跡・館周辺 NPO 法人三沢遺跡の森を育む会協力）
 8:00～8:30 朝食・片づけ
 8:30～10:00 古代体験（和同開珎鑄造体験・瓦マグネットづくり・土器パズル）
 10:15～11:15 勾玉制作（小郡市埋蔵文化調査センターにて）

○考古学体験教室 2013・2014(発掘速報展 2013 関連事業)

期日：平成25年8月1日（木）・平成26年3月23日（日）

内容：当館は毎年県内に所在する多くの遺跡の発掘調査を実施し、文化財整理室ではそれらの遺跡から出土した土器や石器などの洗浄や復元、実測、写真撮影、製図作業を行い、調査報告書を刊行している。この整理作業は開館時には中庭からガラス越しに常に見学でき、またレプリカの瓦を使った拓本、鬼瓦や土器・陶磁器の復元パズルなど、整理作業内容の一部は当館ボランティアによって運営されている古代体験で休日に体験できるようになっている。



考古学体験教室

今回は発掘速報展の開催に合わせて夏に1回、春に1回の計2回、当館職員の指導により実際に発掘調査で出土した資料を用いて体験教室を行った。8月開催分は「こども考古学体験教室」として小学校5・6年生、3月開催分は「考古学体験教室」として小学校5年生以上（大人も含む）を対象として行った。土器の洗浄や展開・復元作業、デジタルカメラによる土器の撮影などを直接体験してもらうことで、文化財に対する理解を深めてもらった。8月1日開催分は7名、3月23日開催分は5名の参加者があった。

○クテ打組紐技法講座

主催：クテ打ち組紐技法研究会・九州歴史資料館

期日：平成25年5月25日（土）・26日（日）・31日（金）・6月1日（土）

内容：文化庁「芸術文化振興基金助成事業」の一環として、当館とクテ打組紐技法研究会の主催で前年度より継続した事業である。

24年度には入門編を実施し、25年度は、より複雑な技法「4段階手順」という新たな方法で組紐を組む中級編を実施した。24年度に引き続き、クテ打組



クテ打組紐技法講座中級編

紐技法研究会が講師として指導にあたった。また、中級編に先立ち、入門講座を復習する「復習（入門）編」を、当館学芸員および入門編を習得した九歴ボランティアを講師として実施した。

開催日、内容、受講者数は次のとおりである。

開催日	内容	参加対象	受講者数 (名)
5月25日	「復習（入門）編」指導者講習	九歴ボランティア	11
5月26日	「復習（入門）編」	申込の一般参加者	20
5月31日	「中級編」指導者講習	九歴ボランティア	7
6月1日	「中級編」	申込の一般参加者	24
受講者総数			62

○開館 40 周年・移転開館 3 周年記念イベント「秋月林流抱え大筒披露と記念茶会と琴演奏」

期日：平成 25 年 10 月 14 日（月・祝）

内容：当館が昭和 48 年に太宰府市に開館して 40 周年、平成 22 年に小郡市に移転開館して 3 周年を迎えることを記念したイベントを開催した。また同周年記念特別展に関連したイベントであることから、内容も特別展の雰囲気と合致するものとし、戦国武将のイメージに合わせて抱え大筒の披露、茶会、琴演奏をメインとした。

午前は前庭にて秋月藩砲術林流保存会による「秋月林流抱え大筒」が披露された。カメラを抱えたファンの方をはじめ、老若男女問わず多数の参加者があり、抱え大筒の迫力に大歓声があがった。午後は隣接する県立小郡高等学校琴部の皆さんに、第 4 展示室にて琴を演奏していただいた。同展示室では「記念茶会」と題して小郡市文化協会裏千家による茶会を終日開催しており、茶会と琴の音色が和の雰囲気を醸し出した。また、メインイベントの合間に特別展展示資料を解説する「ギャラリートーク～学芸員お勧めの逸品～」を午前・午後の 2 回行った。学芸員の詳細な解説のもと、多数の参加者に展示内容をじっくり観覧いただくことができた。



開館 40 周年記念イベント（秋月林流抱え大筒）



記念茶会（小郡市文化協会裏千家）

さらに、通年開催している古代体験も研修室において終日行い、「“古代米の本格栽培にむけて・・・”プロジェクト」として中庭で栽培していた古代米の穂摘み体験も行った。

当日の来館者は 1,250 名となり、移転開館以来最高を数えた。

スケジュール及び内容は以下のとおりである。

10：40～11：00 ギャラリートーク「学芸員お勧めの逸品①」

11：20～11：50 秋月藩砲術林流保存会による「秋月林流抱え大筒」

13：00～13：30 小郡高等学校琴部による「琴演奏」

- 14：00～14：20 ギャラリートーク「学芸員お勧めの逸品②」
- 14：30～15：00 石包丁（レプリカ）で「古代米刈り取り体験」
- 10：00～15：20 小郡市文化協会（裏千家）による「記念茶会」
- 9：30～16：00 古代体験

○「秘密のバックヤードツアー in 九州歴史資料館」（久留米まち旅博覧会参加事業）

期日：平成 25 年 10 月 14 日（月・祝）

25 年度も「久留米まち旅博覧会事務局（NPO 法人 久留米ブランド研究会）」が実施している「久留米まち旅博覧会」に参加し、「秘密のバックヤードツアー in 九州歴史資料館」を開催した。通常は見ることのできない文化財収蔵庫や整理作業室などを見学していただく「バックヤードツアー」をメインとし、お茶会と閉館後の特別展の解説という内容である。特別展会期中及び周年記念イベント開催日に実施し、24 名の参加者があった。

26 年度は、同事業の「いつでもまち旅」にも参加し、月 1 回のバックヤードツアーを実施する予定である。

○収蔵品オンデマンド「飛び出すむかしの宝物」事業

来館者の多様な閲覧希望に対応するとともに、収蔵品の公開・普及の促進を図るため、来館者が閲覧したい収蔵資料をその場で見る事ができるコーナーである。土・日・祝日限定で、ボランティア控え室前で実施しており、25 年度からは収蔵品に触ることができるようにするとともに、事業名を「飛び出すむかしの宝物」と改めた。また、当館開催企画展等の展示内容に対応してメニューを追加し、現在 5 メニュー 60 点を公開している。26 年度は発掘速報展対応メニューを改変して、新しい資料を提供する予定である。25 年度は延べ 512 名の利用者があった。

各メニューの利用者は以下のとおりである。

メニュー	利用者数 (名)
縄文時代メニュー	145
発掘速報展対応メニュー	162
江戸時代メニュー	14
戦国時代メニュー	58
明治・大正・昭和メニュー	133



飛び出すむかしの宝物（公開資料の一部）

○九州歴史資料館・三沢遺跡の森 自然体験活動

主催：北筑後地域環境協議会・九州歴史資料館・NPO 法人 三沢遺跡の森を育む会

24 年度まで、北筑後地域環境協議会（福岡県および近隣市町、事務局は北筑後保健環境福祉事務所）により、当館に隣接する県指定史跡三沢遺跡とその周辺の自然環境に関し保全のための調査が行われてきた。25 年度からは、その調査に際し行われてきた周辺住民への啓発事業を、三者の共催事業として開催した。



三沢と歴史の自然プロジェクト「ろうそく作り」

開催日、主催、参加人数は次のとおりである。

開催日	内 容	参加人数 (名)
4月21日	「三沢遺跡の森 生物多様性の保全および再生のための調査報告書」発表会 どんぐり(イチイガシ)植樹	36
7月28日	館周辺の樹木観察会と木の名札付け	16
	自然材料を使った工作体験	23
11月10日	館周辺の樹木観察会と木の名札付け	16
	三沢遺跡の森の自然観察会+どんぐりクッキーづくり	31
2月9日	植樹体験活動と記念樹の植樹	14
	蠟燭を使った和ろうそく作り(佐賀県みやき町「中原の豊かな自然を守る会」協力)	48

○“古代米の本格栽培にむけて…”プロジェクト

期間：平成25年5月～10月

内容：当館は、古代米などの栽培農園を持たないため、現在のところ本格的な植物栽培などの実験考古学的イベントを行うことができないが、将来的なイベント実施に備え、24年度からパンケースによる古代米栽培を実施している。25年度は、(財)古都大宰府保存協会の協力を得ながら、パンケース10箱分の赤米・黒米栽培を当館の中庭にて行った。例年どおり、発芽・田植えの後、順調に生育し、10月14日(月・祝)には、開館40周年記念イベントに併せ、打製石包丁による刈り取り体験イベントも実施した。

26年度以降も継続して実施する予定である。



“古代米の本格栽培にむけて…”プロジェクト
(刈り取り体験イベント)

◎社会貢献、学習支援活動

○来館学習

25年度も、小学6年生、中学1年生が学習する時期に合わせ、4～7月に企画展「きゅうおにとタイムトラベル」を開催した。24年度末より、近隣の小中学校への広報を行い、本企画展期間中の利用促進を図った。また、年度当初の小郡市校長会、6月には大刀洗町校長会において事業説明を行い、活用を促した。

企画展を活用した学習内容としては、衣食住などに視点をあて、縄文・弥生時代を比較してそれぞれの特色を読み取れるよう子どもたちに問いを投げかけて見学をさせた。

奈良時代の古大宰府の様子についての展示からは、天皇中心の政治が自分たちの暮らす地域にも及んでいたことを、税のこと、東大寺と国分寺・国分尼寺のことなど、教科書で学習する内容と結びつけて説明した。来館学習用のワークシートを作成して配布し、気づいたことや考えを記入で



「きゅうおにとタイムトラベル」来館学習

きるようにした。

また小学6年生や中学1年生のほか、東野小学校からは3年生が訪れ、地域にある施設についての学習に活用してもらった。展示室ごとに見たり、職員の説明を聞いたりして、歴史博物館にはどんなものがあるのか、どんな仕事をしているのかを調べ、自分たちの地域のどこにどんな施設があるのかをまとめる活動としての見学である。

企画展「きゅうおにとタイムトラベル」期間中以外にも、修学旅行や総合的な学習の時間などでの学校団体による利用があった。このうち大野東中学校の学習では、午前中に大宰府政庁及び大野城跡を見学し、その後来館して見学と和同開珎鑄造体験を行った。

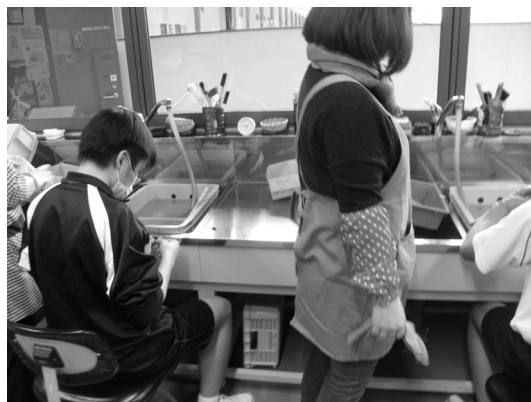
なお、25年度も小郡市埋蔵文化財調査センターと連携してプログラムを構築し、市内の小学校には両方の施設を活用してもらうことができた。

学校団体関係者の来館者総数は以下のとおりである。

来館日	学校名・学年	来館人数(名)
4月11日(木)	朝倉市立甘木小学校6年	112
4月16日(火)	小郡市立小郡小学校6年	112
5月14日(火)	小郡市立大原小学校6年	63
5月15日(水)	小郡市立のぞみが丘小学校6年(3・4・6組)	103
5月16日(木)	小郡市立のぞみが丘小学校6年(1・2・5組)	104
5月17日(金)	小郡市立東野小学校6年	61
5月21日(火)	小郡市立三国小学校6年	168
5月23日(木)	大野城市立大利小学校6年	57
5月31日(金)	小郡市立味坂小学校・御原小学校6年	44
6月4日(火)	大刀洗町立大刀洗中学校1年	163
6月5日(水)	遠賀町立浅木小学校6年	45
6月11日(火)	小郡市立東野小学校3年	47
7月10日(水)	大野城市立大野東中学校2年	147
10月22日(火)	学校法人 須磨学園中学校2年(兵庫県)	144
11月29日(金)	大野城市立御陵中学校2年	112
来館学習者総数		1,482

○中学校職場体験

25年度も、7校35名の中学生を受け入れ、職場体験を行った。館内の見学、土器の洗浄・復元、拓本、図書整理作業など博物館ならではの仕事のほか、警備、受付、清掃などいろいろな業務を体験することを通して、多くの人々の様々な仕事によって館全体の事業が成り立つことや共に働く同僚の大切さなどに気づかせ、日常生活における自分の在り方・生き方を考えさせる内容とした。



職場体験

実施日と参加学校団体は以下のとおりである。

期 間	学校名	人数(名)
6月11日(火)・12日(水)	小郡市立小郡中学校2年	5

7月2日(火)・3日(水)	太宰府市立学業院中学校2年	5
8月7日(水)・8日(木)	小郡市立三国中学校2年	6
1月21日(火)・23日(木)	大野城市立大野東中学校2年	3
1月29日(水)・30日(木)	筑紫野市立二日市中学校2年	6
2月19日(水)・21日(金)	春日市市立春日南中学校2年	5
2月26日(水)・27日(木)	筑紫野市立筑紫野南中学校2年	5
参加者合計		35

○出前授業

24年度に引き続き、太宰府市立太宰府中学校の2・3年生の「総合的な学習の時間～歴史探訪コース～」への出前学習を、九州国立博物館と連携して行った。初回ガイダンスを含め、9回中6回の出前授業に、延べ11名の職員を派遣した。各回の内容は以下のとおりである。

回数	内容	場所
第1回	ガイダンス(九州国立博物館と)	太宰府中学校
第2回	大宰府の歴史と観世音寺	観世音寺宝蔵
第3回	大宰府の歴史と万葉集	太宰府中学校
第7回	大宰府政庁跡の発掘の歴史	太宰府中学校
第8回	古代の瓦と拓本体験	太宰府中学校
第9回	九歴の古代体験	太宰府中学校

○ふくおか県政出前講座

県政の課題など、県民の希望のテーマについて県職員がわかりやすく説明する「ふくおか県政出前講座」において、県民の要請を受けて計7回の講座に赴いた。

○一般来館者対応

当館では、一般来館団体から要望のある場合に、館内案内や展示解説を行っている。歴史や社会教育関係団体、観光目的の団体をはじめ、高齢者大学やデイケアサービス団体など多種多様であり、希望される滞在時間に合わせた案内・解説を行った。

◎広報

○一般向け広報

あらゆる媒体を利用して広報を行うとともに、各種施設や機関と連携して相互広報を行った。

紙媒体を利用した広報としては、福岡県発行の広報誌をはじめ、小郡市市報などの公的機関の広報誌に情報を掲載するとともに、フリーペーパーや各種情報紙など無料掲載コーナーがある媒体を探し、情報掲載を依頼した。また、ポスターやチラシについては博物館・文化財関係機関に送付するとともに、小郡市・筑紫野市の公民館にも送付し、さらに書店や宿泊施設などを訪問して配布や掲示について依頼した。展示や事業の内容によって送付先や掲示依頼先も検討し、関連深い文化団体や歴史関係団体にも送付した。近隣の小中学校に対しては夏休みこども対象イベントのチラシに工夫をし、直接訪問して事業への参加を依頼した。

インターネットを使用した広報としては、当館のホームページを随時更新するとともに、地域メディアや全国規模の情報提供サイト、こども向け情報サイトなどを活用して、あらゆる年齢層への広域的な

情報発信を行った。また、文化施設紹介サイトや観光情報サイトを検索して情報掲載を依頼した。さらに当館を紹介しているサイトの情報を確認し、情報が古いものについて更新を依頼した。

また、県内をはじめ全国の関連施設や団体など連携し、広報資料の掲示やイベントでの配布などで相互広報することに努めた。今後は、県内各施設・機関をはじめ、恒常的に相互広報ができるシステムの構築をめざし、各施設・機関に呼びかけを行う。

○博学連携、学習支援に向けた広報

25年度は、小郡市校長会（4月）、大刀洗町校長会（6月）、久留米市校長会（6月）、筑紫地区小学校校長会（6月）、北筑後教育事務所管内教頭会（9月）、南筑後教育事務所管内教育長会（9月）での事業説明を行った。来館学習、職場体験などへの館活用促進のため11月に「活用のご案内」小学校版・中学校版を作成し、次年度の年間学習計画作成の時期に合わせて1～2月に近隣市町の小中学校、筑紫地区授業改善研究発表会（11月）、小郡市・三井郡小教研（1月）へ広報に回った。当館の展示や機能が学校教育のどの学習のねらいに合致するのかをまとめ、博物館を生かした学習に活用してもらえよう今後さらに学習支援を進めていきたい。

◎その他の共催事業

○文化財めぐり

主催：福岡県教育委員会（文化財保護課・九州歴史資料館）

期日：平成25年11月4日（月・祝） 10:00～15:00

内容：特別展「戦国武将の誇りと祈り－九州の覇権のゆくえ－」関連イベントとして、文化財めぐり「戦国の城と古戦場を歩く－岩屋城と高橋紹運－」を開催し、41名の参加があった。

コース：西鉄二日市駅東口集合→高橋紹運首塚（島津本陣跡 筑紫野市指定史跡）→観世音寺→推定金光寺跡→岩屋城跡（萩尾大学墓、伝二の丸・高橋紹運墓、伝本丸・嗚呼壮烈岩屋城碑）→大野城跡太宰府口城門（紹運辞世碑・水ノ手口石塁）→伝本丸經由・岩屋磨崖石塔→崇福寺跡（法堂跡・朝日地藏など）→西正寺（紹運菩提寺）→西鉄太宰府駅解散

○放送大学面接授業「大宰府講座」

当館では大宰府の歴史・文化を幅広く人々に知っていただくという趣旨の下に、19年度から放送大学教養学部の面接授業を実施している。25年度は「大宰府と肥後編」として、11月30日（土）・12月1日（日）の両日にわたって授業を行った。受講者数は45名であった。詳細は以下のとおりである。

【1日目】11月30日（土）

1時限：「大宰府と西海道」

（講師：九州歴史資料館 松川博一）

2時限：「鞠智城と肥後国」

（講師：熊本県教育委員会学芸員 木村龍生）

3時限：「律令期の生産活動」

（講師：九州歴史資料館 小嶋篤）

4時限：1～3時限で行われた講義の内容をもとに
筆記試験

各講義では西海道の中央に位置する肥後国を中心に取



九歴講座 in 太宰府

り上げ、大宰府と西海道諸国の関係に焦点を当てて説明した。

【2日目】12月1日（日）

1～4時限フィールドワーク：鞠智城跡・装飾古墳館・山鹿市立博物館の見学（講師：木村・小嶋）

○九歴講座 in 太宰府

「九歴講座 in 太宰府」は、太宰府市文化ふれあい館が市民と地域の研究者との情報交換・研究交流の活発化を促す目的で開講している「太宰府学講座」の一環として企画されたものであり、九州歴史資料館が、太宰府市から小郡市に移転・開館したことを機に、当館が行っている大宰府史跡等の調査研究成果を広く県民に紹介することを目的とした連携講座である。

実施日と内容、参加人数は以下のとおりである。

回数	開催日	演題・講師（所属）	受講人数 （名）
第1回	6月15日	「筑紫館・鴻臚館と『客館』」西谷 正（九州歴史資料館名誉館長）	98
第2回	7月20日	「古代大宰府の山林利用」小嶋 篤（九州歴史資料館）	63
第3回	8月17日	「大宰府と西海道国府」杉原敏之（九州歴史資料館）	87
第4回	9月21日	「古仏の殿堂・観世音寺」井形 進（九州歴史資料館）	107
受講者数総計			355

○第3回九州山岳霊場遺跡研究会「首羅山をとりまく聖なる山々―糟屋・鞍手の山岳霊場遺跡―」

主催：九州山岳霊場遺跡研究会・久山町教育委員会

共催：九州歴史資料館

後援：清水寺・清谷寺・天照皇大神宮・東禅寺・龍興寺・日本山岳修験学会・宇美町教育委員会・須恵町教育委員会・宮若市教育委員会

期日：平成25年8月17日（土）・18日（日）

参加人数：8/17：34名・8/18：180名

内容：8月17日（土）

現地研修会（清谷寺・猪野観音堂・天照皇大神宮・龍興寺・久原古銭出土地・清水寺・平山薬師堂・東禅寺）

8月18日（日）

研究集会：首羅山遺跡国史跡指定記念報告

記念報告 「首羅山遺跡―国史跡指定へのあゆみ―」（江上智恵）

研究報告 「首羅山をとりまく聖なる山々―糟屋・鞍手の山岳霊場遺跡―」

報告1 「首羅山とその周辺の渡来彫刻」（井形 進）

報告2 「宝満修験 葛城峯」（森 弘子）

報告3 「糟屋・鞍手の山の仏像」（國生知子）

報告4 「山岳霊場と山林利用の考古学的研究」（小嶋 篤）

シンポジウム「首羅山をとりまく山岳霊場遺跡を考える」

○第34回日本山岳修験学会 太宰府・宝満山学術大会

主催：日本山岳修験学会・同第34回太宰府・宝満山学術大会実行委員会・九州国立博物館

共催：九州歴史資料館・太宰府天満宮・竈門神社・（公財）太宰府顕彰会

後援：福岡県・福岡県教育委員会・筑紫野市・太宰府市・太宰府市教育委員会・久山町教育委員会・九

州山岳霊場遺跡研究会・宝満山修験会

期日：平成 25 年 10 月 26 日（土）～ 28 日（月）

内容：10 月 26 日（土） 公開シンポジウム「大宰府をめぐる山々と海彼」

10 月 27 日（日） 研究発表

10 月 28 日（月） 巡見（宝満山登山 / 若杉山・首羅山 / 雷山・脊振山 / 太宰府）

○柳川古文書館企画展「発掘された柳川」

主催：柳川古文書館

協力：柳川市・九州歴史資料館

会期：平成 25 年 7 月 3 日（水）～ 9 月 1 日（日）

内容：県立歴史資料館の連携事業の一環として、柳川古文書館で開催された企画展「発掘された柳川」の展示の一部を当館が担当した。企画展は弥生時代から江戸時代までの遺跡・考古遺物を通して、柳川の歴史や人々の暮らしの一端に触れてもらうもので、当館が調査した柳川市所在の「西蒲池池淵遺跡」「東蒲池門前遺跡」の土器やト骨、獣骨など、弥生時代後期～古墳時代初頭の資料を展示した。

また、関連事業として 8 月 8 日（木）に柳川古文書館で開催された「古代に触れよう-拓本体験-」では、大宰府史跡出土瓦の拓本作業と、当館所蔵の土器パズルなどの古代体験キットを参加者に体験していただき、21 名の参加があった。

○国際研究発表会「人文系と自然系博物館の教育連携」(AZEC2013)

主催：国際研究発表会「人文系と自然系博物館の教育連携」実行委員会

内容：海の中道海洋生態科学館（マリンワールド海の中道）が中心となって招致した第 4 回「アジア動物園教育者担当会議 (AZEC)」が、「人文系と自然系博物館の教育連携」というテーマで開催されるにあたり、人文系博物館の代表として当館が当研究発表会に参加した。（文化庁「地域と協働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」）

日程は平成 25 年 12 月 9 日（月）～ 13 日（金）までの 5 日間、ホテルルイガンズ（福岡市）を主会場として開催され、12 月 14 日（土）には、オプションツアーとして当館への見学もおこなわれた。日本人 108 人および 13 か国 115 人の計 223 人の参加者があった。日程は下記のとおりである。

12 月 9 日（月） アイスブレイク

12 月 10 日（火） 開会式、基調講演、日本伝統芸能披露、プレゼンテーションセッション①

12 月 11 日（水） プレゼンテーションセッション②、ポスター発表

12 月 12 日（木） 施設見学、ワークショップ①、共同セッション、市内自由行動

12 月 13 日（金） 施設見学、ワークショップ②、クロージングセッション、閉会式

12 月 14 日（土） オプションツアー（九州歴史資料館ほか）

○「魏志倭人伝のクニグニネットワーク」との連携

「魏志倭人伝」に登場するクニがあったとされる、福岡県・佐賀県・長崎県と 3 県内 11 の市町村が連携し、各遺跡 PR やタイアップイベントを開催する事業である。当館では、この事業と連携し、25 年度から文化情報広場に「魏志倭人伝のクニグニネットワーク」のコーナーを設けている。各県市町村や関係施設から広報資料を集め、定期的に更新を行っている。

(6) 刊行物

25年度は以下の報告書等を刊行した。

No.	書名	刊行月
1	『九州歴史資料館年報』平成24年度	6月
2	『九州歴史資料館 研究論集39』	3月
3	『九歴だより』No.37	4月
4	『九歴だより』No.38	10月
5	『九州歴史資料館開館40周年 移転開館3周年特別展 戦国武将の誇りと祈り—九州の覇権のゆくえ—』	9月
6	『九州歴史資料館第18回企画展 五卿と志士—維新前夜の太宰府—』	1月
7	『九州歴史資料館解説シート31 筑紫野地峡帯の旧石器—宗原遺跡とその周辺—』	4月
8	『九州歴史資料館解説シート32 高麗の山城—朝鮮半島に残る文化遺産—』	4月
9	『九州歴史資料館解説シート33 近世英彦山の古文書2—英彦山座主家文書の世界—』	5月
10	『九州歴史資料館解説シート34 新島襄の夢と九州—九州の篤志家に送られた2通の書簡—』	5月
11	『九州歴史資料館解説シート35 福岡のお金の歴史2000年』	6月
12	『九州歴史資料館解説シート36 福岡鉄道遺産ものがたり—鹿児島本線の歴史と戦前の旅—』	7月
13	『九州歴史資料館解説シート37 書き留められた水城と大野城—紀行文・絵画資料などにみる—』	11月
14	『九州歴史資料館解説シート38 百年前の水城調査と研究者たち』	11月
15	『九州歴史資料館解説シート39 彦山・宝満山の本末論争—近世英彦山の古文書3—』	11月
16	『九州歴史資料館解説シート40 馬～館蔵品から～』	1月
17	『九州歴史資料館解説シート41 太田静六が見た福岡の建造物—太田静六資料展—』	1月
18	『九州歴史資料館解説シート42 大宰府式鬼瓦』	1月
19	『九州歴史資料館解説シート43 なかにうまっているものは…—科学の目でみた古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線—』	3月
20	『大宰府史跡発掘調査報告書 VIII 平成24・25年度』	3月
21	『大宰府政庁周辺官衙跡V —不丁地区 遺物編2—』	3月
22	『福岡県文化財調査報告書第243集 西蒲池池淵遺跡Ⅱ』	3月
23	『福岡県文化財調査報告書第244集 延永ヤヨミ園遺跡V—4～7区』	3月
24	『福岡県文化財調査報告書第245集 宮原金山遺跡2 —鉄関連遺物・分析篇—』	3月
25	『福岡県文化財調査報告書第246集 長畑遺跡群Ⅱ地区』	3月
26	『福岡県文化財調査報告書第247集 永満寺桜馬場遺跡』	3月
27	『福岡県文化財調査報告書第248集 五ヶ山Ⅱ 東小河内遺跡』	3月
28	『福岡県文化財調査報告書第249集 福岡県の中近世城館跡Ⅰ —筑前地域編1—』	3月
29	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—9— 延永ヤヨミ園遺跡Ⅰ区の調査』	3月
30	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—10— 皆見川ノ上遺跡・カワラケ田遺跡2次調査2(Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ区)・ハッ重遺跡2次調査』	3月
31	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—11— 延永ヤヨミ園遺跡Ⅱ区2』	3月
32	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—12— 宝山小出遺跡・宝山桑ノ木遺跡・流末溝田遺跡』	3月
33	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—13— 福原長者原遺跡・福原寄原遺跡』	3月
34	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—14— 京ヶ辻遺跡1・3区・国作三角遺跡』	3月
35	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—15— 石堂大石ヶ丸の氷室・福岡菜切古墳群第2次・中村西峰尾遺跡・中村山柿遺跡第2次・松江黒部遺跡・川内下野添遺跡第1・2次・大村上野地遺跡・荒堀山田原遺跡』	3月
36	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告—16— 土佐井西遺跡・土佐井東遺跡・穴ヶ葉山南遺跡・大久保楯迫遺跡・唐原古代山城・土佐井小迫遺跡』	3月

(7) 実習・研修

◎実習

○博物館実習

25年度は6大学から10名の大学生を受け入れ、8月20日～30日の期間、下記の日程で実施した。

日程	午前	午後	担当
第1日	オリエンテーション 名誉館長講話・館の概要説明	講話「学芸員の実務」・施設見学	広報普及班・学芸研究班
第2日	歴史資料の取り扱い		学芸研究班
第3日	考古資料の取り扱い	図書資料の整理	学芸研究班
第4日	資料の保存修復と保管		保存管理班
第5日	古代体験	名誉館長講座聴講	広報普及班
第6日	美術工芸資料の取り扱い		学芸研究班
第7日	大宰府史跡の見学		調査研究班
第8日	出土資料の整理・記録		調査研究班
第9日	遺跡の調査と測量		調査研究班
第10日	博物館の保存環境	実習のまとめ・閉講式	保存管理班・広報普及班

参加した実習生の在籍校および人数は以下のとおりである。

大学名	学部名	学科名	受講者数(名)
福岡大学	人文学部	歴史学科	2
福岡女子短期大学		文化コミュニケーション学科	2
西南学院大学	経済学部	経済学科	1
筑紫女学園大学	文学部	日本語・日本文学科	2
首都大学東京	都市教養学部	都市教養学科	1
長崎国際大学	人間社会学部	国際観光学科	2

○高校生インターンシップ

高校生に職業体験の機会を提供し、勤労観・職業観を養い、職業選択能力を伸長する事業である。高校教育課より委託を受けて7月23日～25日の期間に実施し、また県立三井高等学校から独自に依頼を受けて7月31日～8月2日に実施した。

25年度は、6校、8名の生徒を受け入れた。研修の日程及び内容は以下のとおりである。

日程	午前	午後
第1日	開講式、オリエンテーション、館内見学	業務内容説明(総務室・警備・空調)、図書整理
第2日	図書整理、清掃業務	遺物整理、受付業務、イベント・講座会場設営
第3日	古代体験、討議、報告書作成、閉講式	

参加研修生の在籍校及び参加人数は以下のとおりである。(学年はいずれも第2年生)

期日	学校名	参加人数(名)
7月23日～25日	博多青松高校(2)、筑紫丘高校(3)、城南高校(1)、太宰府高校(1)、三池高校(1)	8
7月31日～8月2日	三井高校(2)	2



高校生インターンシップ

(8) 交流事業

◎日韓学術文化交流事業

福岡県教育委員会では、アジア文化交流センターからの執行委任事業として、百済・新羅の調査研究を行っている韓国国立文化財研究所との間で職員の相互派遣による学術交流事業を行っている。25年度は当館学芸調査室の職員を派遣した。

○韓国国立文化財研究所への職員派遣

期間：平成26年2月23日（日）～3月12日（水）（18日間）

派遣職員：学芸調査室学芸研究班技術主査 井形 進

研修内容：統一新羅時代から高麗時代にかけて造像された、寺院に所在している仏像を主対象とし、各時代各地域の代表的な作例、展覧会等では見られない大型の作例、銘文をもった基準作を中心に、調査ないしは拝観と撮影とを行った。また、九州西側に偏在する中国渡来の石塔である薩摩塔の研究に関連して、韓国の石塔についても調査と撮影を行った。国立文化財研究所においては、「薩摩塔—九州西側に偏在する中国製石塔—」と題して研究発表と意見交換を行った。

主な訪問先

【慶尚北道】浮石寺 泥川洞石仏 鳳停寺 軍威三尊石窟 桐華寺 国立大邱博物館 国立慶州博物館
国立慶州文化財研究所 仏国寺 石窟庵 菩提寺 南谷塔谷磨崖仏 九政里方形墳 掘仏
寺 栢栗寺 芬皇寺 皇龍寺址 文武大王陵 感恩寺址 祇林寺

【慶尚南道】海印寺 聖宝博物館 通度寺 内院寺 雙磎寺

【忠清北道】国立文化財研究所

【忠清南道】牙山石造薬師如来立像 申庵寺 瑞山磨崖仏 礼山花田里四面石仏 長谷寺 大鳥寺 灌
燭寺 開泰寺

【全羅北道】実相寺 禅院寺 万福寺址 石仏寺 弥勒寺址

【全羅南道】華巖寺 燕谷寺 宝林寺 道岬寺 国立海洋文化財研究所

【京畿道】万奇寺 曹溪寺 仏教中央博物館 国立中央博物館 徳寿宮

○韓国国立文化財研究所からの研究員派遣

期間：平成26年3月14日（金）～31日（月）18日間

派遣研究員：韓国国立文化財研究所研究企画課研究員 卓 京柏

研修内容：百済の尼寺に関する検討のための九州管内遺跡等の視察

○講演・帰国報告会

期日：平成26年3月24日（月）

会場：九州歴史資料館研修室

講演：卓 京柏 （韓国国立文化財研究所研究企画課研究員）「百済の尼寺に関する検討」

加藤和歳 （九州歴史資料館文化財調査室保存管理班長）「韓国保存科学事情 2013」

(9) 協議会等

◎九州歴史資料館協議会

平成25年7月5日（金）に森会長ほか13名の委員及び各分館長が出席して協議会を開催した。

○協議・報告事項

- 1 平成24年度事業報告及び入館者数状況報告
- 2 平成25年度事業計画及び予算概要協議

九州歴史資料館協議会委員名簿

平成25年4月1日現在

	氏名	所属
(会長)	森 醇一郎	久留米大学比較文化研究所客員教授
(副会長)	正平 辰男	純真短期大学食物栄養学科特任教授
委員	木村 甚治	太宰府市教育委員会教育長
	八尋 郁子	大野城市立下大利小学校長
	難波 洋三	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長
	清武 輝	小郡市教育委員会教育長
	藤口 悦子	鍋島報効会徴古館主任学芸員
	河上 信行	河上建築事務所所長
	今津 節生	九州国立博物館博物館科学課長
	塚本 桂子	小郡市立三国中学校長
	佐古 和枝	関西外国語大学国際言語学部教授
	柴田 博子	宮崎産業経営大学法学部教授
	福田 千鶴	九州産業大学国際文化学部教授
	緒方 知美	筑紫女学園大学文学部専任講師

◎ 福岡県立歴史資料館連絡協議会

25年度は、7月5日（金）に教育庁総務部文化財保護課及び3分館（甘木歴史資料館・求菩提資料館・柳川古文書館）出席のもとに、九州歴史資料館で開催された。

各館の平成24年度事業経過および平成25年度事業計画の報告に続いて、事前に各館から提出された協議事項及び聴取事項について討議した。

◎ 移動教育委員会

平成25年8月1日（木）に県教育委員会教育委員（住吉委員長ほか4名）、県教育委員会事務局（杉光教育長ほか10名）による標記委員会が当館で開催された。その後、館内視察及び当館職員との意見交換が行われた。

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿革

昭和 43 年 7 月 1 日	大宰府史跡発掘調査指導委員会が発足し、第 1 回委員会が開催される。
昭和 44 年 9 月 5 日	福岡県が、九州歴史資料館設置計画の基本構想を発表
昭和 46 年 3 月 8 日	太宰府天満宮が九州歴史資料館・国立博物館用地として社有地約 14 万㎡を寄贈 福岡県は九州歴史資料館を建設することとし、建設工事に着手
昭和 47 年 3 月	建設工事竣工（落成式）
昭和 47 年 4 月	「福岡県公の施設及び管理に関する条例」に基づき九州歴史資料館設置 「九州歴史資料館組織規則」制定 副館長以下 19 名発令
昭和 47 年 5 月	鏡山猛、初代館長に就任
昭和 47 年 11 月	「九州歴史資料館協議会規則」制定（委員 15 名を委嘱）
昭和 48 年 2 月	「九州歴史資料館の利用に関する規則」制定
2 月 24 日	九州歴史資料館開館（展示室一般公開始まる）
昭和 49 年 8 月	求菩提資料館開館
昭和 53 年 10 月	大宰府史跡発掘調査 10 周年記念特別展「一甦る遠の朝廷—大宰府」開催
昭和 56 年 4 月	田村圓澄、第二代館長に就任
昭和 59 年 2 月	開館 10 周年記念特別展「国宝観世音寺鐘・妙心寺鐘とその時代」開催 開館 10 周年記念シンポジウム「古代の西海道と大宰府」開催
昭和 60 年 4 月 1 日	「九州歴史資料館条例」施行 求菩提資料館・甘木歴史資料館・柳川古文書館を分館とする
昭和 60 年 5 月 25 日	甘木歴史資料館開館
昭和 60 年 10 月 1 日	柳川古文書館開館
昭和 63 年 9 月	大宰府史跡発掘調査 20 周年記念特別展「発掘が語る遠の朝廷—大宰府」開催
平成 2 年 9 月	「とびうめ国体」の本県開催に並行し、特別展「古代の福岡」開催（～ 11 月）
平成 5 年 4 月	吉久勝美、第三代館長に就任
平成 5 年 10 月	開館 20 周年記念特別展「日本の鬼瓦」開催
平成 8 年 4 月	高橋良平、第四代館長に就任
平成 9 年 6 月	福岡県教育委員会教育長 光安常喜、九州歴史資料館長に兼務発令
平成 10 年 10 月	大宰府史跡発掘調査 30 周年記念特別展「大宰府復元」開催
平成 14 年 4 月	福岡県教育委員会教育長 森山良一、九州歴史資料館長に兼務発令
平成 15 年 1 月	開館 30 周年企画展示「大宰府へ、こころが動き、ものが動く」開催
平成 15 年 8 月	特別展「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」開催
平成 16 年 4 月	特別展「大宰府へ、くになが動き、ものが動く」開催
平成 18 年 11 月	特別展「観世音寺」開催
平成 20 年 4 月	西谷 正、第七代館長に就任 組織規則の一部改正；課制を廃止し、室・班制とする 小郡市三沢に新九州歴史資料館建設工事着手
平成 20 年 10 月	大宰府史跡発掘調査 40 周年記念事業開催（～ 12 月） 『都府楼』刊行記念講演会、シンポジウム、企画展示など
平成 21 年 6 月	新九州歴史資料館建設工事竣工

平成 22 年 3 月	特集展示「九歴の歩み」開催
平成 22 年 7 月	組織移転（太宰府市→小郡市）
平成 22 年 11 月 20 日	開館記念式典・一般公開開始（21 日～） 特別展「大宰府－その栄華と軌跡－」開催（～ 1 月）
平成 22 年 12 月	開館記念シンポジウム「大宰府と西海道－古代の役所と人々の暮らし－」開催
平成 23 年 2 月	常設展公開開始
平成 23 年 4 月	文化財調査室（文化財調査班、保存管理班）設置
平成 23 年 11 月	特別展「発掘された日本列島 2011」開催（～ 12 月）
平成 24 年 1 月	移転開館 1 周年記念企画展「北部九州の霊山と経塚」開催（～ 2 月）
平成 24 年 10 月	特別展「長崎街道－世界とつながった道－」開催（～ 12 月）
平成 25 年 1 月	企画展「聖地四王寺山」開催（～ 3 月）
平成 25 年 4 月	荒巻俊彦、第八代館長に就任 学芸調査室に広報普及班設置、学芸普及班は学芸研究班に名称変更、総務室に総務班設置
平成 25 年 9 月	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念特別展（～ 11 月） 「戦国武将の誇りと祈り－九州の覇権のゆくえ－」開催
平成 25 年 10 月	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念イベント開催
平成 26 年 1 月	企画展「五卿と志士－維新前夜の太宰府－」開催（～ 2 月）

（2）施設概要

1) 本館棟	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、地上 2 階 展示室、図書閲覧室、研修室、会議室、保存科学諸室、文化財整理諸室、特別収蔵庫、図書収蔵庫、調査研究室、写真室、文化情報広場
2) 敷地面積	43,438.62 m ²
3) 延床面積	9,475.92 m ²
4) 一般収蔵庫棟	鉄骨造 木器保存処理室・一般収蔵庫
5) 建設費	約 36 億円（本館・一般収蔵庫）

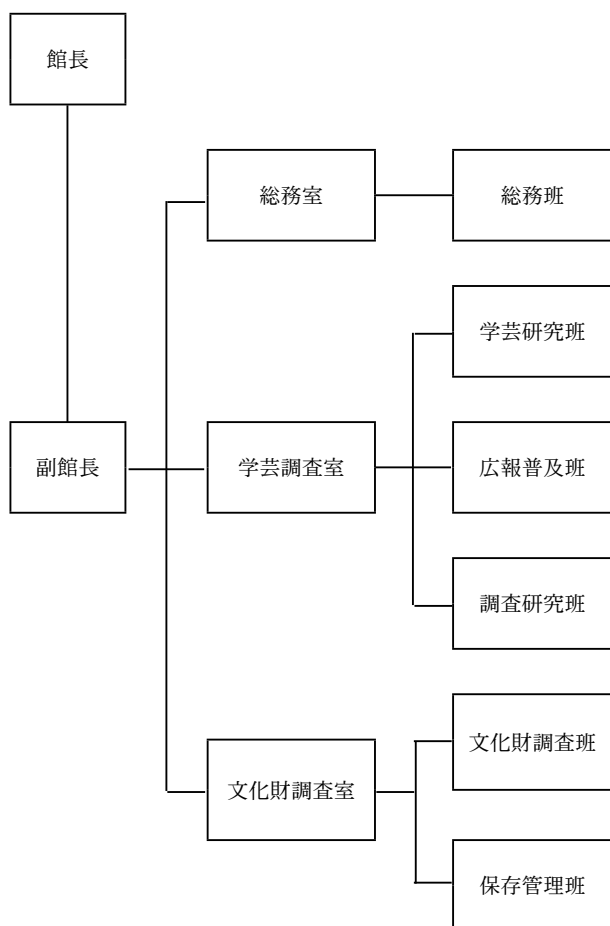
（3）予算

九州歴史資料館の事業費総額は 407,118 千円で、内訳別にみると次のとおりである。

1 九州歴史資料館費	124,977 千円
資料館運営費	119,646 千円
資料館展示費	2,401 千円
歴史資料等収集整備費	1,013 千円
歴史資料調査研究費	1,917 千円
2 文化財保護費	282,141 千円
大宰府史跡発掘調査費	21,619 千円
発掘調査受託費	260,522 千円
※執行委任事業は除く	

(4) 組織・職員 (平成 25 年 4 月 1 日現在)

①九州歴史資料館



所 属	職 名	氏 名	摘 要		
館 長		荒巻 俊彦	非常勤		
副館長		篠田 隆行			
総務室	企画主幹		圓城寺 紀子 総務室長		
	総務班	企画主査	長野 良博		
		事務主査	青木 三保		
		事務主査	南里 成子		
		主 事	三好 洸一		
		技能員	松本 優		
	学芸調査室	企画主幹		小田 和利 学芸調査室長	
		学芸研究班	技術主査	松川 博一	
			技術主査	井形 進	学芸研究班長
			技術主査	岡寺 良	
主任技師			一瀬 智		
主任技師			渡部 邦昭		
広報普及班		技術主査	齋部 麻矢	広報普及班長	
		指導主事兼事務主査	朝山 陽一郎		
		指導主事兼事務主査	園田 芳雅		
調査研究班		技術主査	杉原 敏之	調査研究班長	
		主任技師	下原 幸裕		
		主任技師	岡田 論		
文化財調査室		参事		飛野 博文 文化財調査室長	
	企画主幹		吉村 靖徳 文化財調査室長補佐		
	文化財調査班	技術主査	小川 泰樹	文化財調査班長	
		技術主査	秦 憲二		
		技術主査	小沢 佳憲		
		主任技師	坂本 真一		
		主任技師	城門 義廣		
	保存管理班	技術主査	加藤 和歳	保存管理班長	
		参事補佐	池辺 元明		
		技 師	小林 啓		

②九州歴史資料館研究論集委員会

委員長	館 長 荒巻 俊彦		
委 員	副館長 篠田 隆行	委 員	調査研究班長 杉原 敏之
委 員	学芸調査室長 小田 和利	委 員	学芸研究班長 松川 博一

(5) 関係法規

○九州歴史資料館条例

(昭和 60 年 1 月 21 日福岡県条例第 4 号)

(設置)

第 1 条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 30 条の規定に基づき、歴史資料の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、併せてこれを展示し、もって文化財の保護と文化財愛護思想の普及に資するため、歴史資料館を設置する。

(名称及び位置並びに分館の設置)

第 2 条 歴史資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
九州歴史資料館	小郡市

2 九州歴史資料館に分館を置き、その名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
求菩提資料館	豊前市
甘木歴史資料館	朝倉市
柳川古文書館	柳川市

(利用の承認等)

第 3 条 福岡県公の施設の設置及び管理に関する条例(昭和 39 年福岡県条例第 5 号)第 3 条から第 6 条まで及び第 9 条の規定は、九州歴史資料館の利用の承認等について適用する。この場合において、第 4 条第 1 項中「知事若しくは委員会から公の施設の管理に関し委任を受けた者」とあるのは、「指定管理者」と読み替えるものとする。

(九州歴史資料館協議会)

第 4 条 博物館法(昭和 2 6 年法律第 2 8 5 号)第 2 0 条第 1 項の規定に基づき、九州歴史資料館協議会(次項及び第六 6 項において「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下この条において単に「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

3 委員の定数は、1 5 人以内とする。

4 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 前各項に定めるもののほか、協議会に関し必要な

事項は、教育委員会規則で定める。

(使用料)

第 5 条 九州歴史資料館を利用する者は、別表第 1 各表の区分に応じ、当該各表に掲げる金額の使用料を納めなければならない。

2 前項の規定により納付した使用料は、還付しない。ただし、規則で定める場合に該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(手数料)

第 6 条 資料の複写を依頼しようとする者は、別表第 2 の区分に応じ、同表に掲げる金額の手数料を納めなければならない。

(使用料又は手数料の減免)

第 7 条 知事は、規則で定める場合に該当するときは、使用料又は手数料を減額し、又は免除することができる。

(適用除外)

第 8 条 前 3 条の規定は、第 2 条第 2 項に規定する分館(以下単に「分館」という。)については、適用しない。

(指定管理者による管理)

第 9 条 分館の管理に関する業務のうち次に掲げるものは、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 3 項の規定により、法人その他の団体であって教育委員会が指定する者(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

一 分館の利用の許可に関する業務

二 分館の諸施設の維持及び保守に関する業務

三 前 2 号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務

(指定管理者の指定の手続)

第 1 0 条 指定管理者の指定を受けようとする者は、教育委員会規則で定める申請書に、次に掲げる書類を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

一 事業計画書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会規則で定める書類

2 教育委員会は、前項の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当する者の中から最も適切に分館の管理を行うことができると認めた者を指定管理者として指定するものとする。

一 事業計画の内容が、住民の平等な利用を確保することができるものであること。

二 事業計画の内容が、分館の効用を最大限に発揮させるとともに、効率的な管理ができるものであること。

三 分館の管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基盤を有しているものであること。

四 法令並びに関係条例及び規則の規定を遵守し、適正な管理ができるものであること。

五 その他教育委員会が分館の設置の目的を達成するために必要と認めるものとして別に定める事項

3 教育委員会は、指定管理者の指定をしたとき、及び指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公示するものとする。

(秘密保持義務)

第11条 指定管理者及び分館の管理に関する業務に従事する者(以下「従事者」という。)は、個人情報適切に保護されるよう配慮するとともに、分館の管理に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、又は指定を取り消され、及び従事者の職務を退いた後においても、同様とする。

(協議)

第12条 この条例に定めるもののほか、管理に要する経費その他必要な事項は、教育委員会と指定管理者が協議して定める。

(規則への委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則(抄)

(施行期日)

この条例は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則(平成24・3・28・条例第33号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表第1(第5条関係)

1 九州歴史資料館が主催して展示する歴史資料館の観覧料

区 分	金額(1回につき)	
個人で観覧する場合	一 般	200円
	大学生・高校	150円
20人以上の団体で観覧する場合	一 般	150円
	大 学 生・	100円

備考

1 この表において「大学生・高校生」とは、大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期課程、専修学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

2 この表において「一般」とは、大学生・高校生及び中学生(中学校、中等教育学校の前期課程又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。)以外の者であって、15歳以上の者をいう。

2 展示室の使用料

区 分	金額(1日につき)	
入場料を徴収しない場合	第2展示室	3,360円
	第4展示室	8,140円
入場料を徴収する場合	第2展示室	5,040円
	第4展示室	12,210円

3 会議室及び研修室の使用料

区 分	金額(1時間につき)
会議室	370円
研修室1	370円
研修室2	370円
研修室3	370円

備考 使用時間に1時間に満たない端数があるときは、当該端数を1時間として計算する。

別表第2(第6条関係)

区分	金額(1枚につき)
電子式複写(白黒)	10円
マイクロフィルムからの引き伸ばし	10円

○九州歴史資料館の利用、指定管理者の指定等に関する規則

(昭和48・2・20教育委員会規則第4号)

最終改正平成22・6・教育委員会規則第10号

(目的)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。)第13条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の利用、指定管理者の指定等について定めることを目的とする。

(休館日)

第2条 資料館の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日にあたる場合は、その日後においてその日に最も近い休日でない日

二 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、九州歴史資料館長等(分館にあつては指定管理者。以下「館長等」という。)

が必要と認めた場合は、臨時に休館又は開館することができる。ただし、この場合は、館長等がその都度あらかじめ日時を公示しなければならない。

3 前項の規定により、指定管理者が分館を臨時に休館又は開館しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

(開館時間)

第3条 資料館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館は、午後4時までとする。

2 館長等は、特別の事情があるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。

3 前項の規定により、指定管理者が分館の開館時間を変更しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

(利用の申込)

第4条 資料館(分館を除く。)の展示室、会議室及び研修室を利用しようとする者は、別に定める利用申込書を、事前に九州歴史資料館長に提出しなければならない。

(利用申込の取消又は変更)

第5条 前条の申込みをした者が、利用を中止し、又は利用内容を変更しようとするときは、直ちに九州歴史資料館長にその旨を通知しなければならない。

(利用の承認)

第6条 九州歴史資料館長は、第4条の使用申込が提出されたときは、速やかにこれを審査して使用の承認又は不承認を決定し、申込者に通知しなければならない。

(資料の複写)

第7条 資料の複写を必要とする場合は、九州歴史資料館長が別に定めるところにより、これを依頼することができる。ただし、次の各号の一に該当する場合は、九州歴史資料館長は、複写を認めないことがある。

一 著作権法(昭和45年法律第48号)に違反するおそれがあると認められるとき。

二 資料館の管理上支障があると認められるとき。

三 その他九州歴史資料館長が複写を不相当と認めたとき。

2 前項の複写は、九州歴史資料館に設置された複写機器により行うものとする。

(利用制限)

第8条 館長等は、次の各号の一に該当すると認められる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

一 他人に迷惑をかけ、展示品又は施設設備を損傷するおそれがあると認められる者

二 その他係員の指示に従わない者

(資料の館外貸出し)

第9条 資料の館外貸出しは、原則として行なわないものとする。ただし、博物館、図書館、学校、官公署、その他館長等が適当と認めたものに対しては、この限りでない。

2 前項ただし書に掲げるものが資料の館外貸出を受けようとする場合は、別に定めるところにより、館長等の許可を受けなければならない。

3 資料の館外貸出しを受けたものは、館長等の指示するところにより、管理に当らなければならない。

4 館外貸出しを受けた資料は、これを他に転貸してはならない。

5 資料の貸出期間は、品目によって館長等がその都度定めるものとする。

(損害の賠償)

第10条 観覧者、利用者又は資料の館外貸出しを受けたものが、自己の責に帰すべき理由により、施設設備、展示品又は資料を損傷し、又は滅失したときは、館長等の指示を受けてこれを原形に復し、又は館長等が定める相当の代価をもって損害を賠償しなければならない。

(寄贈又は寄託)

第11条 資料館は、資料の寄贈又は寄託をうけることができる。

2 資料館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、別に定めるところにより、館長等にその旨申出のものとする。

3 館長等が寄贈又は寄託を受けることを決定した場合は、本人にこの旨を通知するものとする。

(寄贈資料の取扱い)

第12条 寄贈を受けた資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を標記し、永くその篤志を伝えるものとする。

(寄託資料の取扱い)

第13条 寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)の寄託期間は、その都度館長等が寄託者と協議して定めるものとする。

2 寄託資料は、資料館所蔵の資料と同一の取扱いとする。

3 寄託資料は、寄託者の請求又は資料館の都合によりこれを返還することがある。

4 寄託資料が天災その他不可抗力によって滅失又は

損傷したときは、資料館は損害賠償の責を負わない。

(申請書及び添付書類)

第14条 条例第10条第1項の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第10条第1項第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。

- 一 同種の施設の管理及び運営に係る活動実績報告書
- 二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類

(その他)

第15条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、館長等が別に定める。

附 則

この規則は、昭和48年2月24日から施行する。

附 則(平成22・6・30教育委員会規則第10号)

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

○九州歴史資料館組織規則

(昭和47.4.1教育委員会規則第2号)

最終改正：平成23.3.教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第3条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の組織その他必要な事項を定めるものとする。

(職員の職)

第2条 資料館職員の職として、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

館 長	教育長の命を受け、資料館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副理事	上司の特命に係る事務を処理する。
副館長	館長を補佐し、館長が不在のとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
参 事	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
参事補佐	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
企画主幹	上司の命を受け、企画・調整等に関する事務に関し、館長又は副館長を補佐する。
指導主事	上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
社会教育主事	上司の命を受け、社会教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
企画主査	上司の命を受け、調査、計画立案等の事務を処理する。
事務主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、事務を処理する。
技術主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、技術を処理する。
	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項を処理する。

主任主事	上司の命を受け、複雑な事務をつかさどる。
主任技師	上司の命を受け、複雑な技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について複雑な専門的事項をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
技 師	上司の命を受け、技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる。
主任技能員	上司の命に従い、高度な技能を要する労務に従事する。
技能員	上司の命に従い、労務に従事する。

(所掌事務)

第3条 資料館の所掌事務は、次のとおりとする。

一 古文書、典籍等の収集、保管、調査及び研究に関すること。

二 美術工芸品、民俗資料等の収集、保管、調査及び研究に関すること。

三 古文書、典籍、美術工芸品、民俗資料等の展示及び文化財愛護思想の普及に関すること。

四 考古資料の収集、保管、調査及び研究に関すること。

五 考古資料の展示に関すること。

六 歴史資料の科学的保存処理に関すること。

七 史跡の発掘調査及び研究に関すること。

八 史跡に関する歴史資料の収集、保管、調査、研究、展示及び整備に関すること。

九 公印の管守並びに職員の身分及び服務並びに文書の收受、発送、編集及び保存、公文書の開示等に関すること。

十 予算並びに税外諸収入の収入並びに経費の支出並びに物品の出納及び保管並びに現金及び有価証券等の保管に関すること。

十一 九州歴史資料館協議会に関すること。

十二 職員の研修及び福利厚生に関すること。

十三 施設設備の管理に関すること。

十四 埋蔵文化財の発掘調査受託事業等の事務に関すること。

十五 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

(補則)

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館協議会規則

(昭和 60. 3. 30 教育委員会規則第 4 号)

最終改正 平成 24. 3. 教育委員会規則第 1 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和 60 年福岡県条例第 4 号)第 4 条第 1 項に規定する九州歴史資料館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第 2 条 協議会に、会長及び副会長各 1 名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によるものとし、任期は 1 年とする。ただし、再選することができる。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第 3 条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。

2 資料館の館長は、必要と認めるときは、会長に協議会の招集を求めることができる。

(議決)

第 4 条 協議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き議決することができない。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可決同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第 5 条 協議会の庶務は、九州歴史資料館において処理する。

(補則)

第 6 条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営及び会議に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則(抄)

(施行期日等)

1 この規則は、昭和 60 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日において九州歴史資料館協議会委員に任命されている者については、別に辞令が発せられない限り改正後の九州歴史資料館協議会規則(以下「改正後の規則」という。)第四条の規定により任命されたものとみなし、当該委員の期間は改正後の規則第五条の規定による委員の期間に通算する。

附則(平成 20 年教育委員会規則第 5 号抄)

(施行期日)

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

○九州歴史資料館の使用料及び手数料に関する規則

(平成 22. 6. 30 福岡県規則第 30 号)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、九州歴史資料館条例((昭和 60 年福岡県条例第 4 号。以下「条例」という。))に規定する九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の使用料及び手数料に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収時期)

第 2 条 使用料(条例第 5 条第 1 項の使用料をいう。以下同じ。)は、資料館の利用の承認の際に徴収する。ただし、国又は地方公共団体が利用する場合にあっては、当該利用の後に徴収することができる。

(使用料の還付)

第 3 条 条例第 5 条第 2 項ただし書の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 天災地変その他資料館の利用の承認を受けた者の責めに帰することができない場合 当該利用に係る使用料の全額

二 前号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合

知事が必要と認める額

(手数料の徴収時期)

第 4 条 手数料(条例第 6 条の手数をいう。以下同じ。)は、資料の複写の依頼を受けるときに徴収する。

(使用料及び手数料の減免)

第 5 条 条例第 7 条の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額又は免除(「以下「減免」という。)をする使用料又は手数料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒が教育上の目的のために教職員に引率されて観覧(資料館が主催して展示する歴史資料の観覧をいう。以下同じ。)をする場合 当該観覧に係る観覧料(条例別表第一の一の表の観覧料をいう。以下同じ。)の全額

二 学校教育法に規定する幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校又は特別支援学校の幼児、児童又は生徒を教育上の目的のために引率する教職員が観覧をする場合

当該観覧に係る観覧料の全額

三 児童福祉施設（児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条第1項に規定するものをいう。以下同じ。）に入所又は通所している少年（同法第4条第3号に規定する少年をいう。

以下同じ。）が教育上の目的のために児童福祉施設の職員に引率されて観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

四 児童福祉施設に入所又は通所している幼児（同法第4条第2号に規定する幼児をいう。）又は少年を教育上の目的のために引率する児童福祉施設の職員が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

五 学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

六 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

七 療育手帳制度要綱（昭和48年9月27日厚生省発児第156号）に規定する療育手帳（以下単に「療育手帳」という。）の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

八 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

九 福岡県男女共同参画センター、福岡県人権啓発情報センター及び福岡県総合福祉センターの設置及び管理に関する条例施行規則（平成8年福岡県規則第55号）第9条第5号に規定する身体障害者、療育手帳の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令（昭和25年政令第155号）第6条第3項に規定する1級若しくは2級の精神障害者（以下「障害者」と総称する。）の介護人が当該障害者とともに観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

十 65歳以上の者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

十一 県又は県教育委員会の主催する行事の用に供するため、入場料を徴収して展示室、会議室又は研修室

（以下「展示室等」という。）の使用をする場合 当該使用に係る使用料の50パーセントに相当する額

十二 前号の用に供するため、入場料を徴収しないで展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十三 学校教育法第1条に規定する学校が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十四 地方公共団体が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十五 県の機関が資料の複写を依頼する場合 当該複写に係る手数料の全額

十六 前各号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合 知事が必要と認める額

（減免の申請）

第6条 前条第一号から第四号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する引率をする者は、九州歴史資料館観覧料免除申請書（様式第1号）を知事に提出しなければならない。

2 前条第五号から第十号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する者（前条第九号に該当する場合にあっては、障害者）は、これらの号に該当することを証明することができる書類を資料館の職員に提示しなければならない。

3 前条第十一号から第十四号までのいずれかに該当する場合の使用料の減免を受けようとする者は、九州歴史資料館使用料減免申請書（様式第2号）を知事に提出しなければならない。

4 前条第十五号に該当する場合の手数料の免除を受けようとする者は、九州歴史資料館複写手数料免除申請書（様式第3号）を知事に提出しなければならない。

5 前条第十六号に該当する場合の使用料又は手数料の減免を受けようとする者は、別に指示する方法により申請しなければならない。

附 則

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

3 諸統計

(1) 入館者状況

ア 平成 25 年度入館者状況

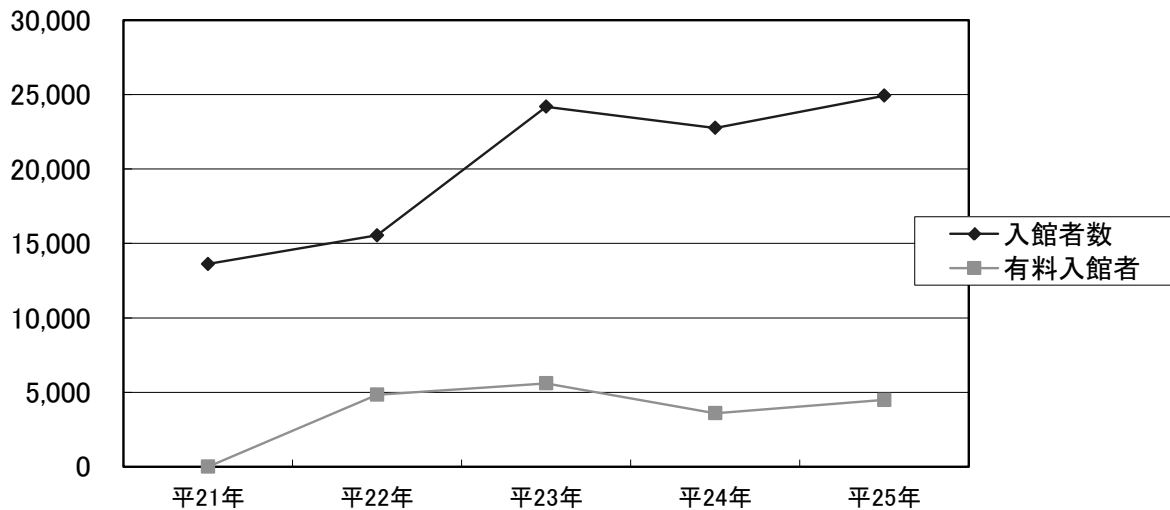
期 間	開館日数	入館者数	1日平均入館者数
平成 25 年 4 月 1 日から 平成 26 年 3 月 31 日まで	305 日	24,926 人	82 人

イ 過去 5 年間の入館者状況

年度区分	開館日数	合計入館者数	合計有料入館者数	合計入館者内訳				1日平均入館者数
				大人	大学生	高校生	中学生以下	
平 21	301	13,623	0	10,688	306	92	2,537	45
年度区分	開館日数	合計入館者数	合計有料入館者数	合計入館者内訳			1日平均入館者数	
				大人	高大生	中学生以下		
平 22	106	15,544	4,835	13,397	709	1,438	147	
平 23	308	24,186	5,600	20,341	751	3,094	79	
平 24	306	22,767	3,596	19,237	460	3,070	74	
平 25	305	24,926	4,485	21,168	507	3,251	82	

ウ 過去 5 年間の入館者推移

単位・人



(2) 収蔵資料・図書

<寄贈等資料>

考古資料 287,110 点
歴史資料 111,373 点

<図 書>

購 入 4,155 冊
寄 贈 153,626 冊

4 日 誌 抄

月 日	内 容
平成 25 年 4 月 9 日 (火)	第 14 回企画展「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくりー」 (～7月15日(月))
5月26日(日)・31日(金)	クテ打組紐講座復習編・クテ打組中級編
28日(火)・30日(木)	文化財安全パトロール(京築地域・南筑後地域)
7月5日(金)	県立歴史資料館連絡協議会 九州歴史資料館協議会
7日(日)	きゅうれき七夕イベント (なぎなた演武・クラシックコンサート・機織体験)
17日(水)	第 15 回企画展「発掘速報展 2013」(～9月29日(日))
21日(日)・28日(日)	きゅうれき絵画教室
25日(木)・26日(金)	ナイトミュージアム in きゅうれき 一夜の博物館を体験しようー
8月1日(木)	移動教育委員会 こども考古学体験教室 2013
22日(木)・23日(金)	なるほど!!こども歴史教室 「福岡のお金歴史 2000 年」「福岡鉄道ものがたり」
29日(木)	大宰府史跡整備指導委員会
9月3日(火)	九州北部三県姉妹遺跡連絡協議会
7日(土)	第 15 回企画展関連講座「調査報告会 2013」
26日(木)	水城・大野城・基肄城築城 1350 年実行委員会
10月1日(火)	第 16 回企画展「いろいろな目で見てみたら…ーみんなで描いた九歴の收藏品ー」 (～11月17日(日))
10月14日(月)	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念イベント (秋月林流抱え大筒、裏千家茶会、琴演奏、ギャラリートーク)
17日(木)・18日(金)	大宰府史跡調査研究指導委員会
31日(木)・11月1日(金)	大規模遺跡調査連絡協議会
11月3日(日)	特別展記念講演会「戦国大名と連歌」
19日(火)	第 17 回企画展「水城・大野城調査研究事始め」(～1月13日(月))
12月7日(土)	第 17 回企画展記念講演会「大宰府都城研究の現在」
平成 26 年 1 月 5 日 (日)	第 18 回企画展「五卿西竄 150 年ー五卿と志士ー維新前夜の太宰府ー」 (～2月16日(日))
2月1日(土)	第 18 回企画展「五卿と志士」講演会
3月8日(金)	「太田静六が見た福岡の建造物～太田静六建築資料展～」講演会
3月23日(日)	考古学体験教室 2014

福岡県行政資料	
分類記号 J H	所属コード 2117104
登録年度 2 6	登録番号 0001

九州歴史資料館年報（平成 25 年度）

発 行 日 平成 26 年 7 月 22 日

編 集 ・ 発 行 九州歴史資料館
〒 818 - 0106

福岡県小郡市三沢 5208 - 3

T E L 0942-75-9575

F A X 0942-75-7834

ANNUAL BULLETIN
OF
KYUSHU HISTORICAL MESEUM
2 0 1 3

CONTENTS

Preface	
1 2013 Report of Kyushu Historical Museum	1
(1) Survey and Research	1
(2) Exhibition	22
(3) Item Available	31
(4) Volunteer	36
(5) Educational Activities	39
(6) Published matter	52
(7) Practice and Training Opportunities	53
(8) Scientific Exchanges	54
(9) Conference and Meeting Facilities	55
2 Organization of Kyushu Historical Museum	56
(1) History	56
(2) Building and Grounds	57
(3) Budget	57
(4) Organization Chart and Staff	58
(5) Rules and Regulations	59
3 Statistics of Kyushu Historical Museum	65
(1) Museum Visitors	65
(2) Total Materials and Books	65
4 Outline of 2013 Activities	66